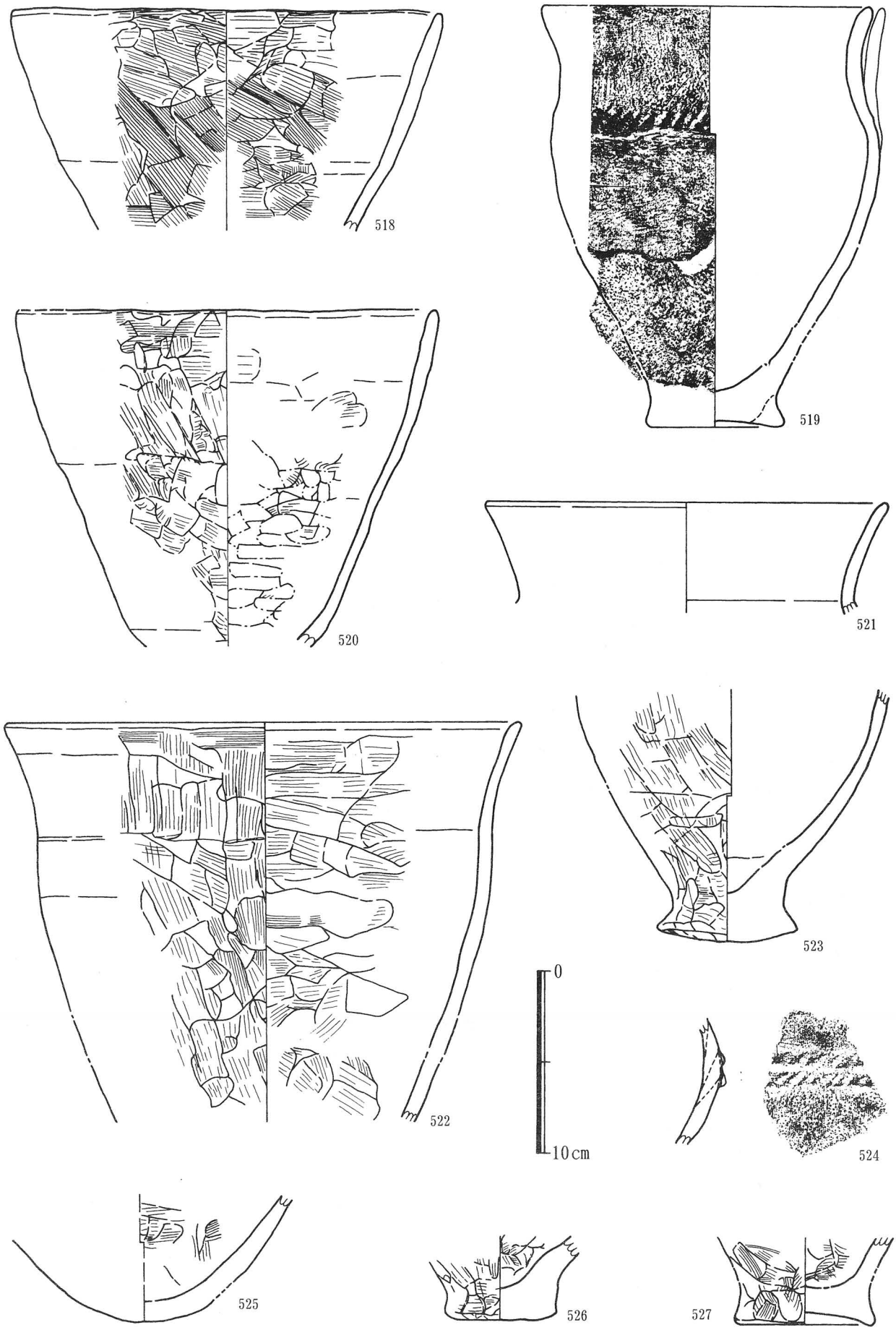
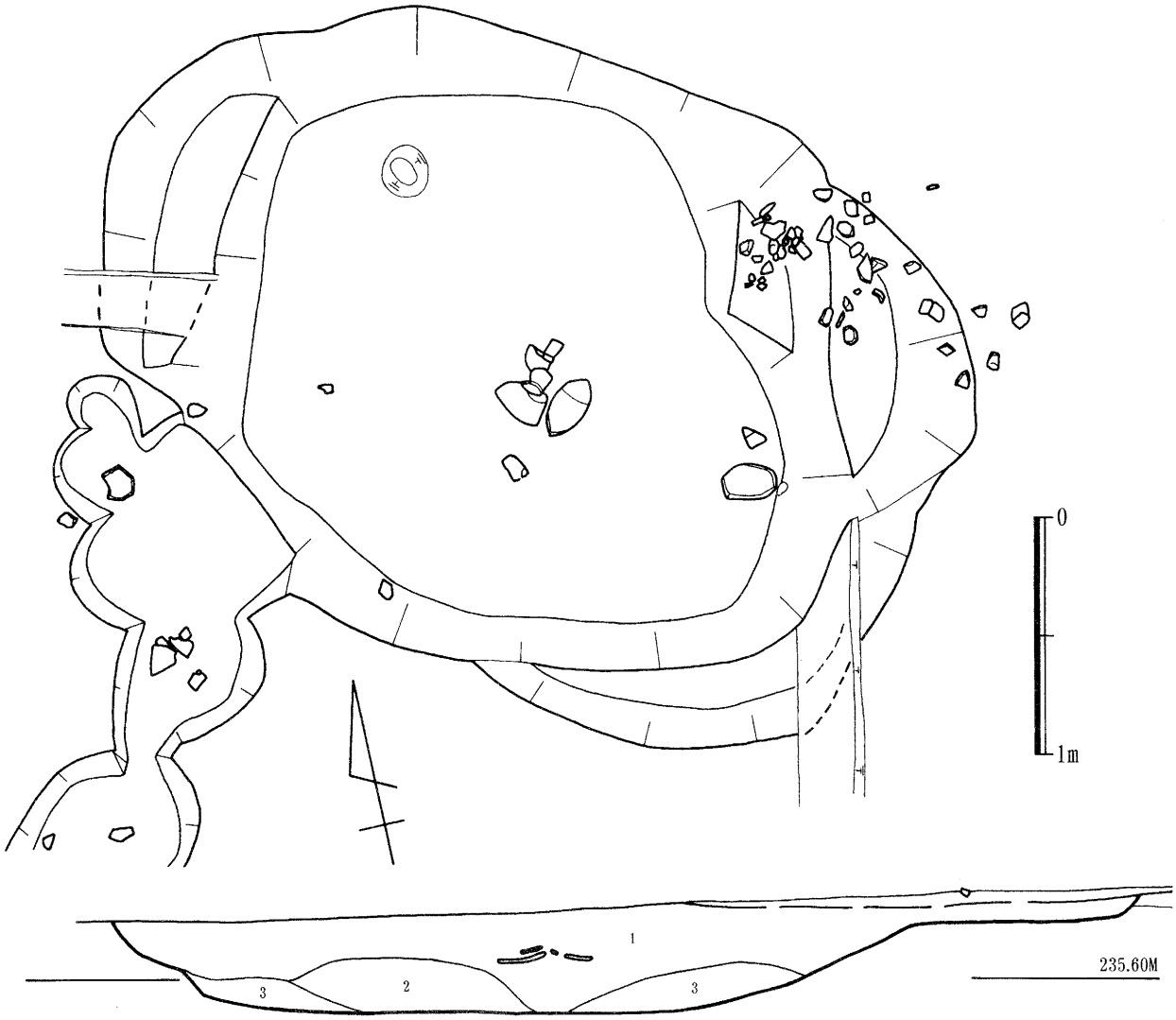


第104図　ＳＫ-41　出土遺物実測図

表37　ＳＫ-41出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第104図 518	ＳＫ-41	甕	233	—	—	工具ナデ	工具ナデ・ハケ	粗細砂・小礫少量	ややあまい	橙～淡黄・黒斑	淡橙褐～淡黄褐	
519	ＳＫ-41	甕	180～187	77	232	ハケ～工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂多量	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐	茶灰～淡茶褐～茶橙～暗灰褐	両面：マメツ
520	ＳＫ-41	甕	229	—	—	粗工具ナデ	ナデ	粗細砂・白色粒少量	ややあまい	淡灰黄～淡黄褐	淡黄褐～淡褐	内面：オコゲ少量
521	ＳＫ-41	甕	218	—	—	—	—	粗細砂多量	ややあまい	淡橙褐～淡黄	淡黄褐～桃褐	両面：マメツ
522	ＳＫ-41	甕	280	—	—	ハケ	ハケ・工具ナデ(境は不明瞭)	微細砂少量	ややあまい	淡褐～淡茶灰・黒斑	淡黄褐～淡茶灰	
523	ＳＫ-41	甕	—	77	—	粗工具ナデ	—	微細砂多量小礫少量	ややあまい	淡橙黄～淡黄褐底：淡灰～暗灰	淡橙褐～淡黄褐・黒斑	内面：マメツ
524	ＳＫ-41	壺	—	—	—	工具ナデ	—	微細砂・赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙褐～黄褐	淡黄褐	内面：マメツ
525	ＳＫ-41	甕	—	—	—	—	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡灰褐・黒斑	淡黄褐	外面：マメツ 内面：オコゲ少量
526	ＳＫ-41	甕	—	62	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い粗砂少量	良	淡桃褐～淡灰黄	淡黄褐～暗灰	
527	ＳＫ-41	甕	—	78	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・小礫少量	良	淡黄～淡橙	淡黄褐～淡橙褐	

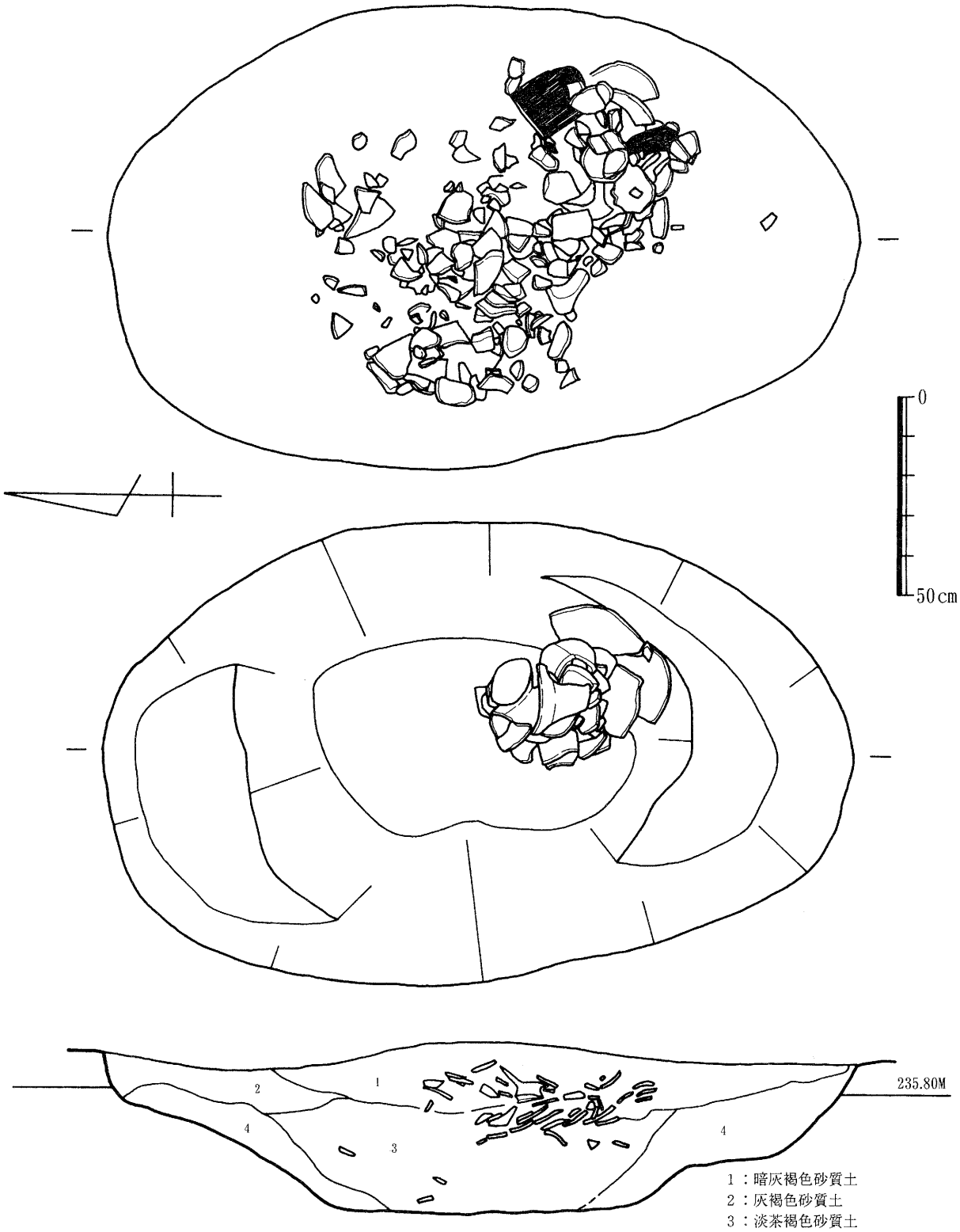


1：暗茶灰色～暗灰褐色砂質土　　2：灰褐色＋淡黄灰色砂質土　　3：淡茶褐色＋淡黄褐色砂質土

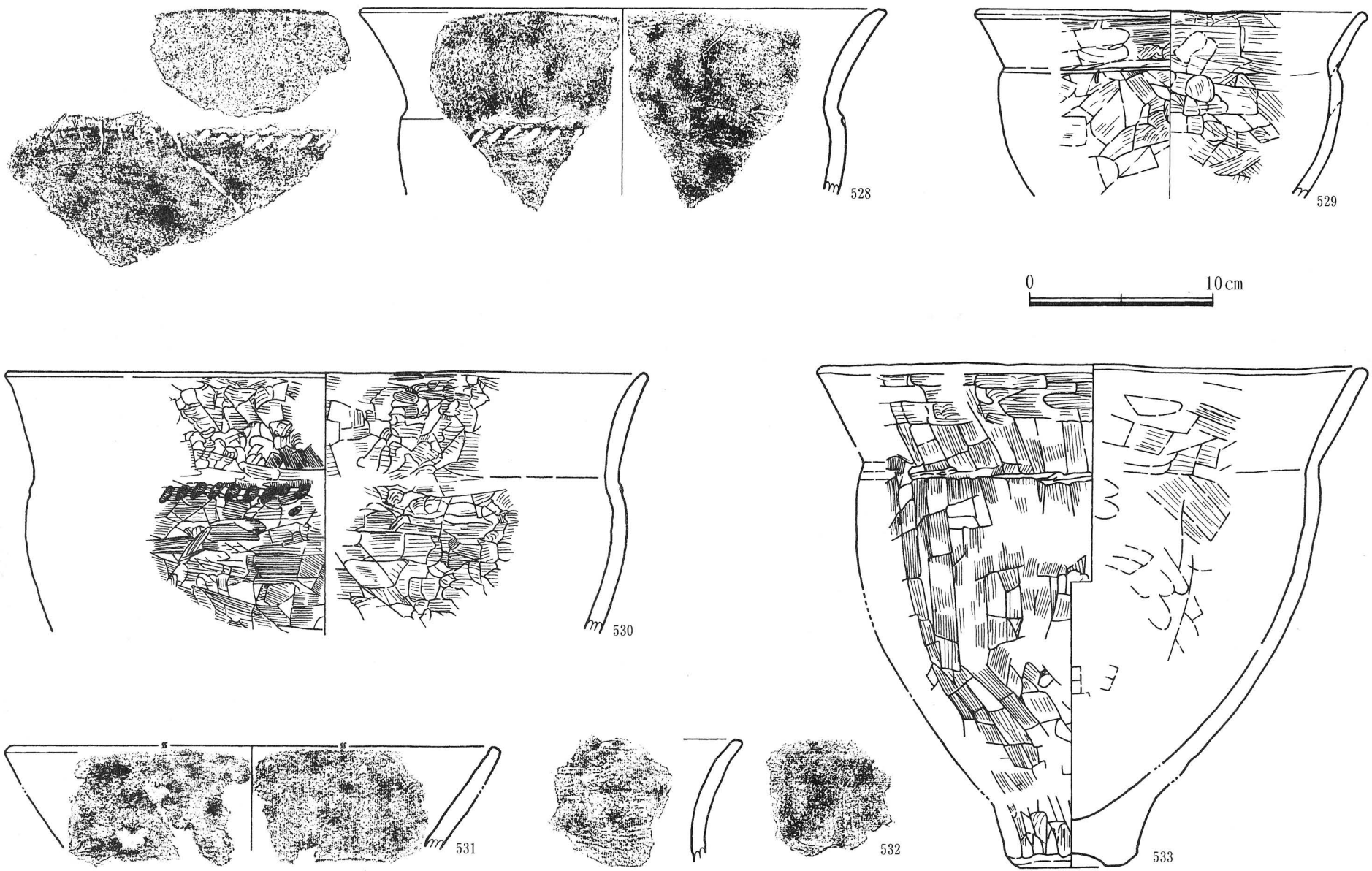
第105図　ＳＫ-47　遺物出土状態・遺構実測図

ＳＫ-44（第110図）　09号住居の西80cmに位置した、長径81cm・短径68cmの楕円形を呈し、深さは28cmを測る。出土遺物は炭化材のほか土器片が少量（第113図-567～570）である。

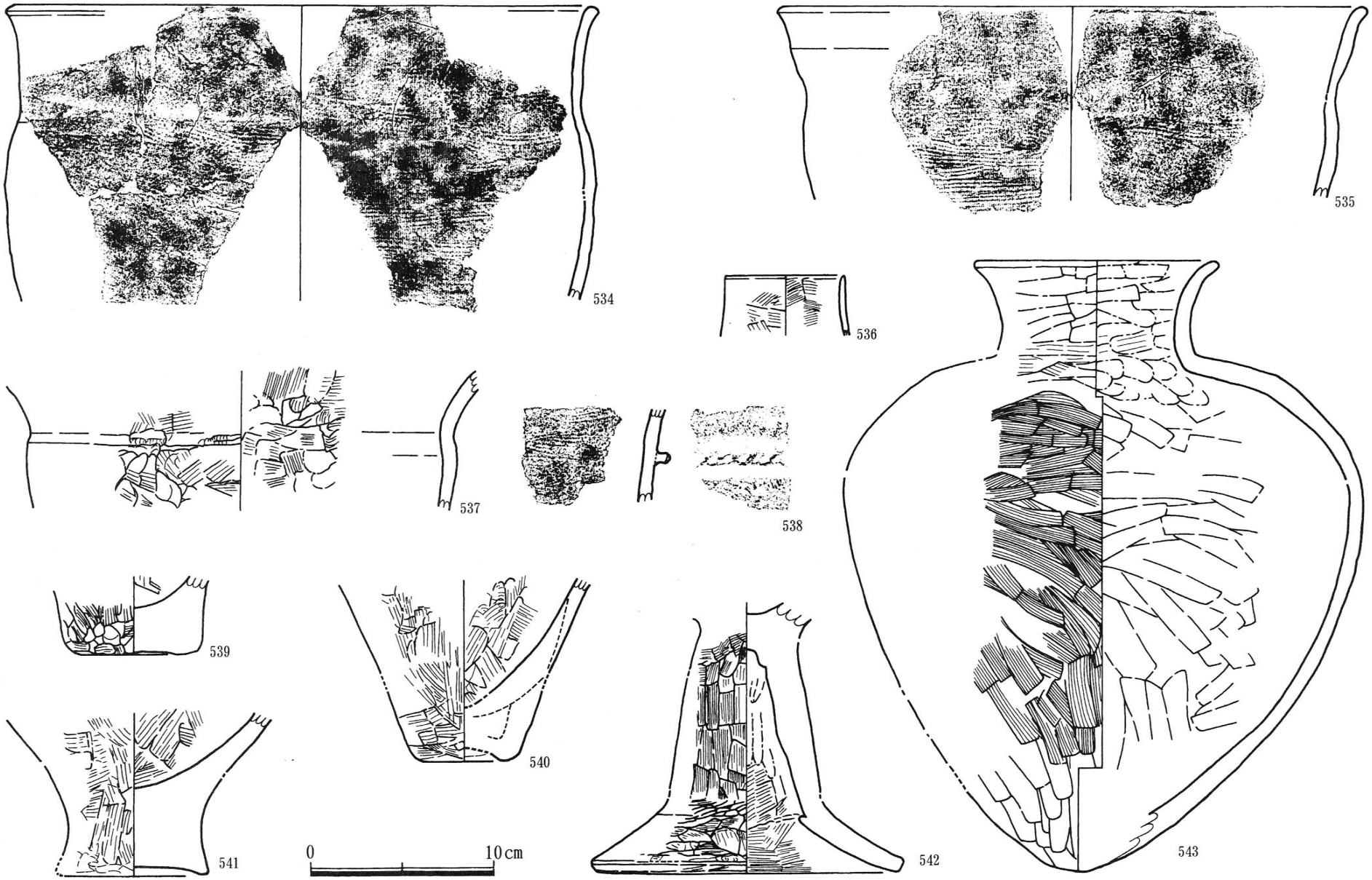
ＳＫ-45（第110図）　調査区の北東部、02号道路跡の南側に位置した、長径76cm・短径70cmの略円形を呈し、深さは20cmを測る。出土遺物は少量（第113図-571・572）ある。



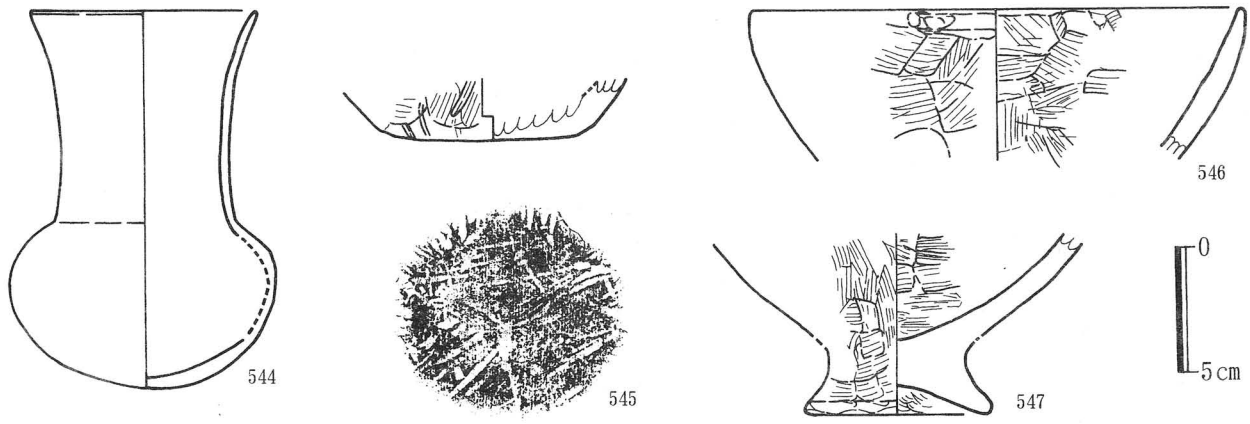
第106図　ＳＫ-80　遺物出土状態・遺構実測図



第107図　ＳＫ-80　出土遺物実測図（１）



第108図　ＳＫ-80　出土遺物実測図（２）



第109図　ＳＫ-80　出土遺物実測図（３）

表38　ＳＫ-80出土遺物観察表

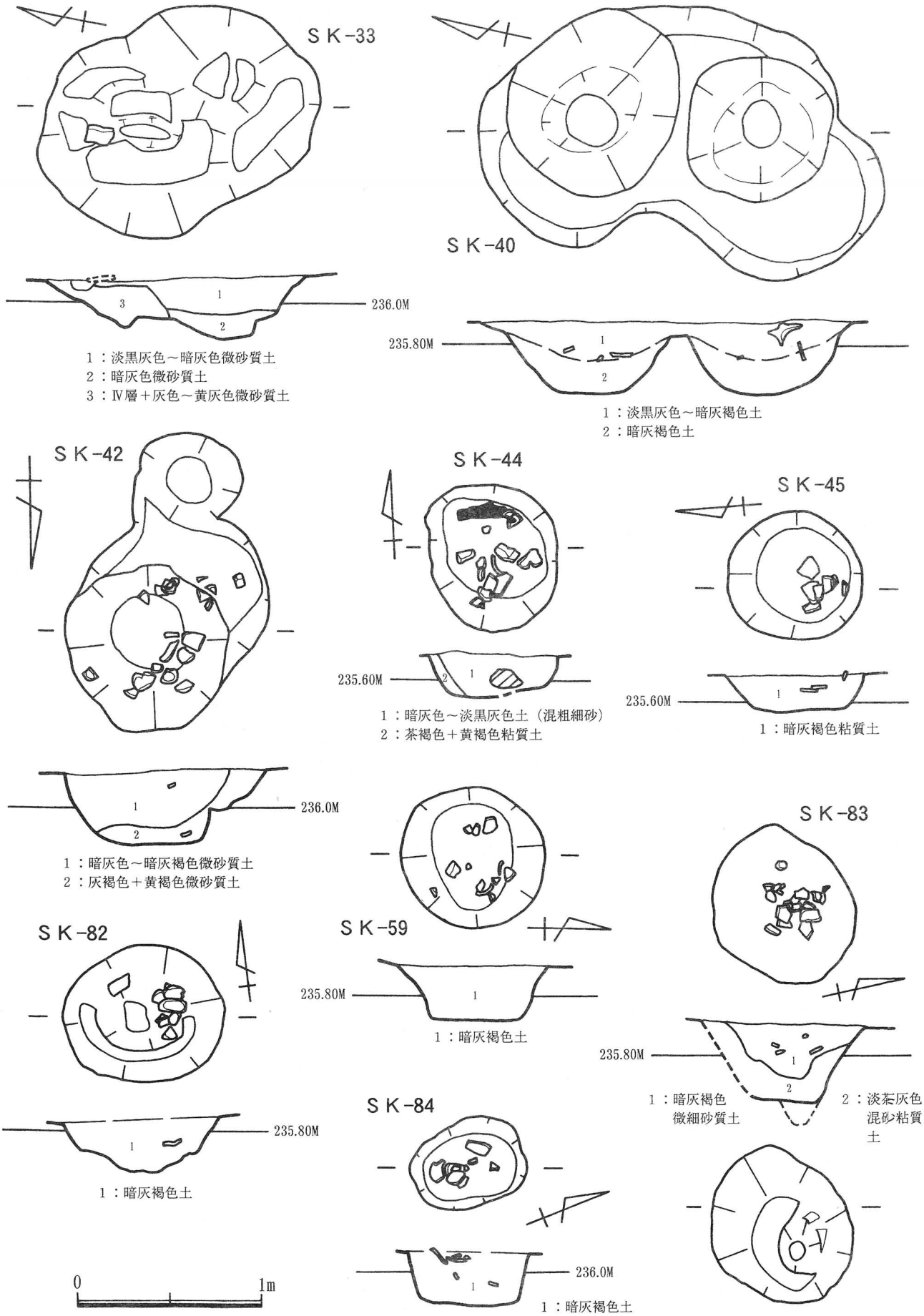
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第107図 528	ＳＫ-80	甕	286	—	—	ハケ	工具ナデ	細砂やや多い	良	淡灰褐～淡黄褐	淡茶灰～淡黄灰	
529	ＳＫ-80	甕	213	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡灰黄～暗灰	淡黄灰～淡黄褐	
530	ＳＫ-80	甕	350	—	—	ハケ	ハケ	微細砂やや多い 粗砂少量	良	淡茶褐～灰褐	淡茶褐～暗灰褐	
531	ＳＫ-80	甕	270	—	—	ナデ～工具ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡褐～淡灰褐	淡黄褐～淡灰褐	
532	ＳＫ-80	甕	—	—	—	工具ナデ	粗ハケ	粗細砂少量	良	淡褐	淡褐	
533	ＳＫ-80	甕	300	72	277	ハケ	丁寧工具ナデ	微砂少量	良	淡褐～淡黄褐	淡橙褐～淡褐	
第108図 534	ＳＫ-80	甕	324	—	—	工具ナデ・ハケ	工具ナデ～ 粗工具ナデ～ハケ	粗細砂少量 小礫微量	良	淡黒褐～淡茶褐	淡茶褐～褐	
535	ＳＫ-80	甕	322	—	—	ナデ～ ハケ・ナデ	工具ナデ～ハケ	粗細砂少量	良	暗褐～淡黒褐	淡茶褐～灰褐	
536	ＳＫ-80	壷	66	—	—	工具ナデ (半ミガキ)	工具ナデ	微細砂微量	あまい	淡黄褐	淡橙黄	外面：マメツ
537	ＳＫ-80	甕	—	—	—	工具ナデ→ 粗工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂少量	良	淡褐～淡褐灰	淡黄褐～灰褐	
538	ＳＫ-80	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂少量	良	茶褐～褐	淡茶褐～褐	
539	ＳＫ-80	甕	—	70	—	工具ナデ～ナデ	強い粗工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄灰～茶褐	淡茶褐～茶褐	
540	ＳＫ-80	甕	—	54	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐～淡茶灰	淡灰褐～淡褐	
541	ＳＫ-80	甕	—	85	—	工具ナデ	工具ナデ 一部半ミガキ状	微砂多量、粗細砂・茶褐色粒少量	良	淡黄褐～淡灰褐	暗灰～淡黒灰	
542	ＳＫ-80	高坏	—	170	—	ハケ～半ミガキ ～工具ナデ	工具ナデ～ ナデ～ハケ	微砂・ 赤褐色少量	ややあまい	淡褐～暗灰	淡黄褐～淡灰褐	
543	ＳＫ-80	壷	136	—	331	ナデ～工具ナデ ～ハケ	ナデ～工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙褐～ 淡茶灰・黒斑	淡橙褐～淡褐	
第109図 544	ＳＫ-80	小型丸底壷	89	—	156	丁寧工具ナデ	ナデ	良	あまい	淡橙黄～淡灰黄	淡黄褐～淡黄灰	外面：マメツ
545	ＳＫ-80	壷	—	64	—	粗工具ナデ	—	粗細砂少量	ややあまい	淡黄褐・黒斑	淡黄	
546	ＳＫ-80	鉢	195	—	—	工具ナデ	ナデ・工具ナデ	粗細砂少量	良	灰褐～淡灰褐	淡黄灰～ 淡黄褐・黒斑	
547	ＳＫ-80	鉢	—	76	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄褐～淡茶灰	淡褐～暗灰褐	

ＳＫ-59（第110図）　09号住居の５ｍ西に位置した、直径73～82cmの円形土坑である。深さは、29cmを測る。

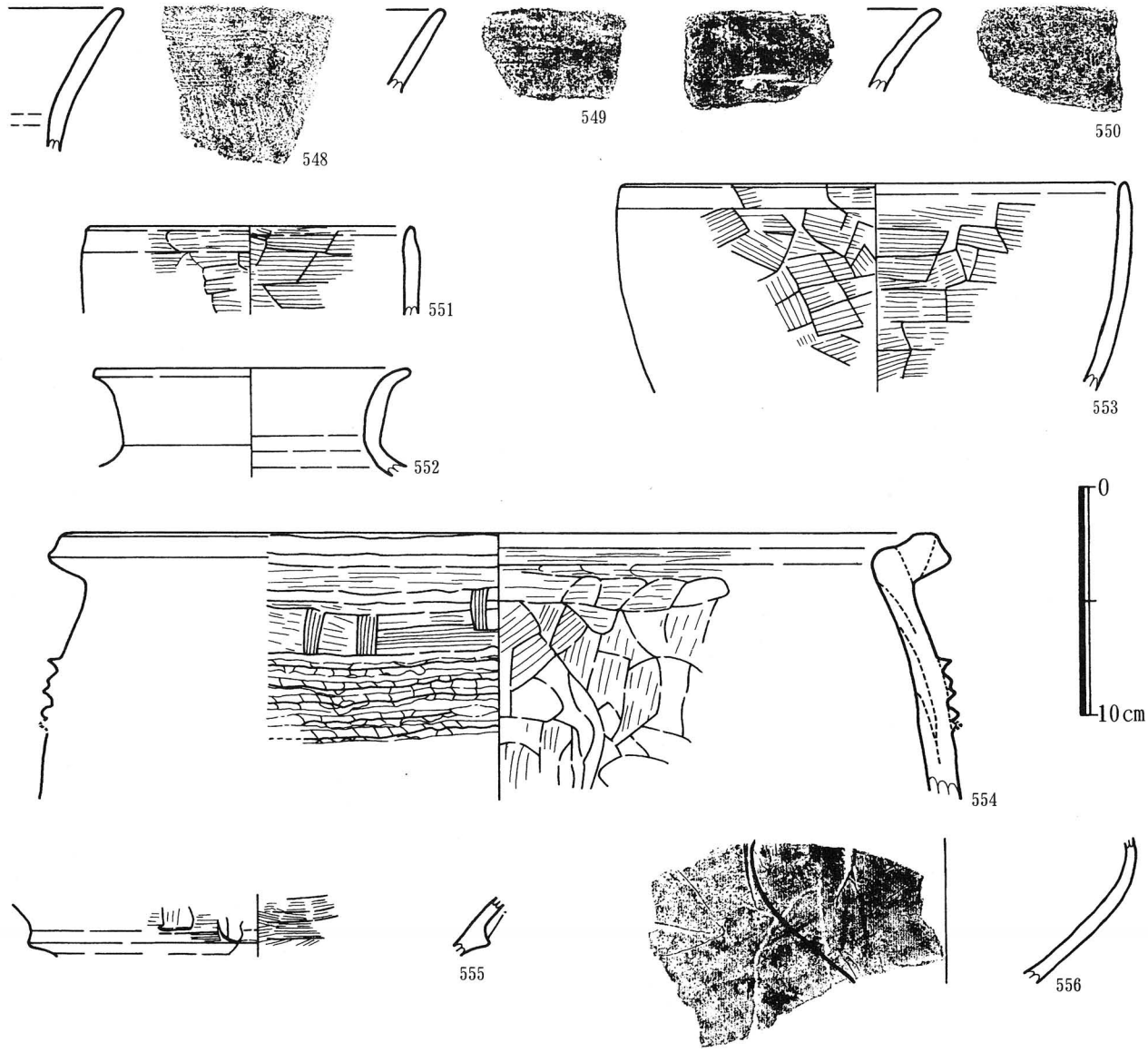
ＳＫ-82（第110図）　80号土坑の南西に接した、長径86cm・短径76cmの楕円形土坑で、最深部は30cmを測る。出土遺物としては鉢型土器１点（第109図-583）があり、底部に穿孔がある。

ＳＫ-83（第110図）　15号住居の東１ｍに位置した、長径84cm・短径74cmの楕円形を呈する土坑で、深さは34～39cmを測る。底面東側には、直径24cm・深さ14cmの小pitがある。出土遺物としては甕・鉢（584～586）などがあり、その殆どは上層から出土している。

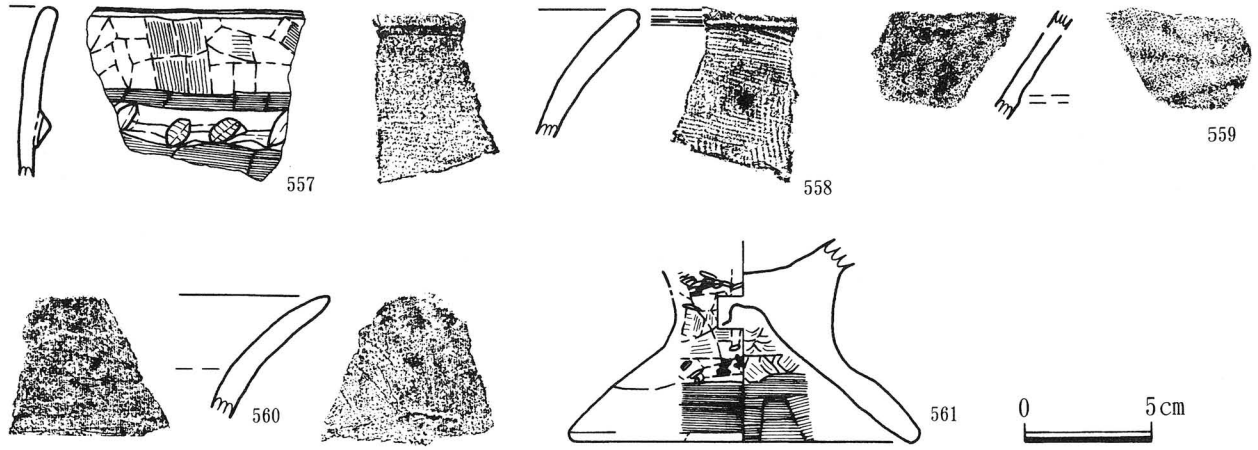
ＳＫ-84（第110図）　15号住居の南３ｍに位置した、長径62cm・短径47cmの楕円形を呈する土坑で最深部は29cmを測る。



第110図　SK-33・40・42・44・45・59・82～84　遺構実測図



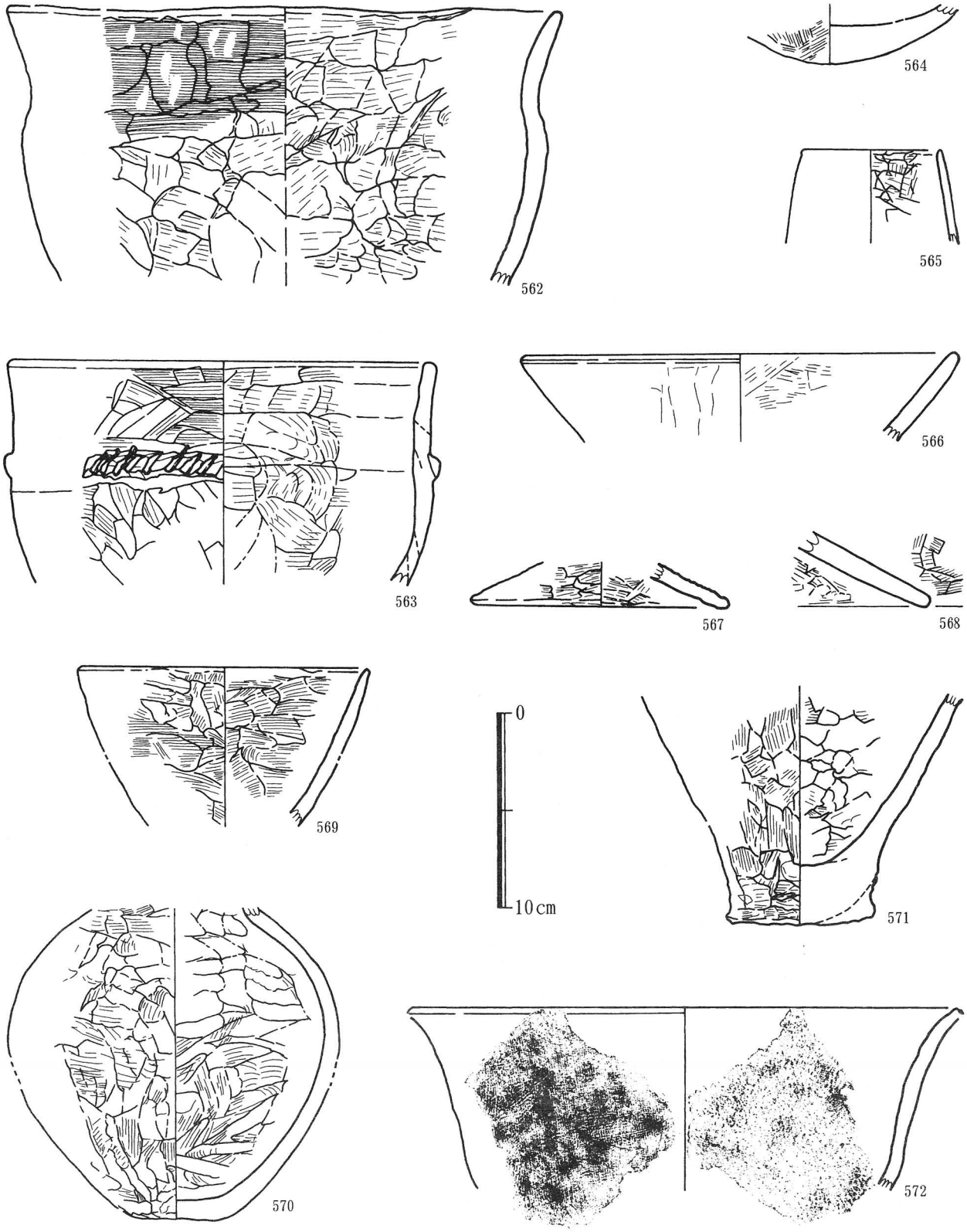
第111図　ＳＫ-32・33・34・38　出土遺物実測図　**548～553**：SK-32　**554**：SK-33　**555**：SK-34　**556**：SK-38



第112図　ＳＫ-40　出土遺物実測図

ＳＫ-85（第115図）　84号土坑の南西３ｍに位置した、長径1.07ｍ・短径0.72ｍの楕円形を呈する土坑で、深さは18～24㎝を測る。出土遺物としては甕（589・590）等がある。

ＳＫ-96（第115図）　15号住居の南12ｍ・16号住居の北12ｍに位置した、１辺1.3～1.56ｍの隅丸方形を呈する土坑で、深さ５㎝前後・幅30～40㎝のテラスと、１段（18㎝前後）落ちる楕円形の穴



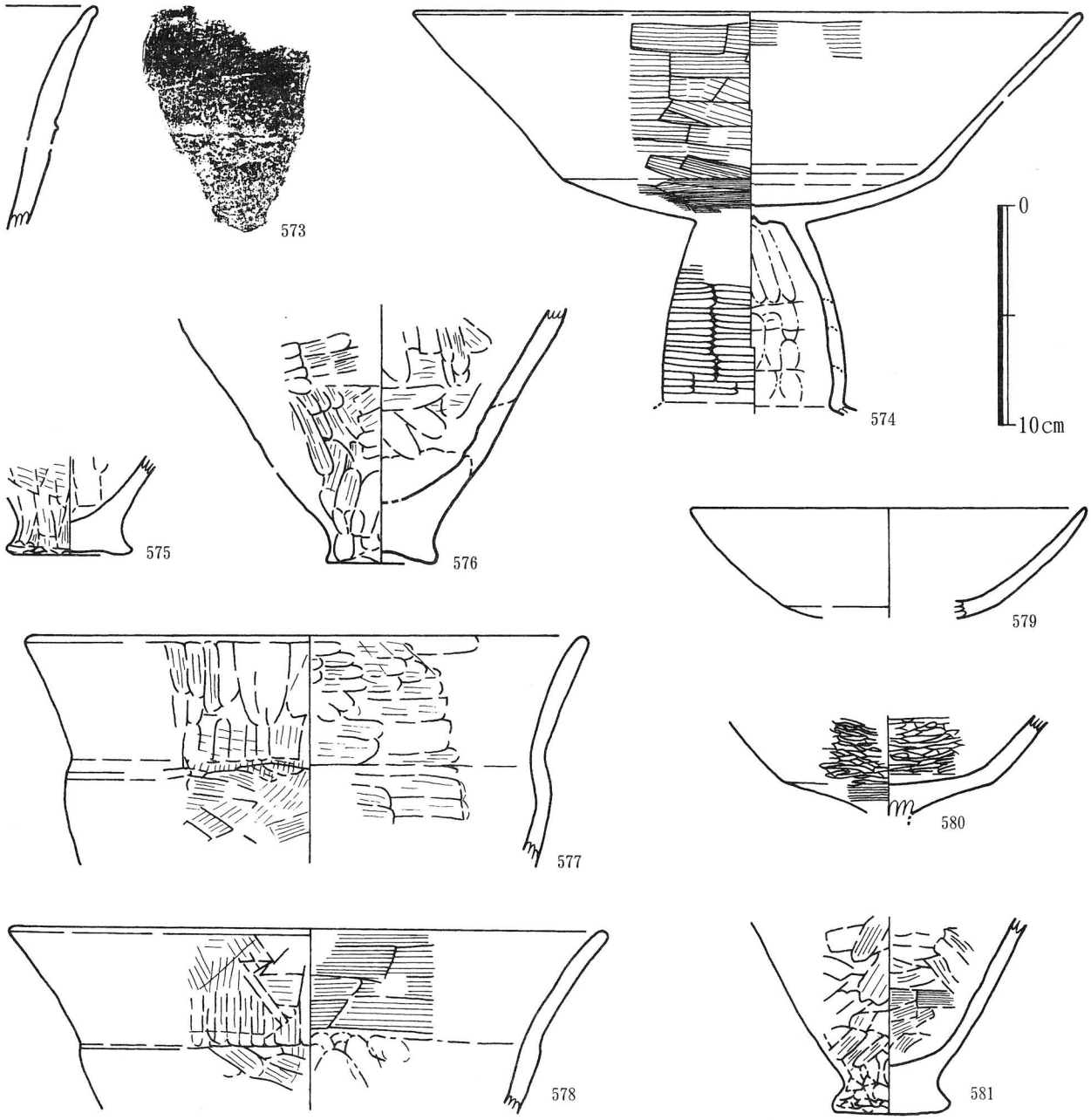
第113図　ＳＫ-42～45　出土遺物実測図　562～564：SK-42　565・566：SK-43　567～570：SK-44　571・572：SK-45

がある。

ＳＫ-98（第115図）　97号土坑（直径80～88㎝・深さ12㎝）に切られた、長径1.35ｍ・短径1.05ｍ前後の楕円形土坑で、深さは19～24㎝を測る。

ＳＫ-118（第115図）　03号住居の南40㎝に位置した、長径74㎝・短径66㎝の楕円形土坑に、幅40㎝・深さ９～15㎝の張り出しがある。

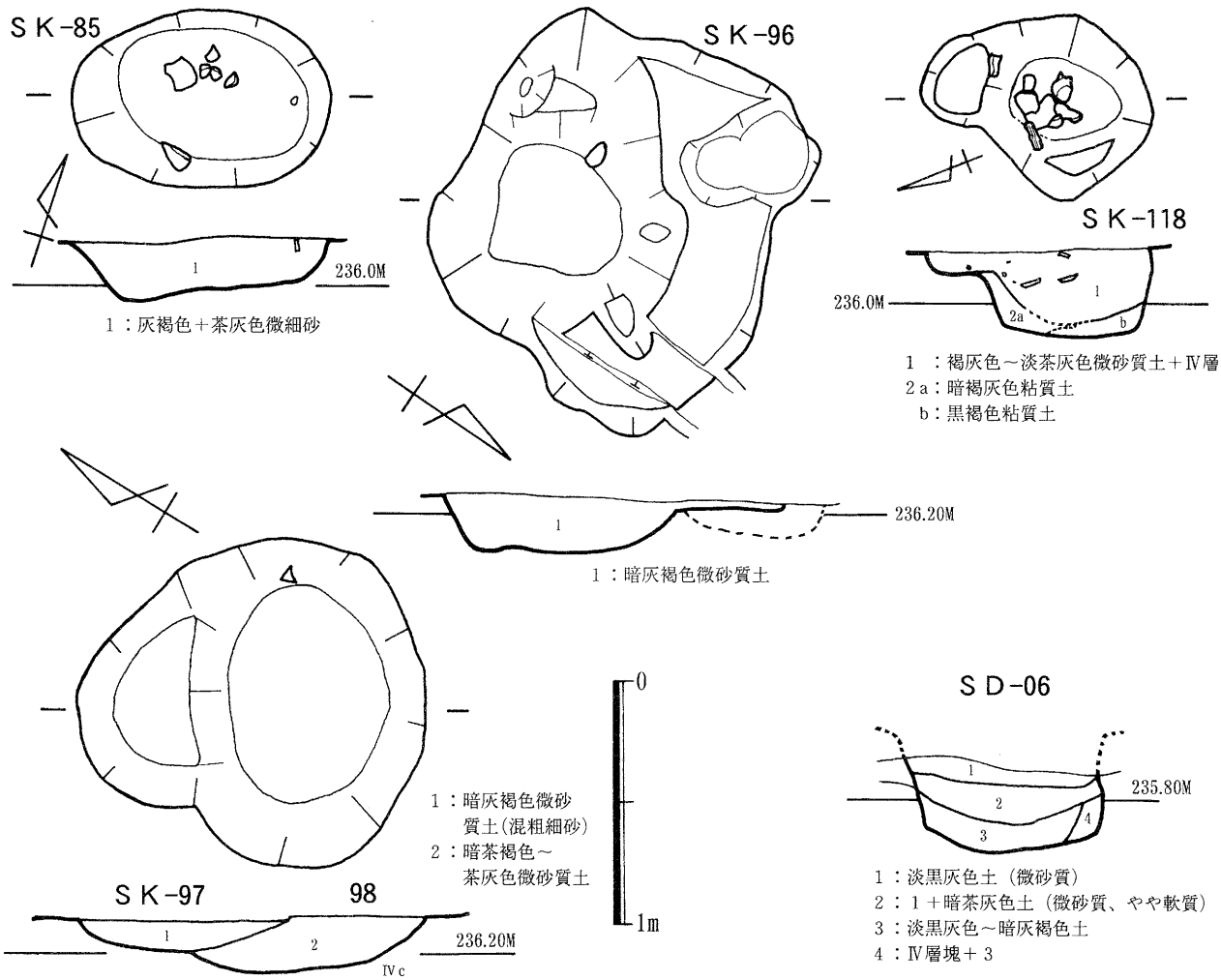
ＳＫ-54（第118図）　15号住居の東5.5ｍ西に位置した、長径1.62ｍ・短径0.61ｍの隅丸長方形を呈し、深さは20㎝前後を測る。出土遺物は無く時期も不明瞭であるが、平面プランから、調査区唯一の伸展葬の土壙墓と思われる。



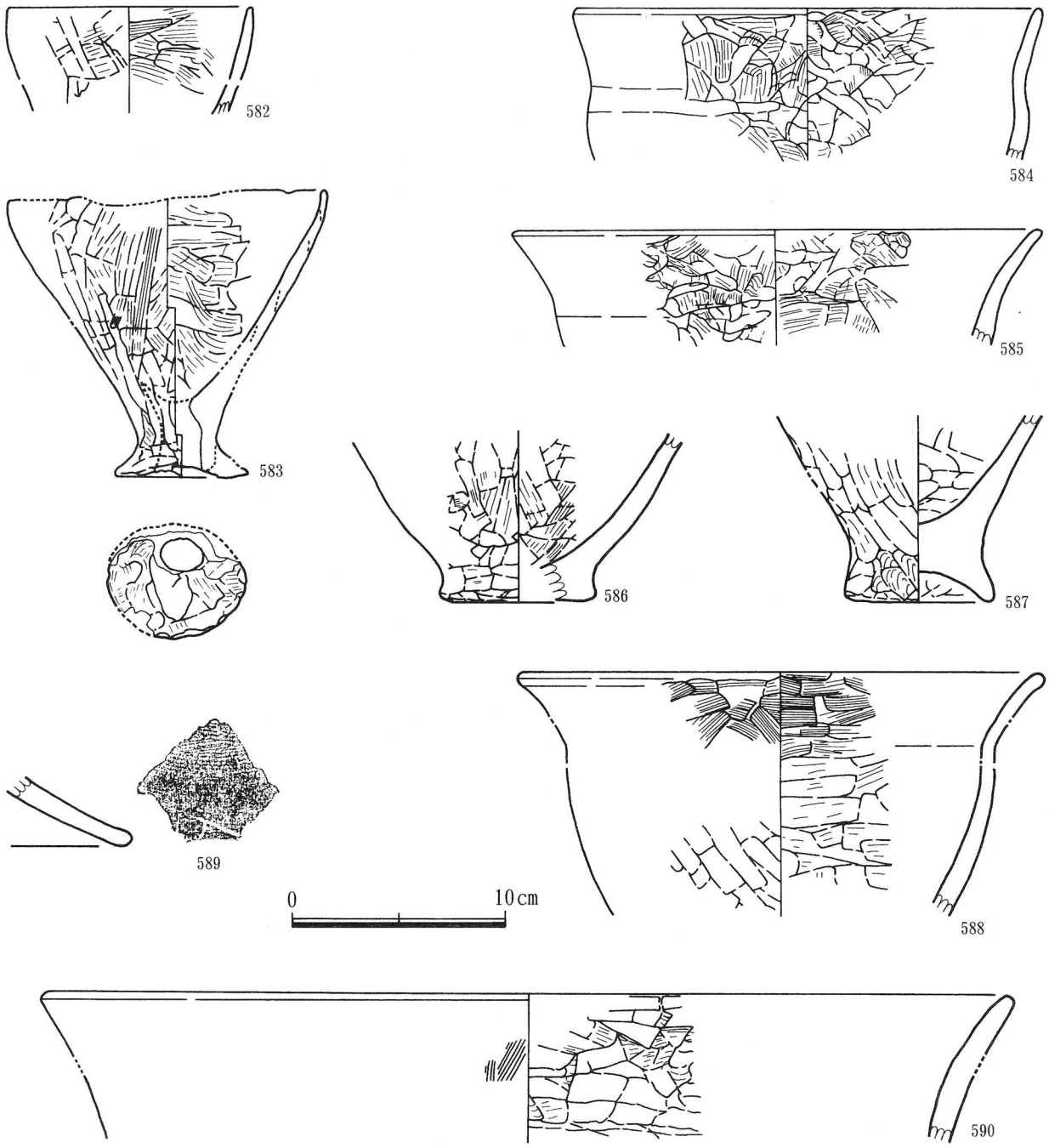
第114図　ＳＫ-47～49・55・57　出土遺物実測図　**573・574**：SK-47　**575・576**：SK-48　**577・578**：SK-49　**579・580**：SK-55　**581**：SK-57

表39　ＳＫ-32～34・38・40・42・43出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第111図 548	ＳＫ-32	甕	—	—	—	ヨコハケ～タテハケ	ヨコ～ナナメハケ・ヨコハケ	細砂・小礫少量	良	淡黄褐～暗茶褐	淡褐～淡灰褐	
549	ＳＫ-32	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂微量 茶褐色粒少量	ややあまい	淡黄白	淡橙褐	内面：マメツ
550	ＳＫ-32	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微細砂微量	良	淡灰褐～淡褐	暗灰～淡褐	
551	ＳＫ-32	甕	144	—	—	工具ナデ	ヨコハケ	微細砂少量	良	淡橙黄～茶灰	淡褐	553と同形
552	ＳＫ-32	壷	137	—	—	ナデか	—	微細砂多量	あまい	黄褐～橙桃	橙褐～黄褐	内面：マメツ
553	ＳＫ-32	甕	120	—	—	粗ヨコハケ	ヨコハケ	微細砂少量	良	淡灰褐～暗灰褐	淡褐～淡黄	ハケの境は不明瞭 口縁部：マメツ
554	ＳＫ-33	甕	369	—	—	ハケ	ハケ	微細砂・角閃石少量	良	淡褐～暗茶褐	淡橙褐～褐	
555	ＳＫ-34	壷	—	—	—	ナデ	丁寧ナデ	良	良好	淡黄褐	淡黄～淡褐	
556	ＳＫ-38	壷	—	—	—	—	丁寧ナデ～半ミガキ	微細砂微量	ややあまい	黄褐～淡褐・黒斑	淡黄褐	外面：マメツ
第112図 557	ＳＫ-40	甕	—	—	—	ハケ	—	粗細砂多量	ややあまい	茶褐～淡黄褐	黄褐～橙黄～淡褐	内面：マメツ
558	ＳＫ-40	甕	—	—	—	ヨコハケ～タテハケ	ヨコハケ	微細砂少量 茶褐色粒微量	良	淡茶褐～淡灰褐	淡茶褐～淡灰褐	
559	ＳＫ-40	高坏	—	—	—	—	—	微細砂少量 茶褐色粒微量	あまい	橙黄・暗灰褐	淡灰黄～暗灰褐	両面：マメツ
560	ＳＫ-40	甕か	—	—	—	ナデ～丁寧工具ナデ・ヨコハケ	半ミガキ～ハケ	微細砂少量	良	淡灰褐	淡黄褐	
561	ＳＫ-40	台付鉢	—	135	—	半ミガキ～強い工具ナデ・ヨコハケ	工具ナデ(半ミガキ)～粗ハケ	粗細砂・茶褐色粒少量	良	淡橙褐	淡橙褐～淡黄褐	
第113図 562	ＳＫ-42	甕	282	—	—	粗工具ナデ	ハケ～工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	橙褐～淡黄褐・黒斑	桃橙～淡灰～茶褐	
563	ＳＫ-42	甕	211	—	—	—	ハケ～工具ナデ・ナデ	粗細砂やや多い	良	淡褐	淡橙黄～灰・黒斑	
564	ＳＫ-42	壷	—	—	—	工具ナデ	—	粗細砂・小礫多量	良	淡橙黄・黒斑	淡黄～灰	内面：マメツ
565	ＳＫ-43	小型丸底壷	71	—	—	—	工具ナデ～ナデ	良	ややあまい	茶灰～茶褐	暗茶褐～褐	外面：マメツ
566	ＳＫ-43	甕	222	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐～淡橙黄	褐～淡褐	



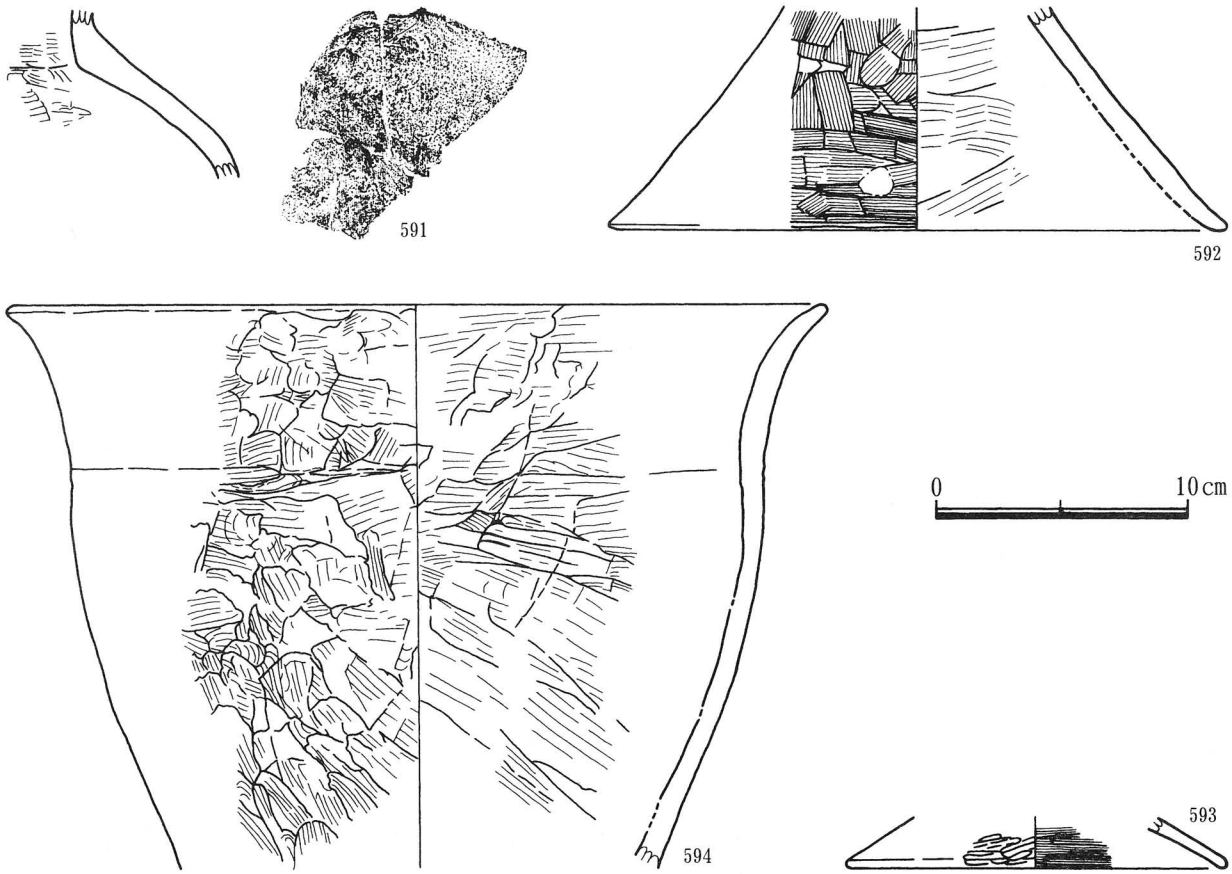
第115図　ＳＫ-85・96～98・118　遺構実測図，ＳＤ-06　断面層序図



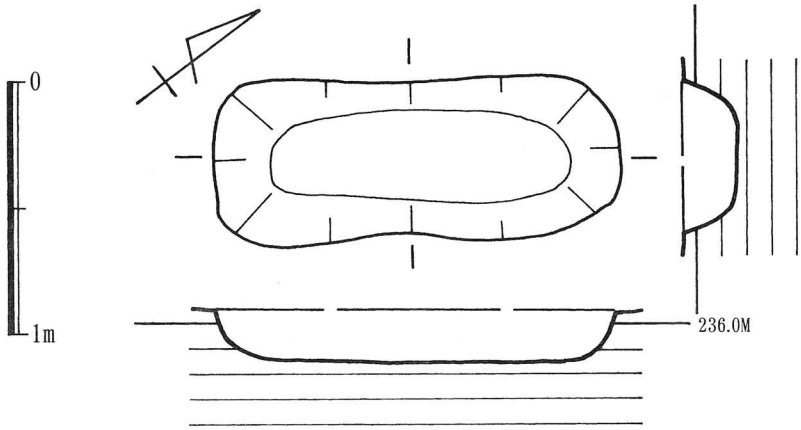
第116図　ＳＫ-81～85　出土遺物実測図　**582**：SK-81　**583**：SK-82　**584～586**：SK-83
587・588：SK-84　**589・590**：SK-85

表40　ＳＫ-44・45・47・48出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第113図 567	ＳＫ-44	蓋か	—	132	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	微細砂少量	良	橙黄～黄褐	淡黄灰～淡橙褐	
568	ＳＫ-44	蓋	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細石英多量	良	淡橙～暗灰	淡橙～淡黒灰	
569	ＳＫ-44	鉢	148	—	—	粗工具ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	良	淡灰黄～淡橙黄	淡黄～淡橙・暗灰	
570	ＳＫ-44	壷	—	35	—	工具ナデ～粗工具ナデ	ナデ・工具ナデ	粗細粒少量	ややあまい	淡黄褐～橙褐～淡灰黄	淡橙褐～淡褐	
571	ＳＫ-45	甕	—	76	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂少量 小礫微量	良	淡黄褐～茶橙～茶褐	暗灰褐～暗茶褐	内面：オコゲ
572	ＳＫ-45	甕	281	—	—	ハケ	ハケ～ナデ～丁寧ナデ	粗細砂少量	良	淡黄褐～茶橙～茶褐	暗灰褐～暗茶褐	
第114図 573	ＳＫ-47	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ～工具ナデ	粗細砂やや多い	良	暗灰褐～淡褐	淡褐～淡茶褐・黒斑	
574	ＳＫ-47	高坏	304	—	—	ハケ・半ミガキ	ハケ～丁寧工具ナデ	微細砂・茶褐色粒少量	ややあまい	淡黄～淡褐	淡灰黄～淡橙黄 口縁：暗茶褐	
575	ＳＫ-48	甕	—	55	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡茶褐～淡黄褐・黒斑	淡橙～淡褐	
576	ＳＫ-48	甕	—	56	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い 粗砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡茶灰～橙褐	淡橙褐～淡黄	内面：マメツ



第117図　ＳＫ-101・118・119　出土遺物実測図　**591**：SK-101　**592・593**：SK-118　**594**：SK-119



第118図　ＳＫ-54　遺構実測図

表41　ＳＫ-49・55・57・81・82出土遺物観察表

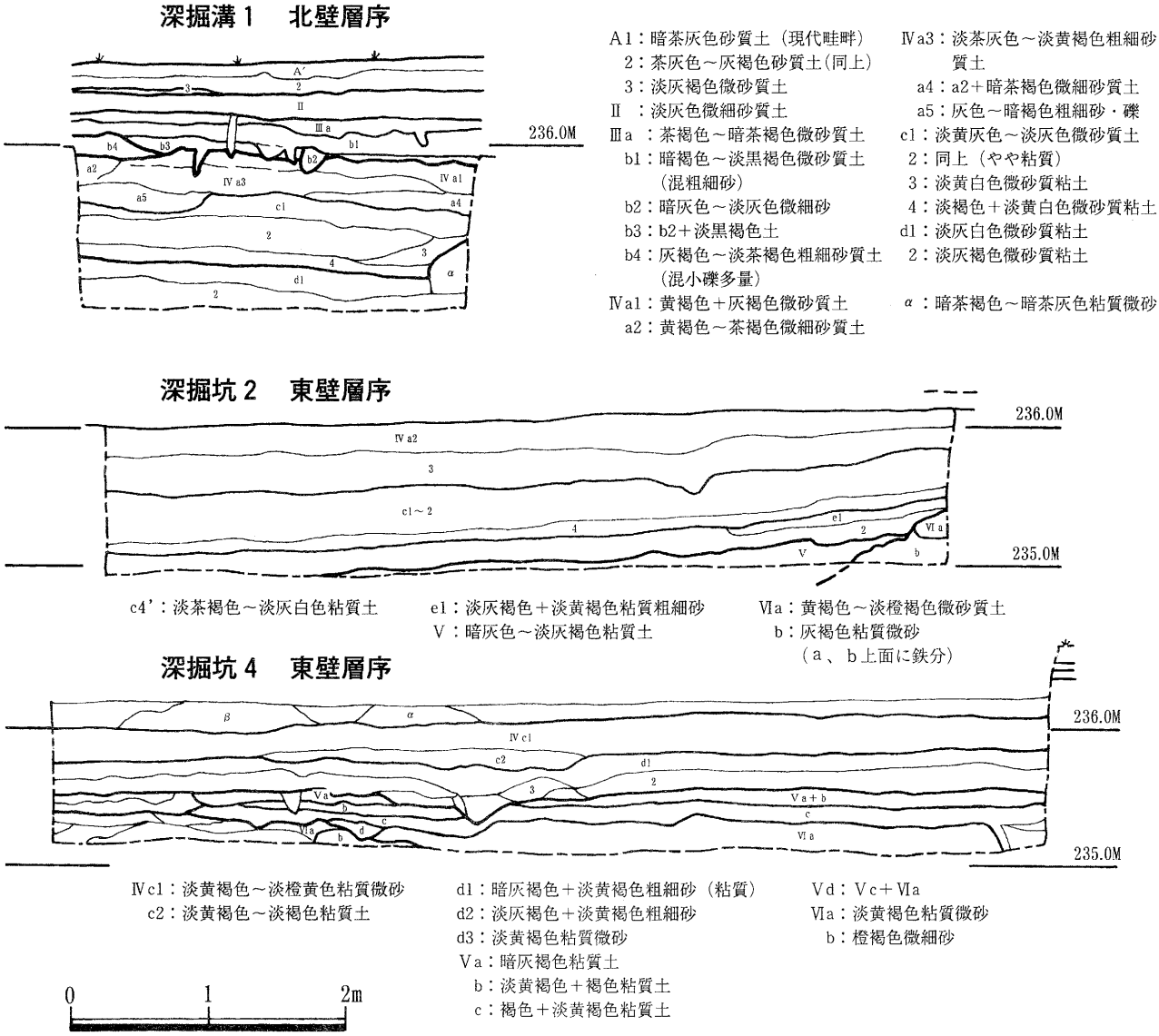
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第114図 577	ＳＫ-49	甕	248	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	良	淡黄褐～淡橙褐	淡褐～淡橙黄	
578	ＳＫ-49	甕	265	—	—	工具ナデ	ハケ～ナデ	粗細砂少量	良	淡褐～淡灰黄	淡橙褐	
579	ＳＫ-55	高坏	176	—	—	—	—	淡黄白色粘土粒少量	ややあまい	黄褐	暗褐～暗褐灰	両面：マメツ
580	ＳＫ-55	高坏	—	—	—	ミガキ～ハケ	粗ミガキ	微砂・淡黄白色粘土粒少量	ややあまい	淡黄褐～橙黄	橙褐～暗灰褐	両面：マメツ
581	ＳＫ-57	甕	—	48	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ～ハケ	微細砂やや多い	良	淡灰黄～暗灰褐	暗灰褐～淡黄灰	
第116図 582	ＳＫ-81	鉢	113	—	—	粗工具ナデ	粗ハケ	微細砂少量	良	淡褐～淡灰褐	淡橙黄～淡黄灰	
583	ＳＫ-82	台付鉢	148	62	135	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄褐～淡灰黄・黒斑	淡黄灰～淡灰褐	煮沸具ではない

表42　ＳＫ-83～85・101・118・119出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第116図 584	ＳＫ-83	甕	216	—	—	工具ナデ～粗工具ナデ	粗工具ナデ→強い工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡茶褐～暗茶灰	淡橙褐	
585	ＳＫ-83	鉢型	243	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗茶灰	淡黄褐～淡橙褐	
586	ＳＫ-83	甕	—	63	—	粗工具ナデ	強い工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡茶褐～暗茶褐・黒斑	淡灰褐～淡褐	
587	ＳＫ-84	甕	—	71	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	淡灰黄～淡橙	淡黄橙～暗緑灰	588と同一個体か
588	ＳＫ-84	甕	239	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ～工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	茶褐～淡橙褐	橙褐	587と同一個体か
589	ＳＫ-85	蓋	—	—	—	丁寧ハケ	丁寧ハケ	粗細砂少量	良	茶褐～茶橙	暗茶褐	
590	ＳＫ-85	甕	451	—	—	—	工具ナデ	粗細砂多量	あまい	淡橙茶～橙褐	淡黄褐～淡灰褐	外面：かなり剥落 内面：ややマメツ
第117図 591	ＳＫ-101	壷	—	—	—	工具ナデ～粗工具ナデ	粗工具ナデ	細砂少量	良	淡褐～淡茶褐	淡橙褐～淡褐	
592	ＳＫ-118	高坏か	—	237	—	ハケ	ナデ	細砂多量	ややあまい	淡黄褐～淡灰褐	淡褐～灰褐	
593	ＳＫ-118	高坏	—	152	—	ミガキ	ヨコハケ	細砂微量	ややあまい	淡橙～淡褐	淡橙～淡褐	
594	ＳＫ-119	甕	319	—	—	ハケ～粗ハケ	ハケ～強い工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡橙茶～淡黄灰・黒斑	灰～淡黄褐	

6．深掘坑の調査（第119図）

遺構完掘後、沖積層の堆積状況を確認し、基本的層序を把握するために、深掘坑を５ヶ所に設定した。深掘坑４の下層のＶ層とした暗灰色系の土は縄文時代後期～晩期前半もしくは弥生時代前期



第119図　深掘坑断面層序実測図

か後期の時期が推定され、稲作関係の遺構・遺物も想定されたため、深掘坑２～５で広がり等を確認した。その結果、深掘坑２でⅤ層を覆土とする自然流路を確認し、人為的痕跡も無いことが判明した。

７．Ⅱ～Ⅳ層出土遺物（第120～128図）

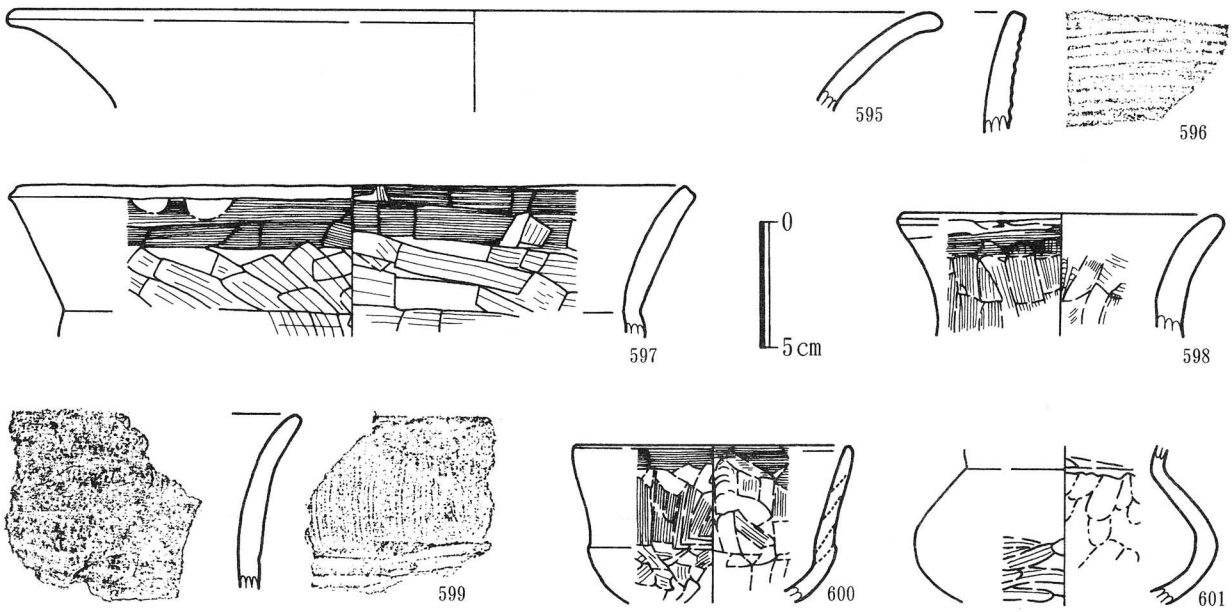
表土剥ぎ段階から相当量の遺物が出土している。縄文時代の遺物は無いに等しいが、弥生時代中期後半（Ⅰ期）から古墳時代前期（Ⅱ期）まで、９世紀後半（Ⅲ期）～中世前半（Ⅳ期）、中世末～近世初頭（Ⅴ期）、17世紀後半～19世紀（Ⅵ期）の遺物があり、中でもⅡ期の遺物が多くを占める。加えて、古墳時代の須恵器は遺構および遺物包含層から１片も出土しておらず、５世紀から９世紀前半まで、長期間の断絶がある。

600は全調査区で最下層（Ⅳｃ層）の出土であり、Ⅳ層が弥生時代後期に形成され、ほどなく居住が始まったことが想定される。遺構および遺物包含層からは弥生時代中期末の黒髪式土器の甕片や免田式土器（608）も出土しているが、当該期の遺構は09号溝以外判然としない。625はベンガラの彩文土器で、市内では内小野遺跡で５点のほか、古屋敷遺跡で１点出土している。石包丁は３点のみの出土であるが、金属用砥石と推定される粘板岩製の砥石が普及しており、未検出ではあるが鉄鎌の存在が推定される。

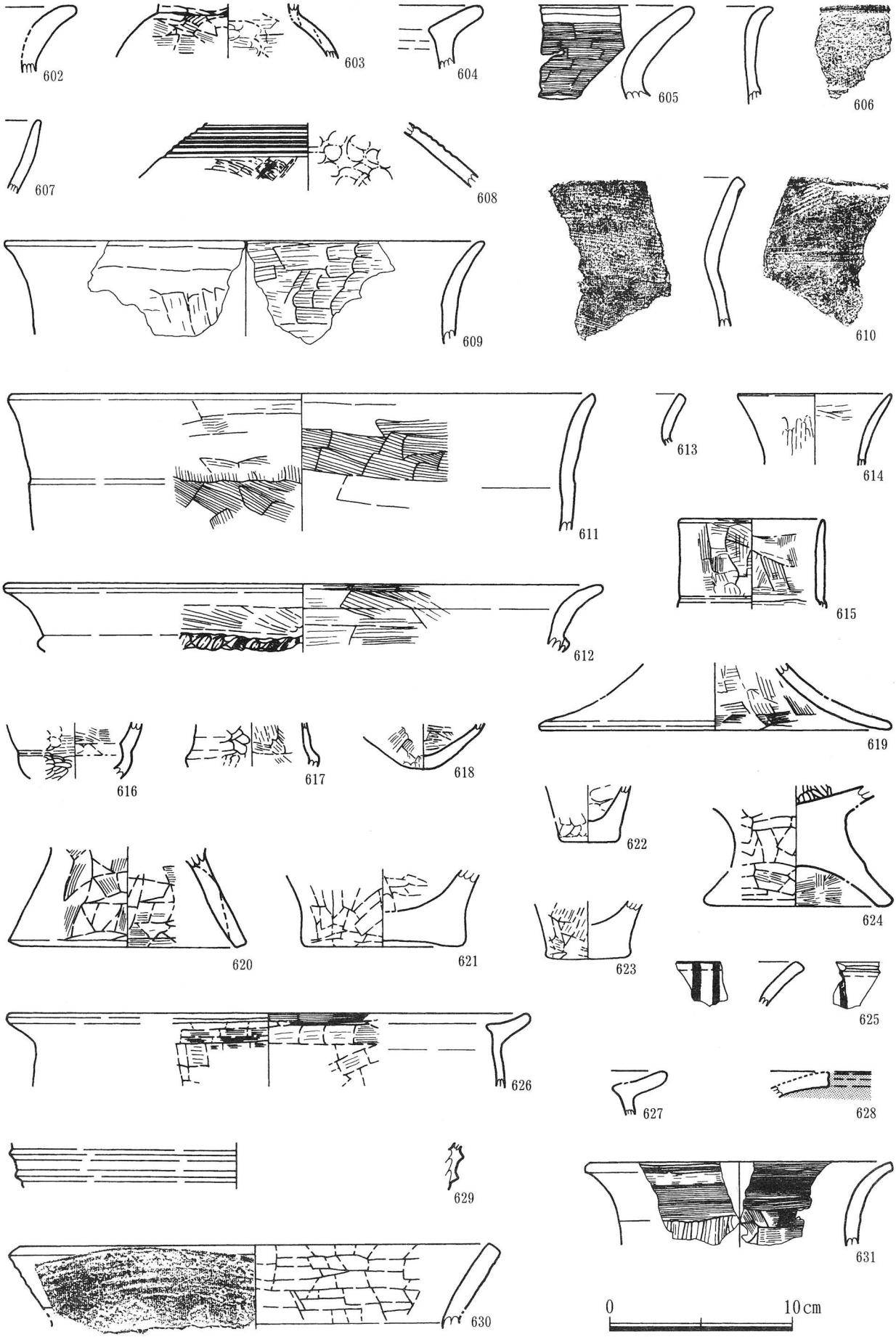
註

(1) 平田信芳氏の御教示による。

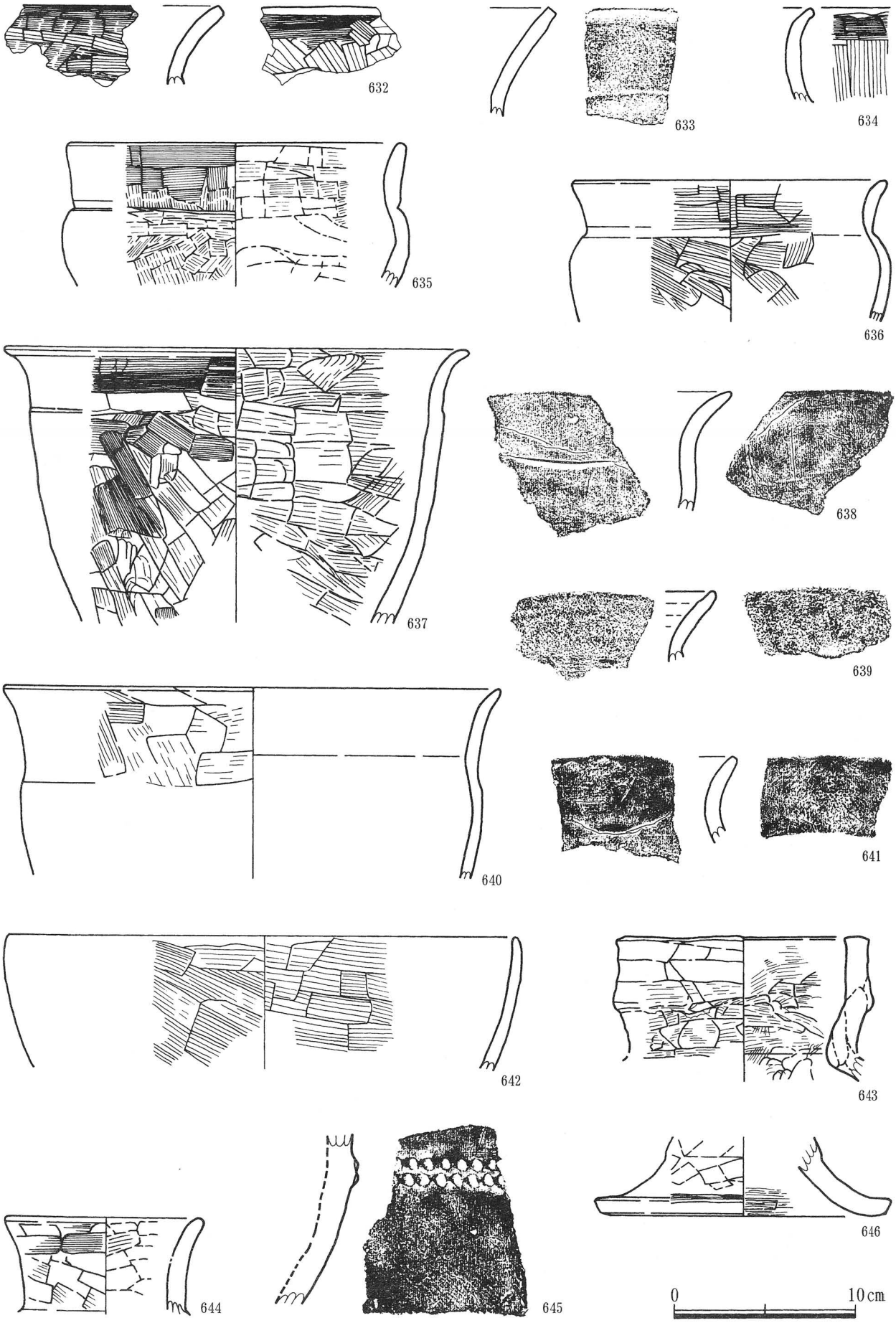
(2) 池島川の支流である白鳥川の下流から取水し、末永地区を通って導水。明治21年２月に改築が終了し、昭和に入ってコンクリート壁に変わった水路である。



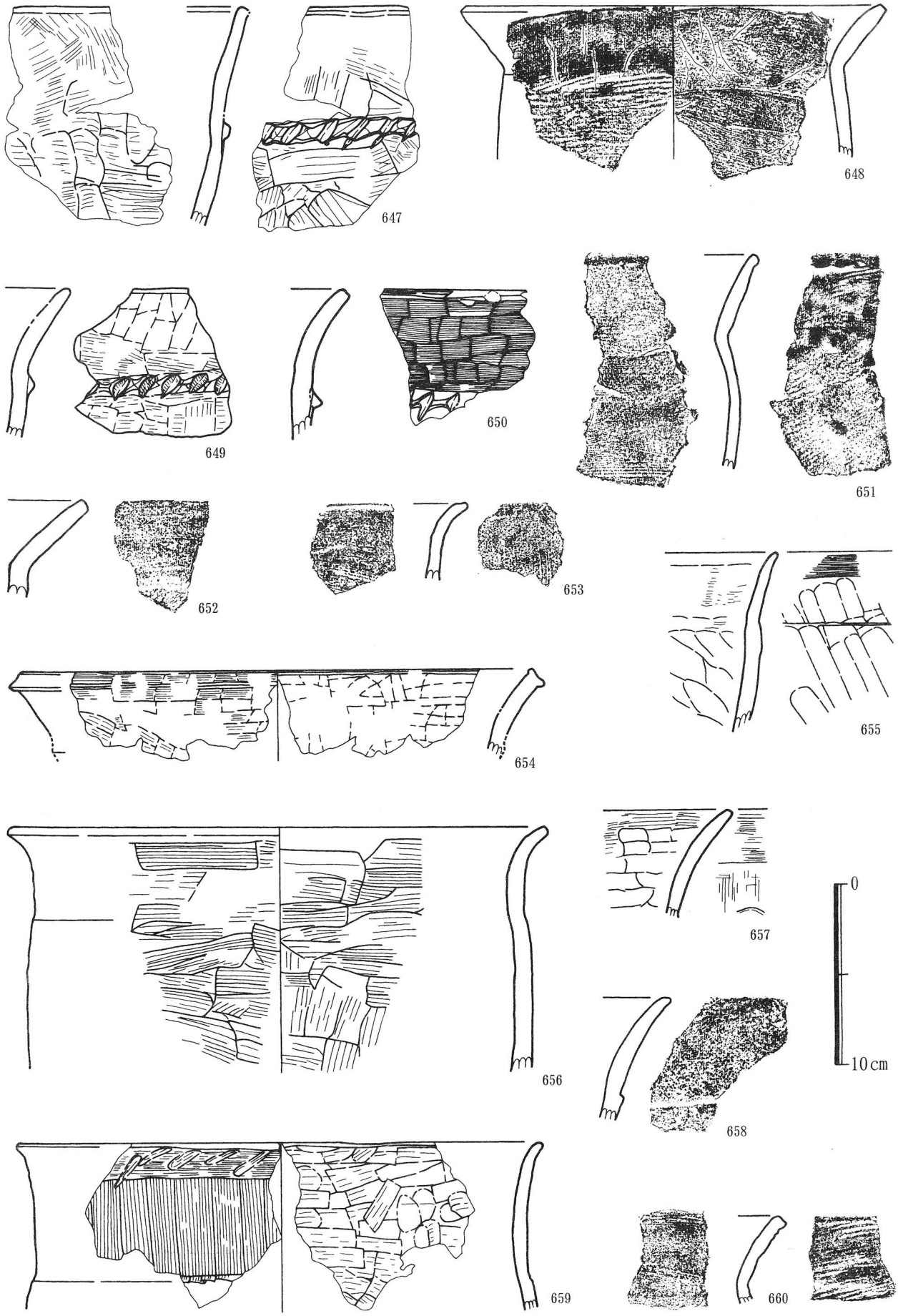
第120図　Ⅳ区　Ⅲｂ～Ⅳ層　出土遺物実測図



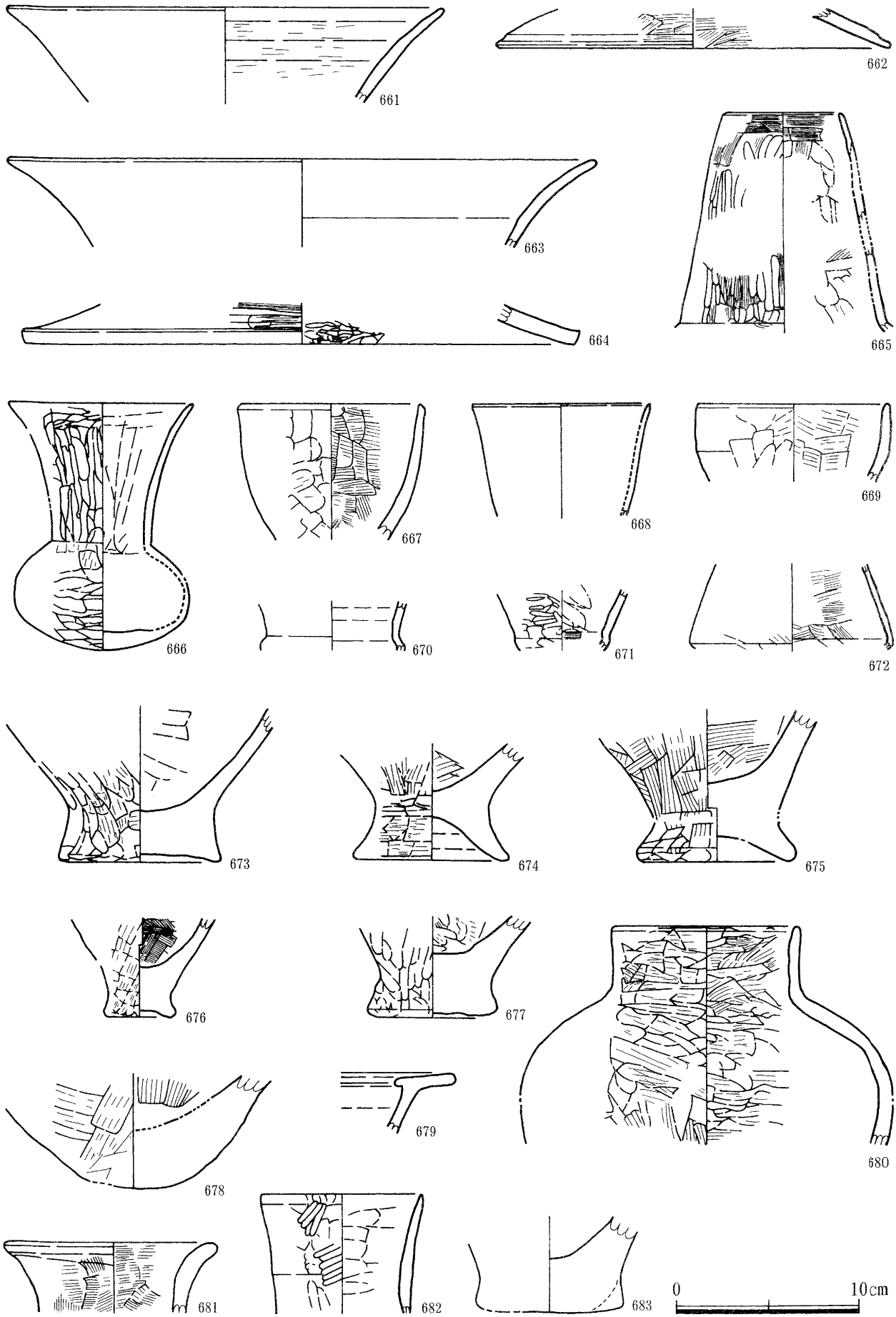
第121図　Ⅴ区　Ⅱ～Ⅲｃ層出土遺物実測図



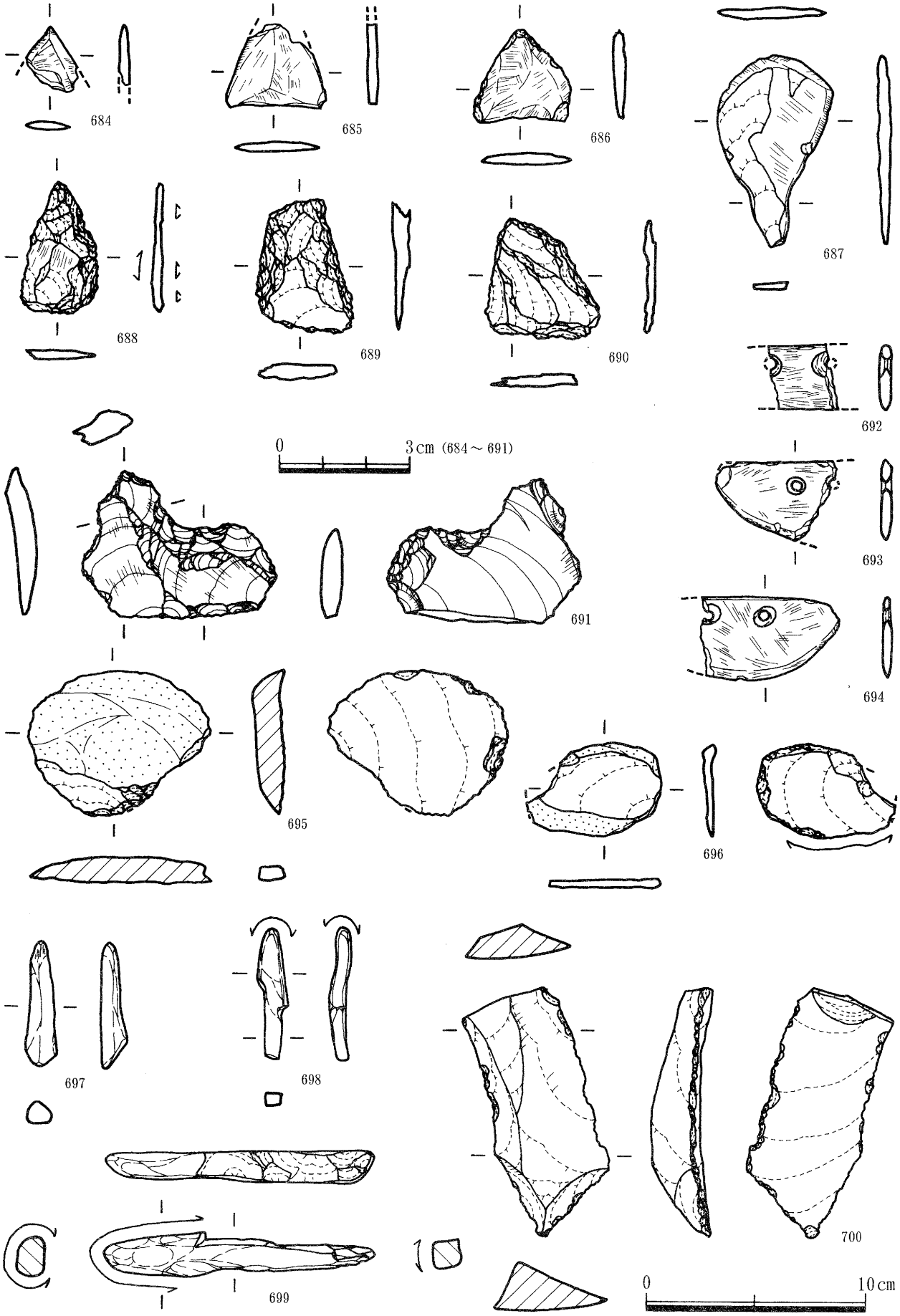
第122図　Ⅴ区　Ⅲｃ層出土遺物実測図（１）



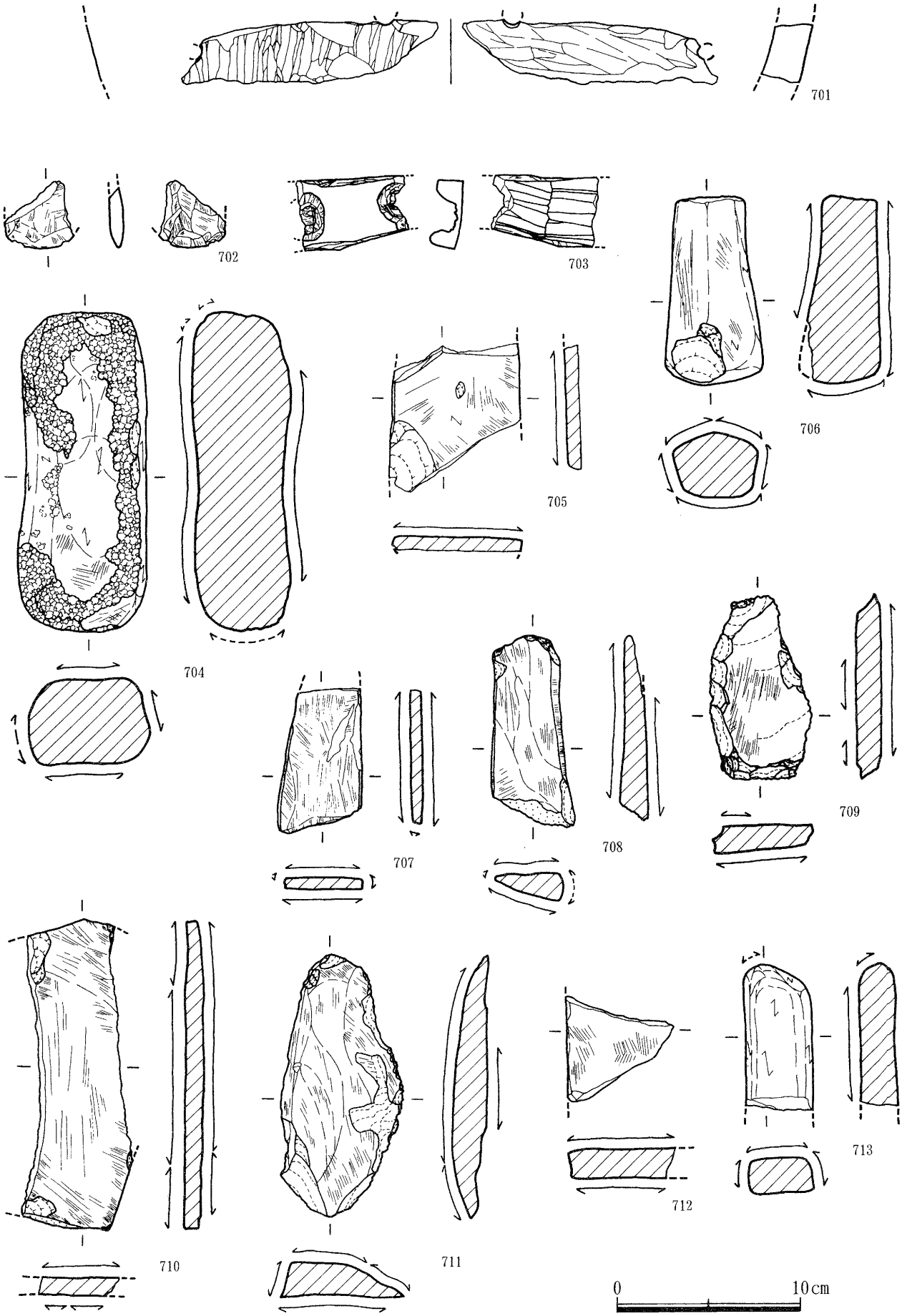
第123図　Ⅴ区　Ⅲｃ層出土遺物実測図（２）



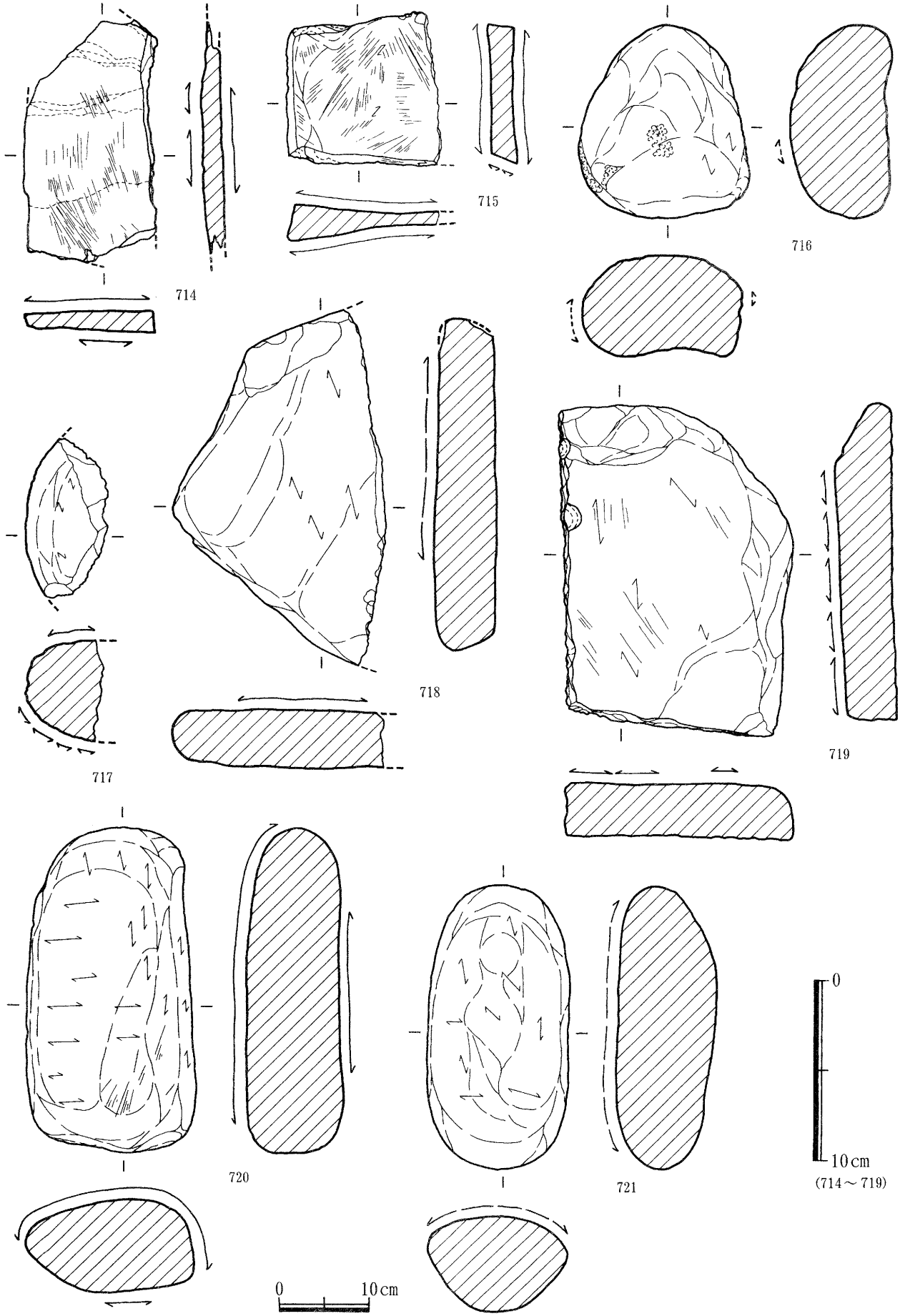
第124図　Ⅴ区　Ⅲｃ～Ⅳａ層出土遺物実測図



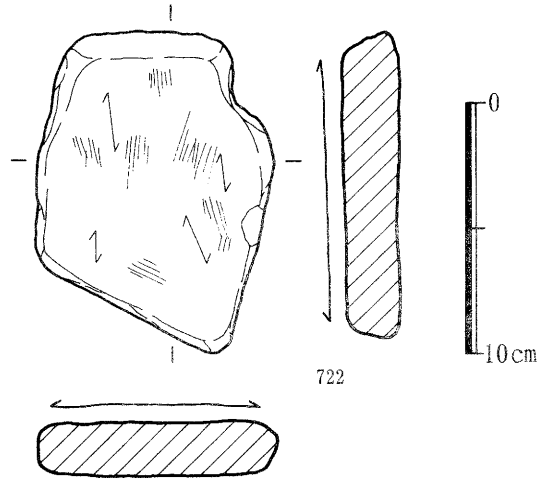
第125図　調査区出土石器実測図（1）



第126図　調査区出土石器実測図（２）



第127図　調査区出土石器実測図（３）



第128図　調査区出土石器実測図（4）

表43　Ⅱ～Ⅲ層　出土遺物観察表（1）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第120図 595	Ⅵ区 Ⅲb・c層	甕	350	—	—	—	—	微砂多量 粗細砂多量	ややあまい	淡黄褐～桃褐	淡黄褐～暗茶褐・黒斑	両面：マメツ
596	Ⅵ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	タタキ	—	微細砂多量 角閃石少量	良	茶褐～暗茶褐	暗灰褐～茶褐	両面：マメツ
597	Ⅵ区 Ⅲb・c層	甕	267	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	良好	淡茶褐～褐灰	淡橙褐	
598	Ⅵ区 Ⅲb・c層	壷	124	—	—	ハケ～工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡橙～橙褐	淡褐～橙褐	
599	Ⅵ区 Ⅲb・c層	甕	—	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微砂やや多い	良	茶褐・黒斑	淡茶褐～灰褐	
600	Ⅵ区 Ⅳc層	小型鉢	108	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	橙褐	淡橙褐～淡橙茶	
601	Ⅵ区 Ⅲc層	小型丸底壷	—	—	—	半ミガキ (粗工具ナデ)	ナデ	良	ややあまい	淡橙～灰褐	淡橙～淡褐	外面：マメツ
第121図 602	ＳＤ-09	甕	—	—	—	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗茶褐～茶橙	茶黄～茶橙	
603	ＳＤ-09	壷	—	—	—	工具ナデ	ナデ	微砂少量 粗砂微量	良	茶褐～暗茶褐	褐～暗褐	
604	Ⅴ区 Ⅲb層	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量 角閃石少量	良	灰褐～暗茶灰	灰～淡灰褐	
605	Ⅴ区 Ⅲb・c層	壷	150～194	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡褐	橙褐～淡黄褐	
606	Ⅴ区 Ⅲ層	甕	—	—	—	ナデ	ヨコハケ	微砂少量	良	茶灰～暗茶灰	褐～淡灰褐	
607	Ⅴ区 Ⅲb層	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ～ナデ	微細砂少量	良	淡灰褐	淡灰褐	
608	Ⅴ区 Ⅲb2層	長頸壷	—	—	—	ミガキ～半ミガキ	ナデ	微細砂少量	良	淡灰褐	淡灰褐～灰	外面：重圏線
609	Ⅴ区 Ⅱ～Ⅲ層	甕	260	—	—	ハケか	ハケ～工具ナデ	微細砂やや多い 小礫少量	ややあまい	淡茶褐～黄褐	淡茶灰～褐	外面：マメツ
610	Ⅴ区 Ⅲ層	甕	—	—	—	粗ハケ～粗工具ナデ	ヨコハケ	微細砂少量 角閃石微量	良好	暗茶褐～暗茶灰	淡褐～茶褐	
611	Ⅴ区 Ⅲ層	甕	324	—	—	ナナメハケ	ヨコハケ～ナデ	微細砂やや多い	良好	暗茶灰～暗灰褐	褐～茶褐	
612	Ⅴ区 Ⅲb層	甕	325	—	—	ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂やや多い 粗砂少量	ややあまい	淡茶褐～黄褐	淡桃橙	内面：マメツ
613	Ⅴ区 Ⅲb'・c層	壷	—	—	—	ミガキ	ミガキ～粗工具ナデ	良	良好	淡灰～淡褐	淡褐	
614	Ⅴ区 Ⅲ層	小型丸底壷	83	—	—	ナデ～ミガキ	工具ナデ・ナデ	微細砂微量 赤褐色粒やや多い	良	橙褐	橙褐	
615	Ⅴ区 Ⅲb'層	小型丸底壷	81	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微砂微量	ややあまい	淡黄褐	淡灰～淡黒灰	
616	Ⅴ区 Ⅲb・c層	坩	—	—	—	工具ナデ～ミガキ	ハケ～工具ナデ～ナデ	微砂やや多い 角閃石少量	良	淡茶褐	茶褐	
617	Ⅴ区 Ⅲb・c層	坩	—	—	—	半ミガキ	強い工具ナデ・ナデ	精良	良	淡黄褐	淡褐～淡灰褐	
618	Ⅴ区 Ⅲb'層	坩	—	—	—	ナデ・工具ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	灰褐～暗灰褐	淡黄灰～暗灰褐	
619	Ⅴ区 Ⅲb層	高坏	—	193	—	—	ハケ・ナデ	微細砂少量 小礫微量	ややあまい	淡灰黄～淡黄褐	淡灰褐・黒斑	外面：マメツ
620	Ⅴ区 Ⅲb'層	甕	—	129	—	丁寧工具ナデ～半ミガキ	ナデ・工具ナデ	粗細砂・角閃石少量	良	淡黄褐～褐	淡橙褐～橙褐	
621	Ⅴ区 Ⅲb・c層	甕	—	91	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い 小礫少量	良	茶褐～灰褐	暗褐～灰褐	
622	Ⅴ区 Ⅲb・c層	小型甕	—	28～30	—	工具ナデ 底：ナデ	工具ナデ→ナデ	赤褐色粒少量	ややあまい	桃褐～淡褐	暗灰褐～淡灰褐	外面：マメツ
623	Ⅴ区 Ⅲb・c層	小型甕	—	42	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡褐～灰褐	灰褐～暗灰	
624	Ⅴ区 Ⅲb層	台付鉢	—	104	—	工具ナデ 底：丁寧工具ナデ	ミガキ	微細砂やや多い	良	茶褐～淡黄褐	茶灰～黒灰	
625	Ⅴ区 Ⅲc層	鉢か	—	—	—	丁寧ナデ	丁寧ナデ	微砂少量 角閃石微量	良	淡灰～淡黒灰	淡灰黄～淡黄褐	内外に彩文、外：淡紅茶、内：茶～茶褐
626	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	287	—	—	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	良	良	茶灰	灰褐～淡灰黄	
627	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	工具ナデ	ナデ	微砂やや多い 角閃石少量	ややあまい	淡黄	暗茶褐～淡黄褐	口縁部：マメツ
628	Ⅴ区 Ⅲc層	壷	約400	—	—	—	—	良	良	淡紅茶	茶～茶褐	両面：丹塗り 内面：剥落
629	Ⅴ区 Ⅲc層	壷	—	—	—	ナデ	—	微細砂少量	良	淡灰褐～淡茶褐	淡灰褐	
630	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	268	—	—	タタキ→ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い 角閃石少量	良	淡黒灰～暗灰褐	暗褐～茶褐	
631	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	169	—	—	ハケ～ナデ～ケズリ状	ハケ	微細砂やや多い 角閃石微量	良	茶灰～淡灰褐	淡茶褐～暗茶灰	

表44　Ⅱ～Ⅲ層　出土遺物観察表（2）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第122図 632	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	241	—	—	ハケ	ハケ	微細砂・角閃石少量	良	淡褐	褐～茶褐	
633	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	細かいハケ	細かいハケ	微細砂少量	良好	暗茶灰	淡橙茶～黒灰	
634	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微細砂やや多い 角閃石微量	ややあまい	茶橙～橙褐	暗橙褐～暗茶褐	
635	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	187	—	—	ハケ～工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂多量 角閃石微量	良	淡褐～淡黄灰	橙黄～淡褐白	
636	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	173	—	—	ハケ～粗ハケ	ハケ	微細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡黒灰	淡黄褐～灰	
637	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	253	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂やや多い 粗砂・小礫少量	良	茶褐～暗灰・黒斑	褐～淡灰褐・黒斑	
638	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	細かいハケ～工具ナデ	細かいハケ～ナデ	微砂・赤褐色粒少量	良	褐～淡橙褐	淡橙褐～淡褐～淡灰	
639	Ⅴ区 SB-04 上面Ⅲc層	甕	—	—	—	—	ハケ	微細砂やや多い	ややあまい	淡黄～橙褐～暗褐灰	淡褐	外面：マメツ
640	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	273	—	—	ハケ	—	粗細砂多量 赤褐色粒少量	良	暗青灰～茶灰～黄褐	暗茶褐～黄褐	両面：マメツ
641	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	230	—	—	ハケ	ハケ（非常に細かい）	微砂多量	ややあまい	淡橙黄～淡黄白	淡橙褐～黄褐	
642	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	279	—	—	ハケ	ハケ	赤褐色粒少量	良好	淡茶灰～暗灰	淡褐	
643	Ⅴ区 Ⅲc層	壷	139	—	—	ナデ～工具ナデ	工具ナデ	微砂やや多い 細砂・角閃石少量	良	淡褐～淡灰褐	褐灰～暗茶灰	
644	SD-09	壷	107	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂微量 白色粘土粒少量	あまい	橙褐	橙褐～黄褐	
645	Ⅴ区 Ⅲc層	壷	—	—	—	丁寧工具ナデ	—	微細砂多量	良	暗茶褐	淡黒褐	内面：かなり剥落
646	Ⅴ区 Ⅲc層	台付鉢か	—	162	—	粗工具ナデ～ハケ	ハケ	微細砂やや多い	良好	淡褐～茶褐	淡褐～茶褐	
第123図 647	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	—	粗細砂多量 角閃石微量	ややあまい	淡橙黄～黄褐	黄褐～淡黄	両面：マメツ
648	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	233	—	—	ハケ～タタキ	ハケ	角閃石微量 微砂・小礫少量	良	暗灰褐～淡茶褐	暗灰褐～茶褐	
649	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	工具ナデ・ハケ	工具ナデ	粗細砂やや多い 角閃石微量	良	橙黄～淡黄褐	淡黄灰～淡灰褐	
650	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	—	粗細砂多量	良	淡橙～淡黄褐	橙褐～黄褐	内面：マメツ
651	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂少量	良	暗茶褐	褐～灰褐	
652	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微細砂多量	ややあまい	黄褐～淡橙黄	淡黒褐	
653	Ⅴ区 ⅢcⅣa層	甕	—	—	—	工具ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂微量	良	暗灰褐	淡黒灰	
654	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	293	—	—	丁寧工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄褐～淡灰黄	淡黄褐	
655	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ→板ナデ	粗板ナデ	微細砂多量 赤褐色粒少量	良	淡褐～淡黒灰	淡灰褐～淡黄褐	
656	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	296	—	—	ハケ	ハケ	微細砂少量	良	淡灰褐～暗灰	淡褐～淡灰褐	
657	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	274	—	—	ハケ～粗ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	淡茶灰～暗灰	淡灰褐～暗灰	
658	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い 赤褐色粒少量	良	灰褐～褐	暗茶褐～褐	
659	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	288	—	—	ハケ	粗ハケ～工具ナデ	微砂やや多い 粗細砂少量	良	褐～淡茶褐	黄褐～淡桃褐・黒斑	
660	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	—	—	タタキ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量、角閃石微量、土器片1	良	黒斑・暗茶褐～褐	淡黄褐～淡褐	
第124図 661	Ⅴ区 Ⅲc層	高坏か	240	—	—	ハケか	ハケ	粗細砂多量	ややあまい	茶橙～黄褐	黄橙～淡黄	
662	Ⅴ区 Ⅲc層	高坏	—	217	—	ハケ	半ミガキ～工具ナデ	微細砂微量	良	淡褐	淡褐	
663	Ⅴ区 Ⅲc層	高坏	324	—	—	—	—	粗細砂少量	あまい	橙黄～灰褐	橙黄～黄褐～茶褐	両面：マメツ
664	Ⅴ区 Ⅲc層	蓋	305	—	—	ハケ	ミガキ状～ハケ	微細砂少量	良好	淡褐	淡褐～暗茶褐	
665	Ⅴ区 SB-04 上面Ⅲc層	長頸壷	68	—	—	ハケ・ミガキ	工具ナデ～ナデ～ミガキ	良	良	暗茶褐～淡黄白	灰褐～淡褐	
666	Ⅴ区 Ⅲc層	小型丸底壷	101	—	139	ミガキ～粗ミガキ	丁寧工具ナデ～半ミガキ	赤褐色粒少量	良	淡黄褐～暗褐	淡黄褐～淡橙褐	
667	Ⅴ区 Ⅲc層	小型鉢	103	—	—	粗工具ナデ	粗ハケ	微細砂やや多い	良	淡灰褐～褐	淡褐	粗製
668	Ⅴ区 Ⅲc層	小型丸底壷	99	—	—	—	—	微細粒微量	あまい	暗茶褐～淡黄褐	淡灰褐～淡褐	両面：マメツ
669	Ⅴ区 Ⅲc層	鉢か	107	—	—	粗工具ナデ	ハケ	粗細砂・茶褐色粒多量	ややあまい	橙黄～淡灰褐	淡橙黄～淡黄白	内面：マメツ
670	Ⅴ区 Ⅲc層	坩	—	—	—	—	—	赤褐色粒微量	あまい	明茶～褐灰	茶褐	両面：マメツ
671	Ⅴ区 Ⅲc層	坩	—	—	—	半ミガキ～工具ナデ	ナデ～ハケ	微砂少量 角閃石微量	良	黒斑・淡黄褐	淡灰褐～黒褐	
672	Ⅴ区 Ⅲc層	小型壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	あまい	茶灰～茶褐	淡茶褐～茶褐	外面：マメツ
673	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	85～88	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡灰褐～淡茶褐	淡黒灰～褐灰	内面：オコゲ
674	Ⅴ区 Ⅲc層	台付鉢か	—	86	—	工具ナデ	工具ナデ・ナデ	粗細砂やや多い	良	淡灰褐～淡褐	淡黒灰	
675	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	87	—	ハケ・板ナデ	ハケ	細砂やや多い 赤褐色粒少量	良	淡黄褐～淡橙黄	淡灰褐	
676	Ⅴ区 Ⅲc層	甕	—	39	—	粗工具ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	良	黄褐～淡灰黄	茶褐～淡黄褐	
677	Ⅴ区 SB-04 上面Ⅲc層	甕	—	64～72	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂やや多い	ややあまい	橙黄～淡黄灰・黒斑	淡橙黄～淡灰褐	
678	Ⅴ区 SB-04 上層Ⅲc層	壷	—	—	—	粗工具ナデ	ハケ	粗細砂多量	良	淡黄褐～淡灰黄	淡茶灰～淡橙黄	
679	Ⅴ区 Ⅳa層	鉢か	—	—	—	ハケ	ハケ	良	良	淡黄褐	淡黄～淡橙黄	
680	Ⅴ区 Ⅳa層	壷	104	—	—	丁寧工具ナデ	工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡黄褐～淡灰褐	淡褐～淡黄	
681	Ⅴ区 Ⅳa層	壷	113	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	橙褐	橙褐～暗緑灰	
682	Ⅴ区 Ⅳa層	長頸壷	88	—	—	粗ミガキ	—	粗細砂少量	ややあまい	淡褐～黄褐	淡黄白	内面：マメツ
683	Ⅴ区 Ⅳa層	甕	—	82	—	—	—	粗細砂多量	ややあまい	淡黄褐～橙褐	橙褐	両面：マメツ 内面：オコゲ

表45　調査区出土石器観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			重さ（g）	石材	備考
			長さ	幅	厚さ			
第125図 684	ＰＰ-121	磨製石鏃	(14)	(11)	2	--	粘板岩	
685	ＳＡ-11	磨製石鏃	(18)	(20)	3	1	粘板岩	
686	ＳＡ-07	磨製石鏃	(21)	(20)	3	2	粘板岩	使用後再加工か
687	Ｖ区Ⅲc層	磨製石鏃か	44	25	3	3	粘板岩	
688	ＳＡ-13	磨製石鏃未製品	30	18	2	2	粘板岩	
689	ＳＡ-12	磨製石鏃未製品	30	22	4	3	粘板岩	
690	ＳＡ-13	磨製石鏃未製品	26	26	3	2	粘板岩	
691	ＳＡ-02	石匙未製品	34	44	5	9	チャート	
692	Ｖ区Ⅲb･c層	石包丁	30	--	5	8	粘板岩	
693	Ｖ区Ⅲc層	石包丁	(37)	(55)	5	14	粘板岩	
694	ＳＡ-07	石包丁	39	(63)	5	18	粘板岩	B面の一部に光沢 片刃に近い両刃
695	ＳＡ-01	刃器	67	82	15	92	砂岩	
696	Ｖ区Ⅲb･c層	２次加工のある剥片	43	(62)	5	17	砂岩	
697	Ｖ区Ⅲc層	器面調整具か	58	15	11	10	粘板岩	
698	ＳＡ-10	器面調整具か	61	14	7	8	粘板岩	
699	ＳＫ-19	器面調整具か	123	21	12	41	粘板岩	
700	ＳＡ-08	使用痕のある剥片	116	67	22	132	ホルンフェルスか	
第126図 701	ＳＫ-19	石鍋	(36)	(140)	(33)	180	滑石	
702	Ｖ区Ⅲb･c層	滑石製模造品か	(37)	(37)	8	13	滑石	石斧か
703	ＰＰ-375	石鍋片再加工品	40	(60)	15	75	滑石	用途不明

No	出土地	器種	法量（mm）			重さ（g）	石材	備考
			長さ	幅	厚さ			
704	ＳＫ-41	砥石兼敲き石	178	70	49	1250	砂岩	
705	ＳＡ-16	砥石	(83)	72	8	69	砂岩	
706	ＳＡ-04	砥石	104	(40)	36	308	砂岩	
707	ＳＡ-02	砥石	(81)	47	7	51	粘板岩	
708	ＳＡ-13	砥石	107	46	16	95	粘板岩	
709	ＳＡ-12	砥石	103	56	14	126	粘板岩	
710	ＳＡ-07	砥石	173	(59)	11	174	粘板岩	
711	ＳＡ-16	砥石	147	67	20	192	粘板岩	
712	Ｖ区Ⅲb･c層	砥石	(59)	(59)	16	78	砂岩	
713	Ｖ区Ⅲc層	砥石	(81)	(37)	21	124	砂岩	
第127図 714	Ｖ区Ⅲb･c層	砥石	(131)	71	13	172	粘板岩	線状痕
715	Ｖ区Ⅲc層	砥石	(86)	(82)	21	192	砂岩	
716	Ｖ区Ⅲc層	敲き石	103	95	57	850	石英	
717	Ｖ区 Ⅲb層	すり石	(88)	(41)	(56)	252	溶結凝灰岩	
718	ＳＡ-09	台石	(198)	(117)	34	1110	砂岩	砥石的用途
719	ＳＡ-13	台石	186	126	31	1460	溶結凝灰岩	砥石的用途
720	ＳＡ-01	台石	360	179	103	9740	凝灰質	砥石的用途
721	ＳＡ-05	台石	315	154	106	6400	溶結凝灰岩	砥石的用途
722	ＳＡ-11	台石	129	95	95	472	砂岩	砥石的用途

表46　掘立柱建物跡　一覧

ＳＢ	梁行		桁行		面積（m²）	廂	廂を含む面積（m²）	主軸方位	柱穴の規模		備考
	間	長さ（m）	間	長さ（m）					直径（cm）	深さ（cm）	
01	2	2.82～2.91	3	5.95	17.0			N５°E	20～34	18～32	
02	2	4.57～4.60	2	5.73～5.76	27.3			N３°E	14～22	10～53	
03	2	4.87	3	8.10～8.48	40.4			N８°E	26～32	42～76	
04	2	3.96～4.07	2	5.50～5.66	22.4			N85°E	17～30	26～34	
05	2	3.94～4.13	3	7.11～7.41	29.3			N12°E	20～31	17～50	
06	2	4.25～4.28	3	6.88～7.12	29.8	南面	38.8	N85°W	18～30	20～47	
07	1	3.46～3.60	3	6.23	22.0			N89°W	26～36	42～62	近世
08	2	4.08～4.44	2	5.50～5.54	14.5			N８°E	16～21	10～42	
09	2	4.34～4.38	3	6.44～6.48	28.2			N81°W	22～64	40～68	
10	2	4.20～4.27	3	6.03～6.20	25.8			N83°W	19～27	18～41	
11	2	4.15～4.18	3	7.30～7.72	31.2	（西面）	(37.0)	N78°W	22～29	38～84	廂の有無は不明確
12	2	4.01～4.03	3	7.24～7.38	29.4			N２°E	15～22	26～43	
13	2	4.04	(2)	(3.94)	--			N６～11°E	18～24	32～65	

第Ⅳ章　総括

当遺跡の変遷を時期ごとに概観する。

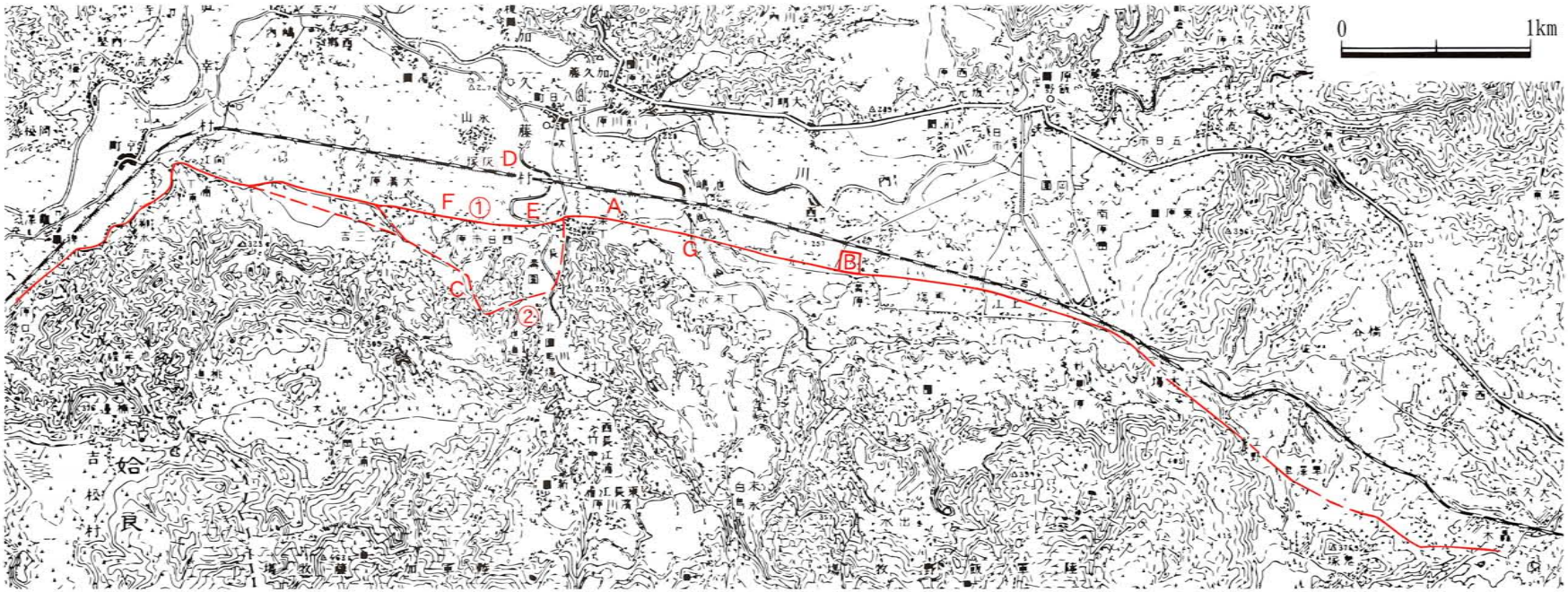
Ⅰ期　当該期の遺構はないが、黒髪式土器の甕や口縁部を肥厚・突出させて胴部に数条の刻み目突帯を有する甕が出土しており、近隣地区での弥生時代中期末における極く短期間の居住もしくは低地での営農が想定される。

Ⅱ期　弥生時代後期から竪穴住居を営んだ定住が始まり、布留式併行期まで継続する。円形竪穴住居の中央土坑にはていねいな貼り床が施され、炉として使用されたと思われるが、明瞭な被熱痕跡は認められない。中央土坑は２～３面使用した例が多く、これらは主として、冬期の使用によるものではないかと推定される。貼り床に使用した淡灰白色系の粘質土は、01・09・11～13号住居に顕著に認められ、供給源は深掘坑１の最下部・Ⅳ層下80cmで確認された。従って竪穴住居構築時に北側の氾濫原付近から運び込んだことが推定される。竪穴住居の周辺には不要物廃棄坑が設けられる。具体的な例は明示しづらいが、01号住居と39号土坑からは同型の台付鉢（108と505）が出土しており、関連性が想定される。５～６世紀代の遺物は無く、集落が再び段丘面へ移動したことが窺える。

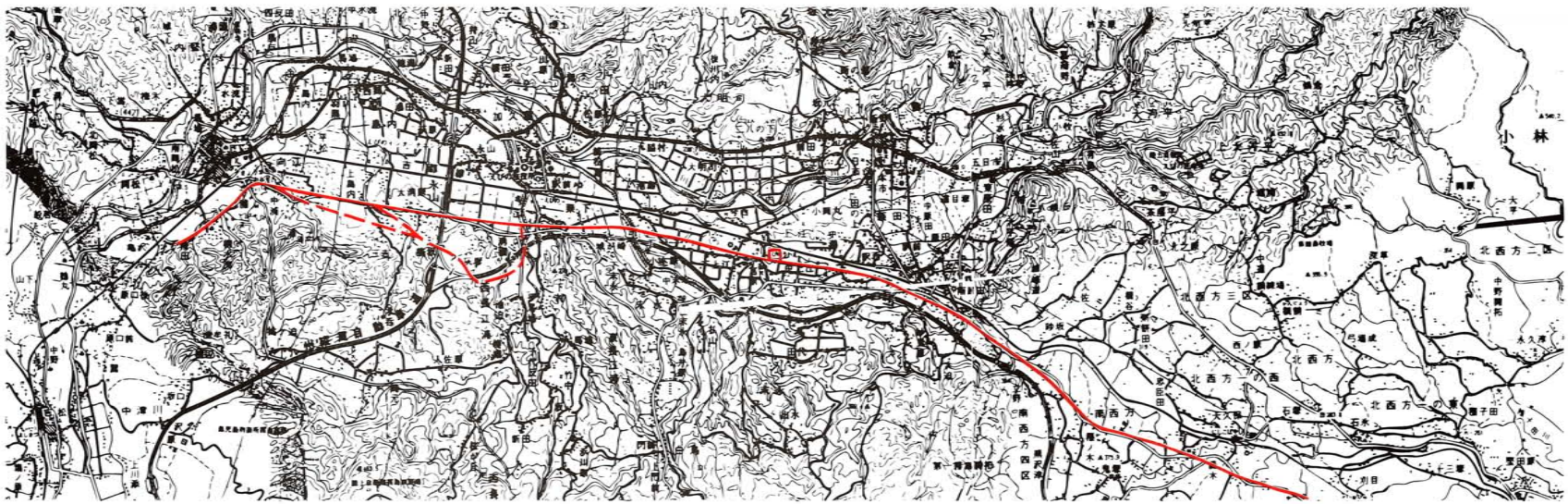
Ⅲ期　８世紀末か９世紀に入って施工されたと推定される官道は、９世紀後半に埋没する。木下良氏の推定官道痕跡（Ａ地点）が間接的に証明されたが、施行時期に関しては８世紀代に遡らせることすら困難な結果となった。道路幅は一定でなく、側溝も断続的に片側だけ付設され、硬化面も殆ど無い。つまり、突貫工事的な間に合わせの様な構造で、あまり使用されることもなかったと言える。構造的には物足りないが、県内唯一の官道痕跡および官道のルートが解明される糸口となったことは重要な成果である。県内および南九州の官道については歴史地理学的研究にとどまっていた[(1)]が、近年、鹿児島県姶良郡姶良町城ヶ崎遺跡の官道跡が試掘調査され[(2)]、考古学的にも解明され始めるようになってきた。日向国府と肥後国府とを繋ぐルートとして本市の川内川左岸段丘上を通ることは想定されていた。筆者は真斫（ませき）駅については、９世紀後半の土師器類に伴う布目瓦が出土する法光寺跡[(3)]の前身が真斫駅だった可能性が強いと思っているし、瓦だけ見ると、８世紀代まで遡る可能性もある。官道は市内を一直線に通ったと推定するルート①（第130・131図）と、長江川右岸から南へ折れて（Ｅ地点）灰塚の台地を通って東へ抜けるルート②が考えられる。ルート②の必然性は、長江川は古代から激しい氾濫があり、灰塚まで800ｍの氾濫原（Ｅ地点）があること、灰塚の西下（Ｆ地点）は幅300ｍの字向牟田（むこむた）地内にあたり字名のごとく腐植土が２ｍ以上堆積しており[(3)]、耕作地は農耕馬が腰まで入っていたと聞く軟弱な地盤で、道路は建設できなかったのではないかという[(4)]考えもあることから、一直線に横切ることは困難なこと、50年位前まで存在した道のことを考えて、ルート②が浮上した。反面、同様の地理的条件である幅850ｍのＧ地点は、Ａ地点と段丘を繋ぐ直線道路しか考えられないとすれば、Ａ地点の西側も屈折することなく、直線で繋いでいたとしなければならない。さらに、弥生時代前期～中期中葉までと７～９世紀前半、市内の

X＝－106,000,000
0
10
50m
凡　例
黒色：弥生時代後期～古墳時代前期
赤色：古代
緑色：中世
橙色：近世
Y＝－16,900,000
X＝－107,000,000
Y＝－16,800,000

第129図　遺構変遷図



第130図　官道と駅　推定図（1）　明治35年大日本帝国陸地測量部作図、大正２年鉄道追加、大正10年発行



第131図
官道と駅
推定図（2）
現代の地図
（1：50,000）

段丘面では遺構・遺物が極めて稀薄であることの成因は、盆地中央を西流する川内川が大きく氾濫することなく、比較的定位置に安定していたため、氾濫源までの水稲や居住が可能となって集落が大移動したことが考えられる。必然的にE・F地点も安定していたということで、地業や架橋等によって直線道路化を可能にしていた可能性もあることは充分考えられる。ただし、9世紀後半には集落は段丘上に殆ど移動したと推定されることから、この時期に川の大氾濫が発生し、段丘下の官道はルート②へ移設しなければならなくなったことは容易に推定される。推定官道ルート①の500m北に存在している字真崎(まっさき)、推定官道ルート②の途中に位置する灰塚の台地も駅の候補に掲げられている。字真崎については官道からの距離が離れすぎていることから、後世の字名と推定される。なお、夷守駅の推定地である小林市大字細野十日町付近から法光寺跡までは約13kmで、灰塚までは約17.3kmを測り、距離的には後者の方が有望である。また、04号建物の主軸は官道と平行することから、ほぼ同時期の可能性がある。

Ⅳ期　中世前半、掘立柱建物群を区画溝で囲む集落が営まれる。建物は主軸を2～3度東にとる02・12号建物の時期から5～8度東にとる01・03・06・08～10号建物の時期（3小期に細分)、11～12度東にとる05・11・13号建物の時期（2小期）へと移行すると推定される。集落内には、子供の墓と推定される円形土壙墓も不規則な配置に営まれる。生活・生産に不可欠な水は、灌漑によって確保されている。Ⅲ区のさらに東側に中世後半～近世の再建用水路が包蔵している可能性もある。集落としては、10～16haの規模であったと思われる。

Ⅴ期　中世末～近世初頭、東西方向のⅤ区02号道路などを施工し、計画的な地割りが施され、大規模な水田開発が始まった時期と思われる。ただしここでは単発的な分布状況であることから、具体的な内容は不明である。

Ⅵ期　近世後半、Ⅴ期を継承し、永続的水田経営の地となった。道路は依然として掘削する工法で構築されている。

以上、Ⅰ～Ⅵの6期に分けて概略的変遷を述べた。竪穴住居については、円形もしくは円形と推定されるもの以外は平面プランの確認が極めて困難であったことから、完璧には調査できていないことを明記しておく。官道跡の研究については、出発点であり、今後の調査の積み重ねによって解明されていくであろう。

註

(1) 詳細は　永山修一「日向国の官道」『宮崎県史　通史編　古代2』宮崎県　1998　を参照されたい。

(2) 姶良町歴史民俗資料館の下鶴弘・深野信之両氏に御教示頂いた。

(3) 約10年前、排水路工事中に筆者が確認した。

(4) えびの市歴史民俗資料館嘱託員の市田寛幸氏に御教示頂いた。

宮崎県えびの市草刈田遺跡出土の中世人骨

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
竹　中　正　巳

宮崎県えびの市草刈田遺跡１号土壙墓から１体の人骨が出土した。所属年代は、考古学的所見から12～14世紀と考えられる。人骨の保存状態は悪く、計測可能な部位はない。

遺存している骨は、頭蓋と体肢骨の一部である。火葬された痕はない。頭蓋は後頭骨から頭頂骨にかけての破片が大きい（図１）。歯は下顎小臼歯と思われるエナメル質片が２本分残る。体肢骨で部位を確実に同定できる骨片はない。

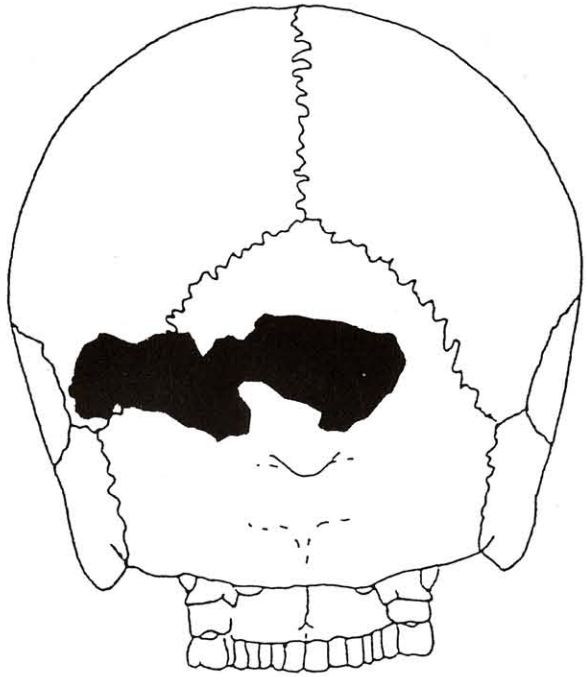
性別を判定できる部位が遺存していないため、性別は不明である。年齢判定は、ラムダ縫合の左側の一部が観察できた。内板は癒合を開始しており、年齢は壮年後期から老年の範囲に入ると考えられる。

人骨の出土状態は、頭蓋を中心に、その南、北と西側に長骨が遺存している。西側の長骨の一部は頭蓋の下にある。土壙の形態と人骨の出土状態を考え合わせると伸展位で埋葬されていた可能性は低い。土壙墓は当時の地表面から約40㎝弱しか掘り込まれていないことを考えると、手足を屈折し、寝たような姿勢で埋葬されたはずである。坐位屈葬や側臥屈葬などの埋葬姿勢は熊本県の尾窪遺跡（熊本県教育委員会，1973）や鎌倉市の由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市由比ヶ浜南遺跡発掘調査団，2002）など中世の土壙墓で確認されており、本人骨もこのような埋葬姿勢で埋葬されたと考えるのが一番妥当であろう。

参考文献

鎌倉市由比ヶ浜南遺跡発掘調査団（2002）「神奈川県鎌倉市由比ヶ浜南遺跡」由比ヶ浜南遺跡発掘調査団，鎌倉.

熊本県教育委員会（1973）「尾窪　熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査」 熊本県教育委員会，熊本県文化財調査報告第12集.



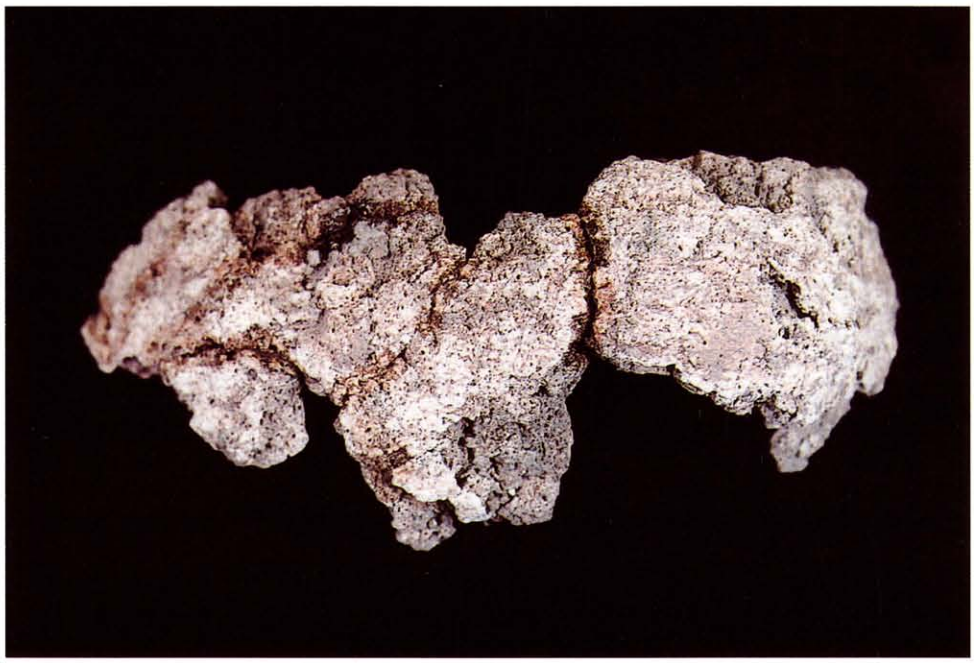
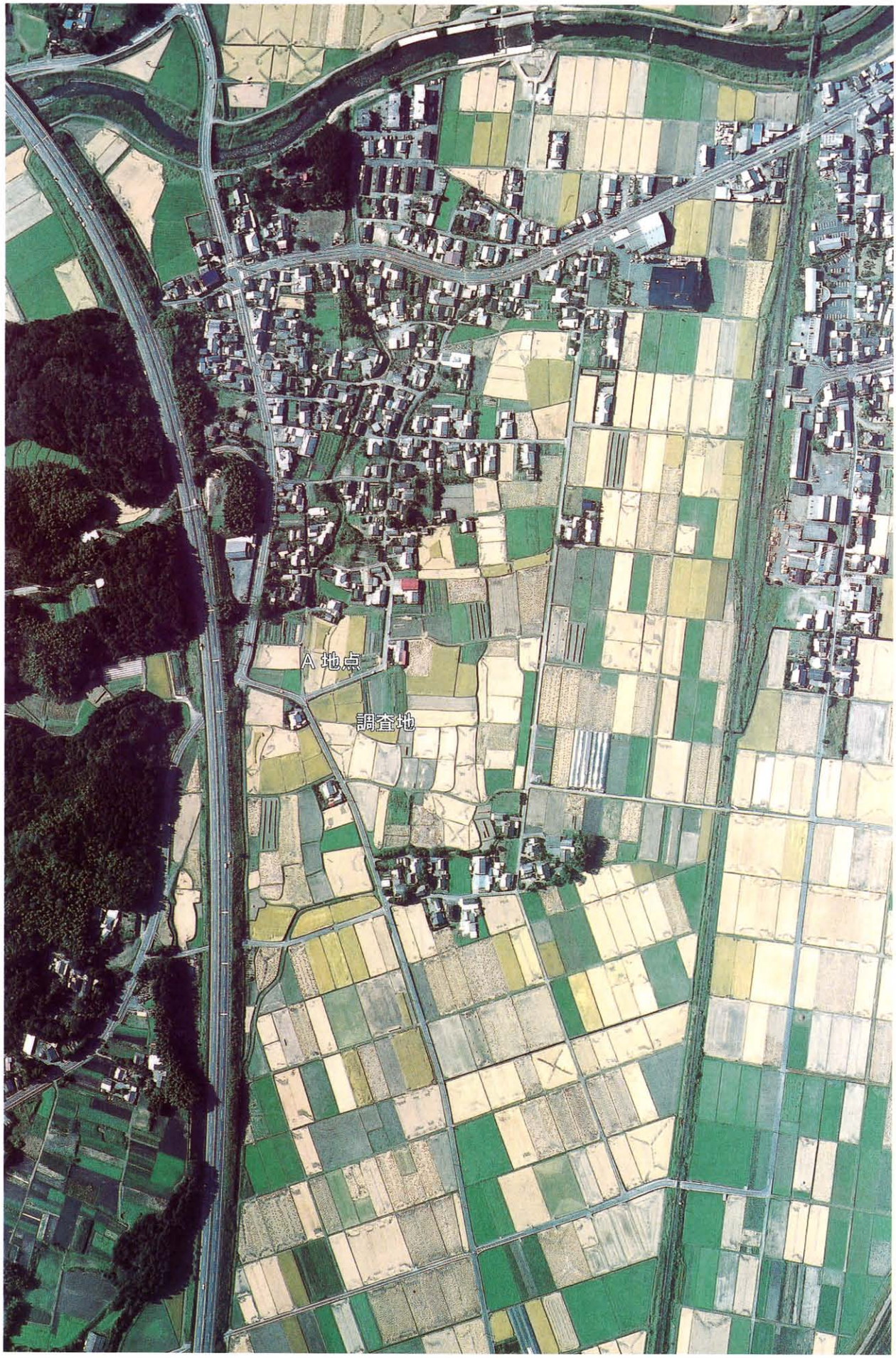


図１　宮崎県えびの市草刈田遺跡１号土壙墓出土人骨（後頭部）

写　真　図　版



調査前　調査地とその周辺　俯瞰（右が北）

図版 2

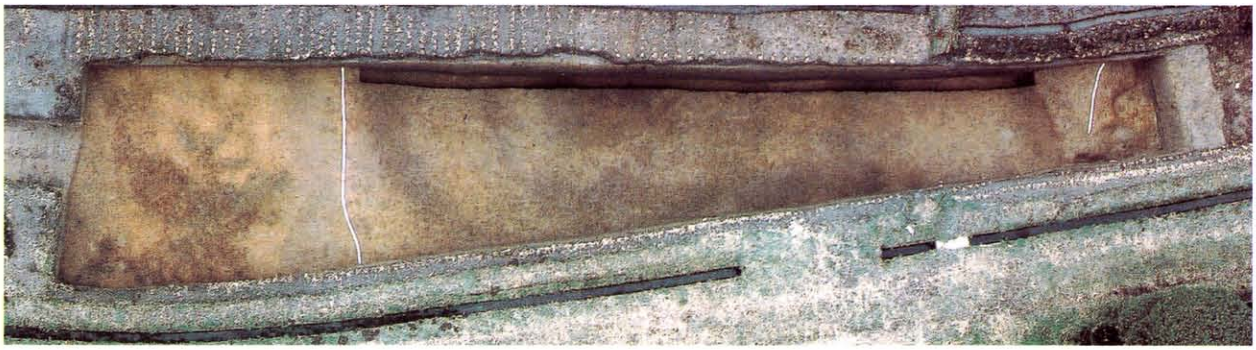
調査地近景（西から）

調査地近景（西から）

図版3

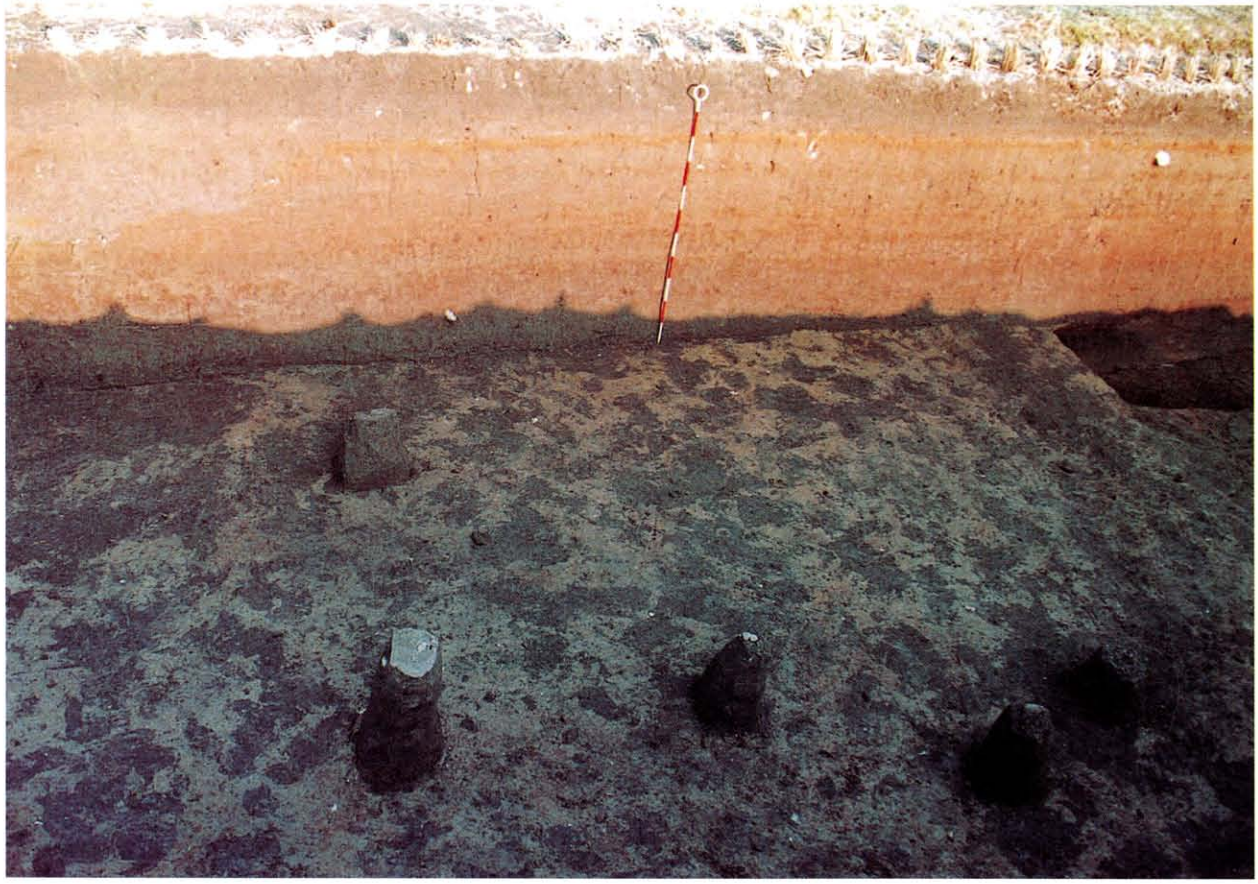
Ⅰ～Ⅲ区　完掘全景（右が北）

A地点　官道痕跡推定地　現況（東から）



Ⅰ区　完掘　俯瞰（右が北）

同　官道　2次面　遺物出土状態（南西から）

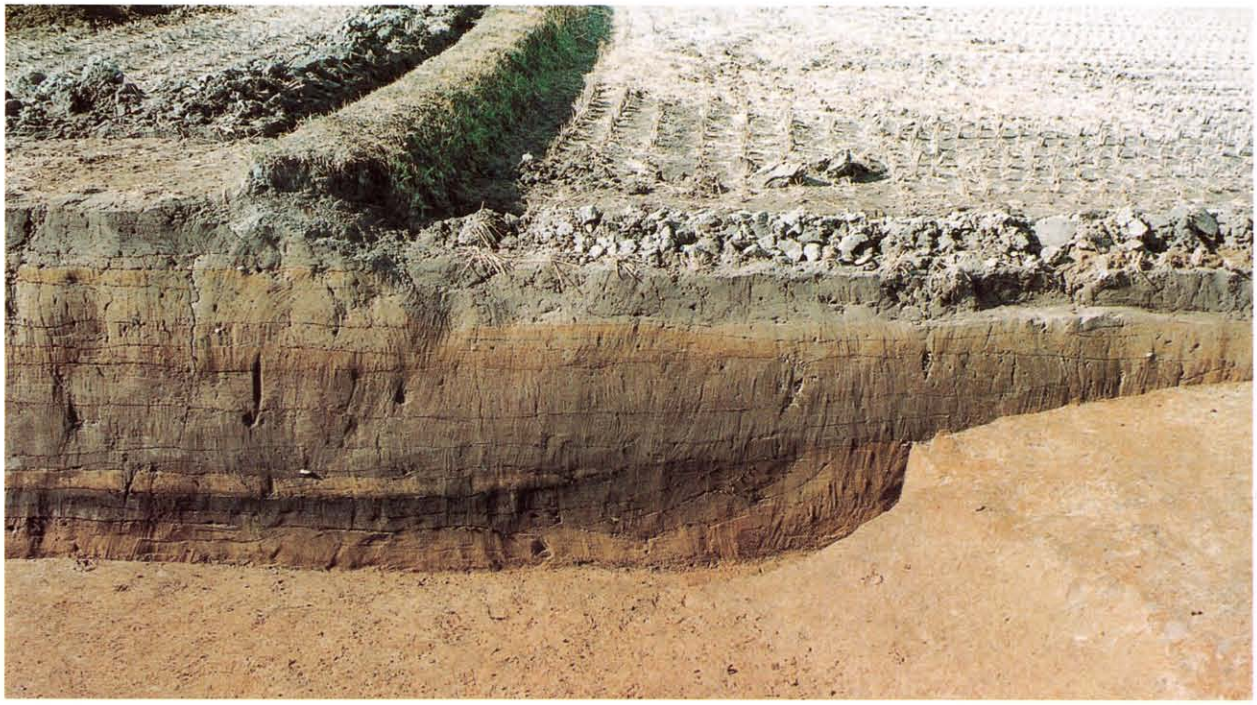


Ⅰ区　ＳＲ-01　北側　２次面上面・遺物出土状態（西から）

同　底面検出・西壁層序

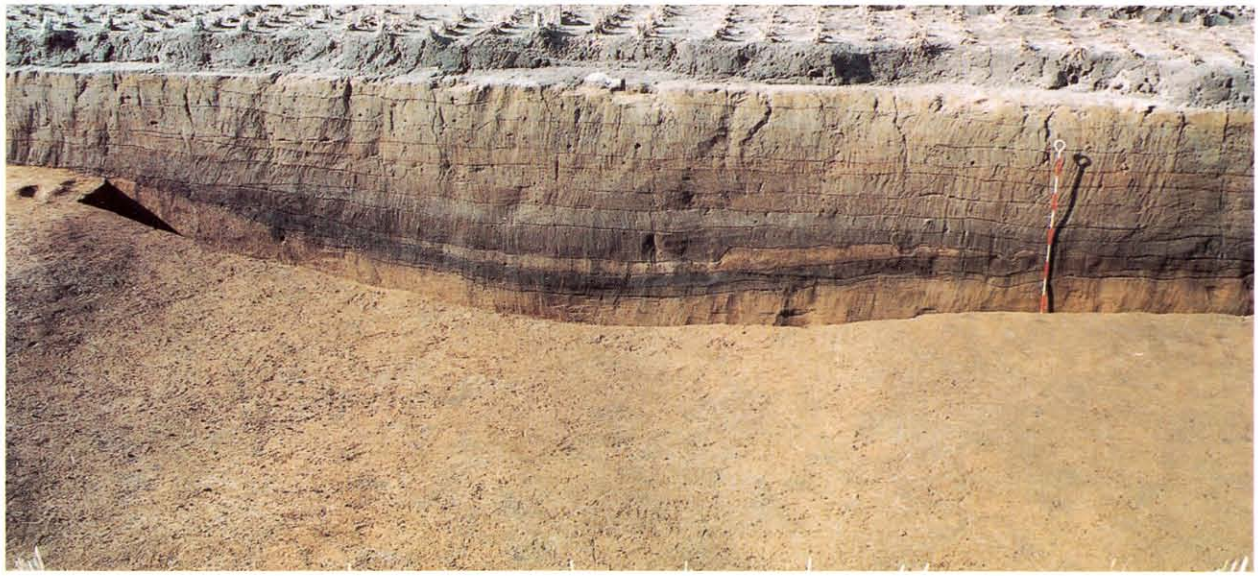
Ⅰ区　ＳＲ-01　西壁沿いサブトレンチ掘込　西壁層序（南東から）

同上（北東から）

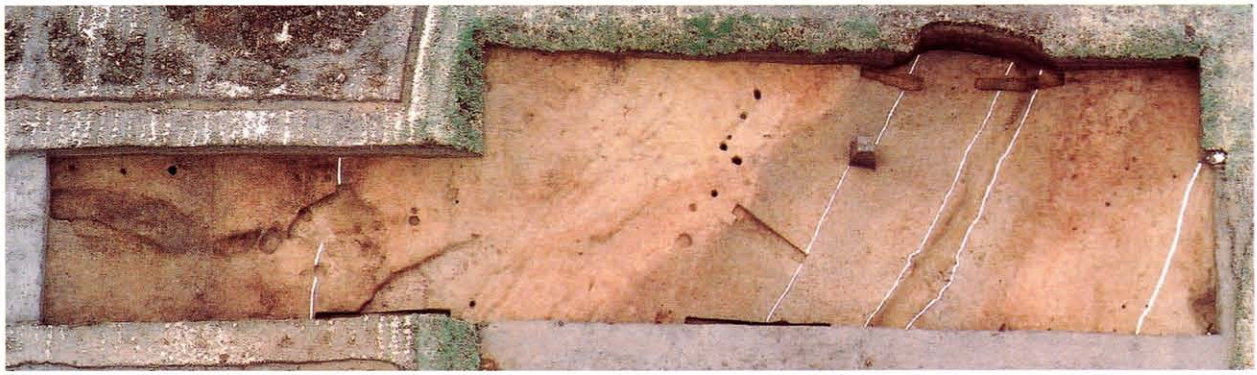


Ⅰ区　ＳＲ-01　西壁　北部　断面層序（東から）

同上　中央部（東から）



同上　南側（東から）



Ⅱ区　完掘　俯瞰（右が北）

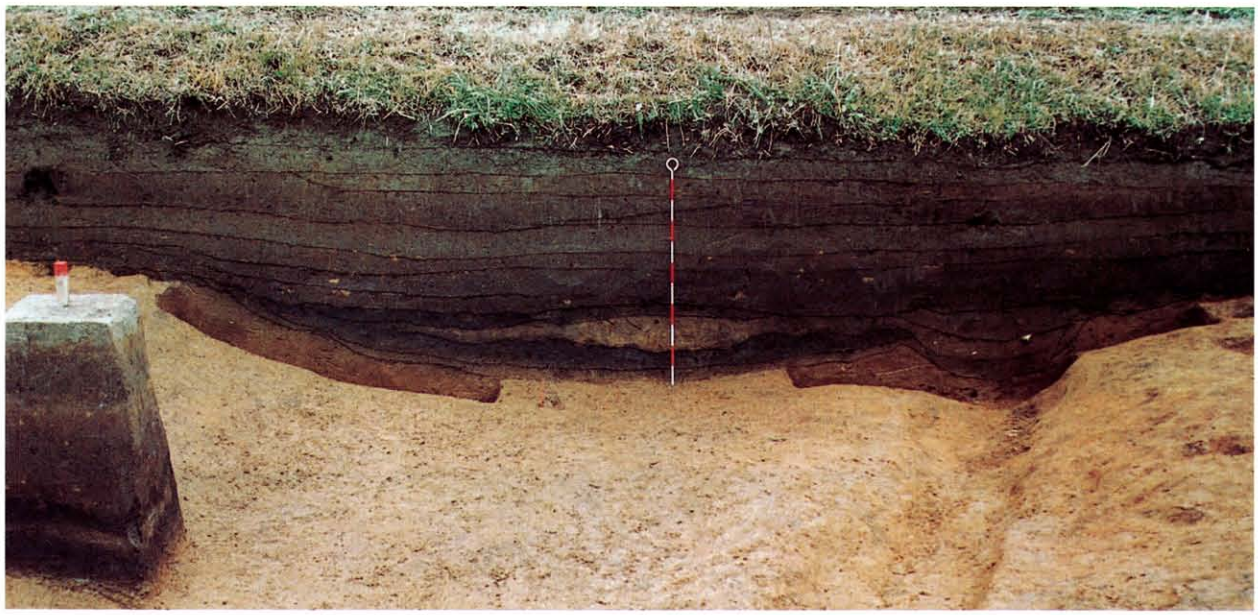
同　上層（ＳＲ-01埋没後）遺物出土状態（南から）

同　南西壁断面層序・遺物出土状態（北東から）

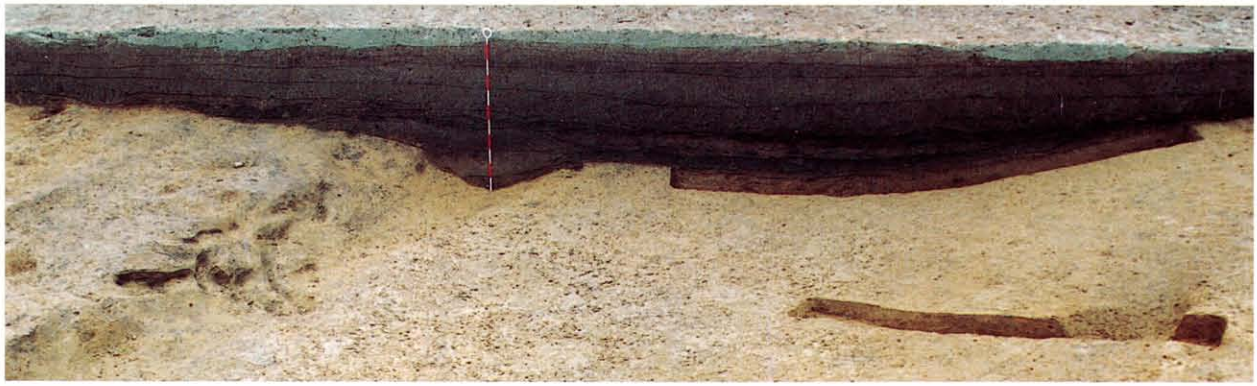
Ⅱ区　ＳＲ-01　完掘全景（北から）

同上（北西から）

Ⅱ区　北半部・東壁層序（南西から）



同　ＳＲ-01　最深部　西壁層序（東から）



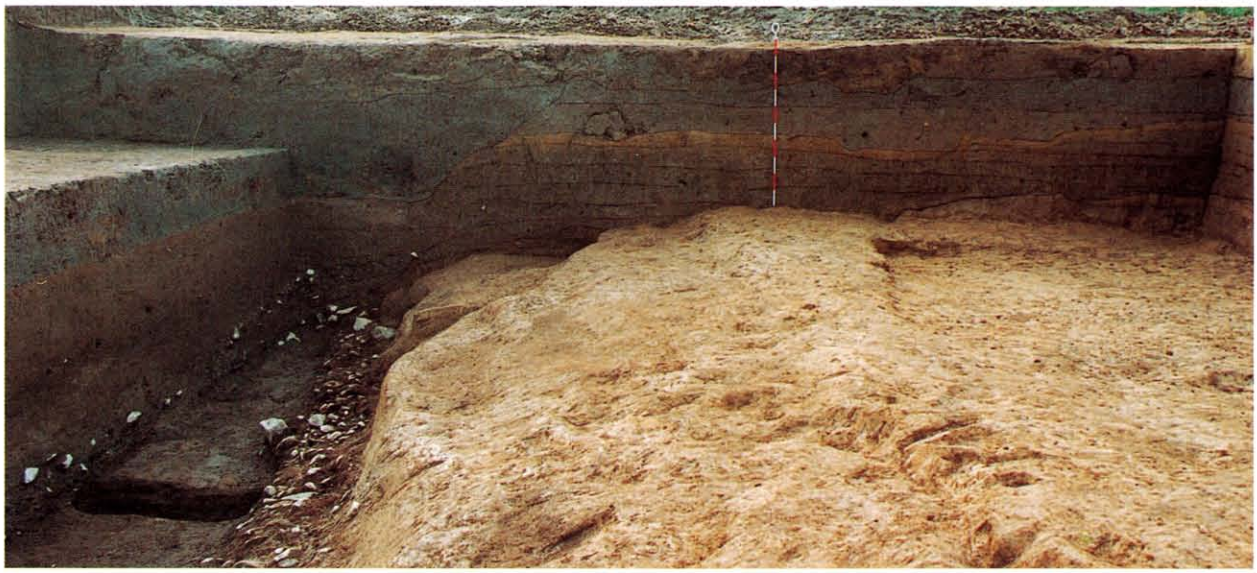
同上　東壁層序（西から）

Ⅲ区　完掘　俯瞰（右が北）

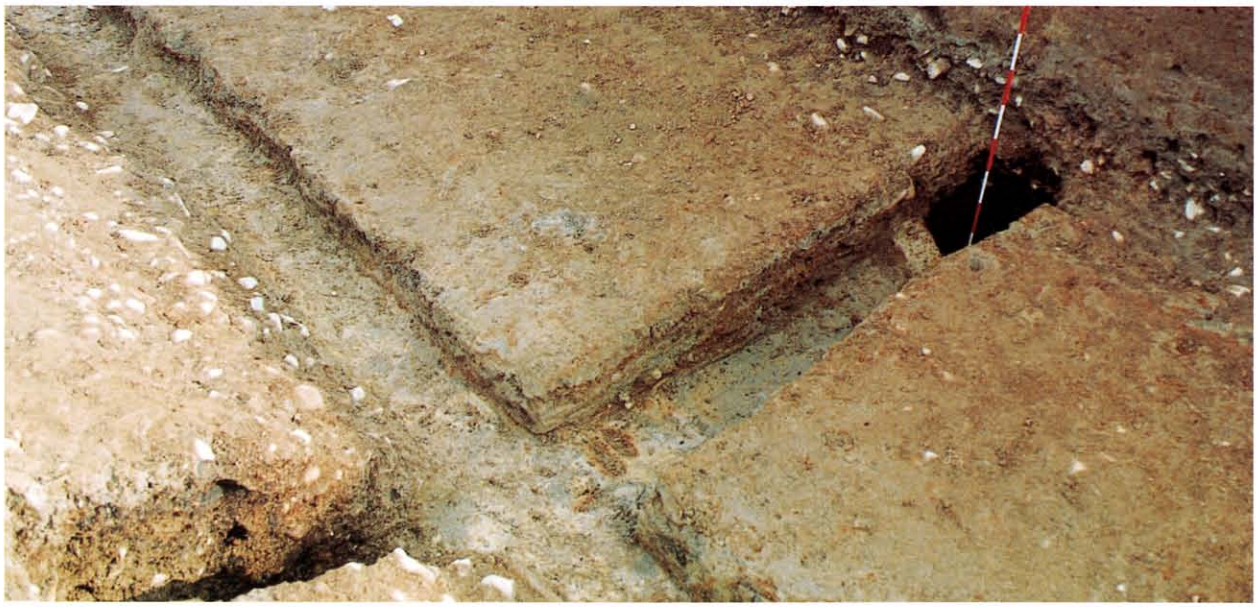
同　全景（南から）

同　東半部全景（南西から）

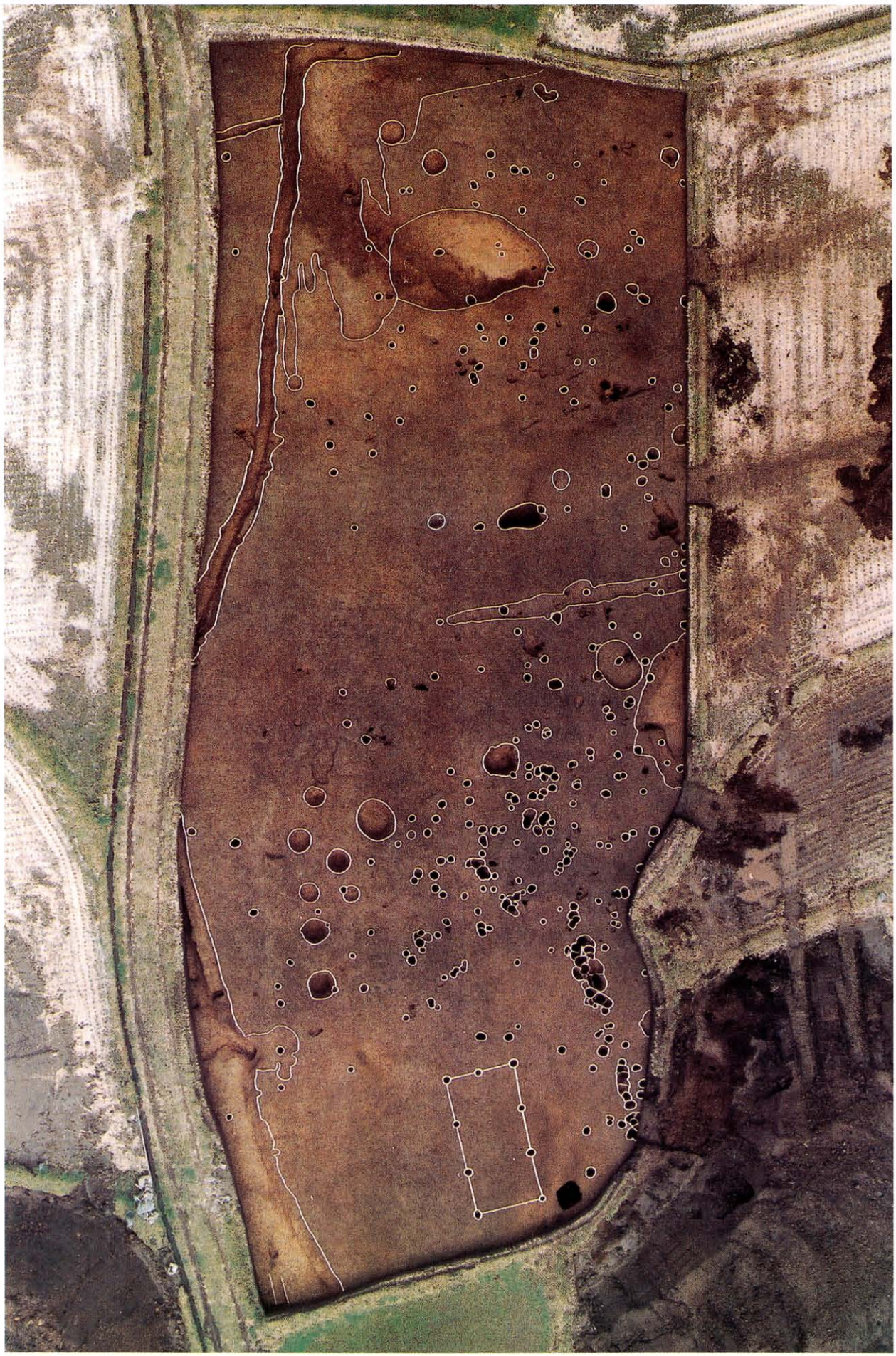
Ⅲ区　北壁層序・ＳＤ-01底面遺物出土状態（南から）



同　南壁層序（北から）



同　ＳＤ-01　底面　中央付近サブトレンチ断面層序（南西から）



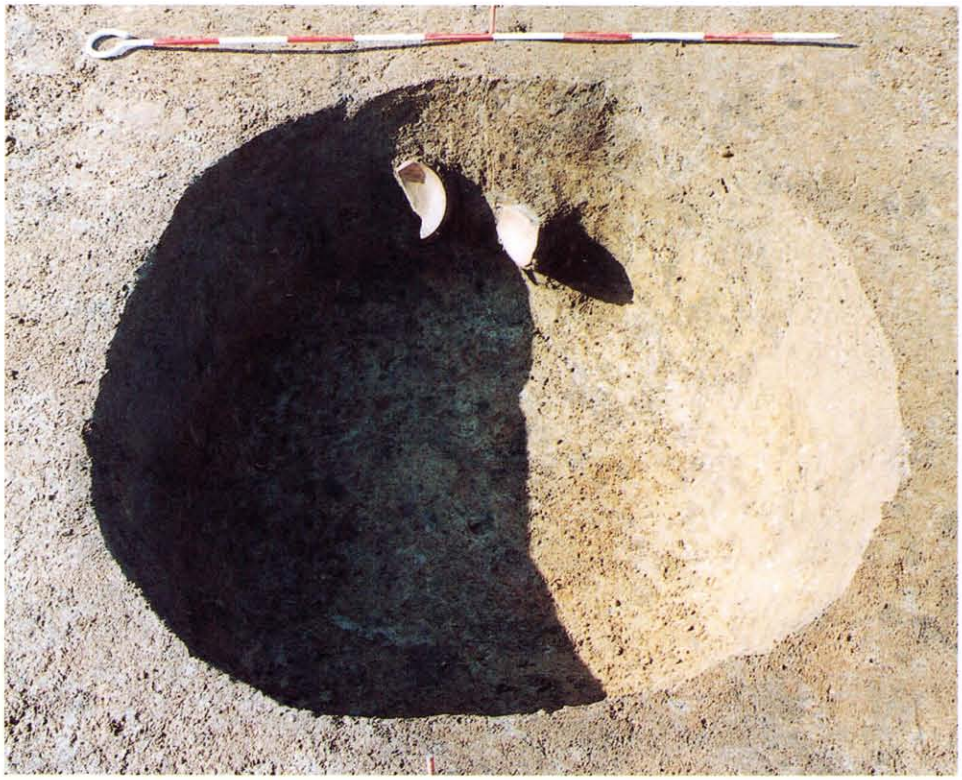
Ⅳ区　完掘　俯瞰

Ⅳ区
ＳＫ-01
断面層序
（南東から）

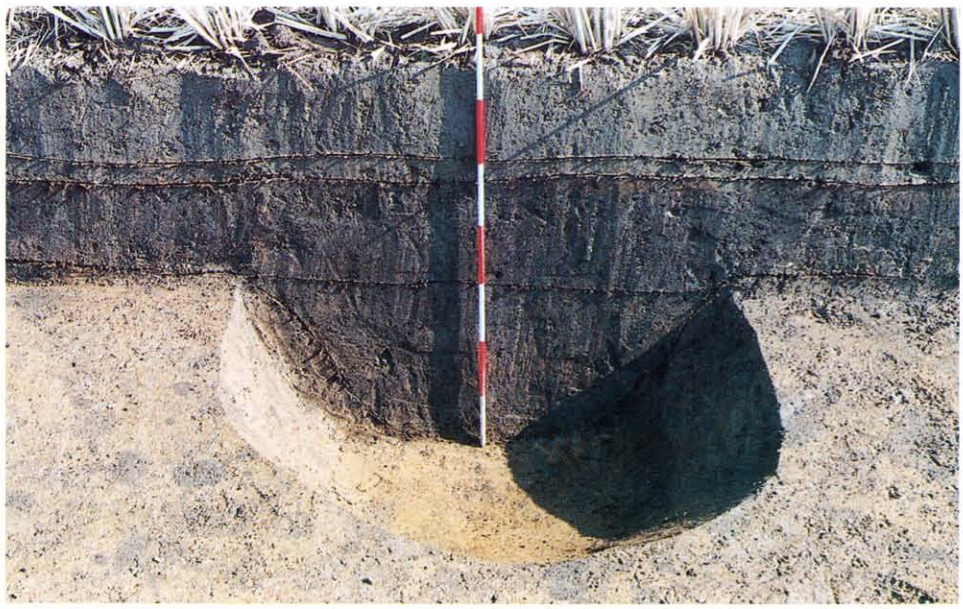
同上
完掘
人骨出土状態
（東から）

同上
接写
（西から）

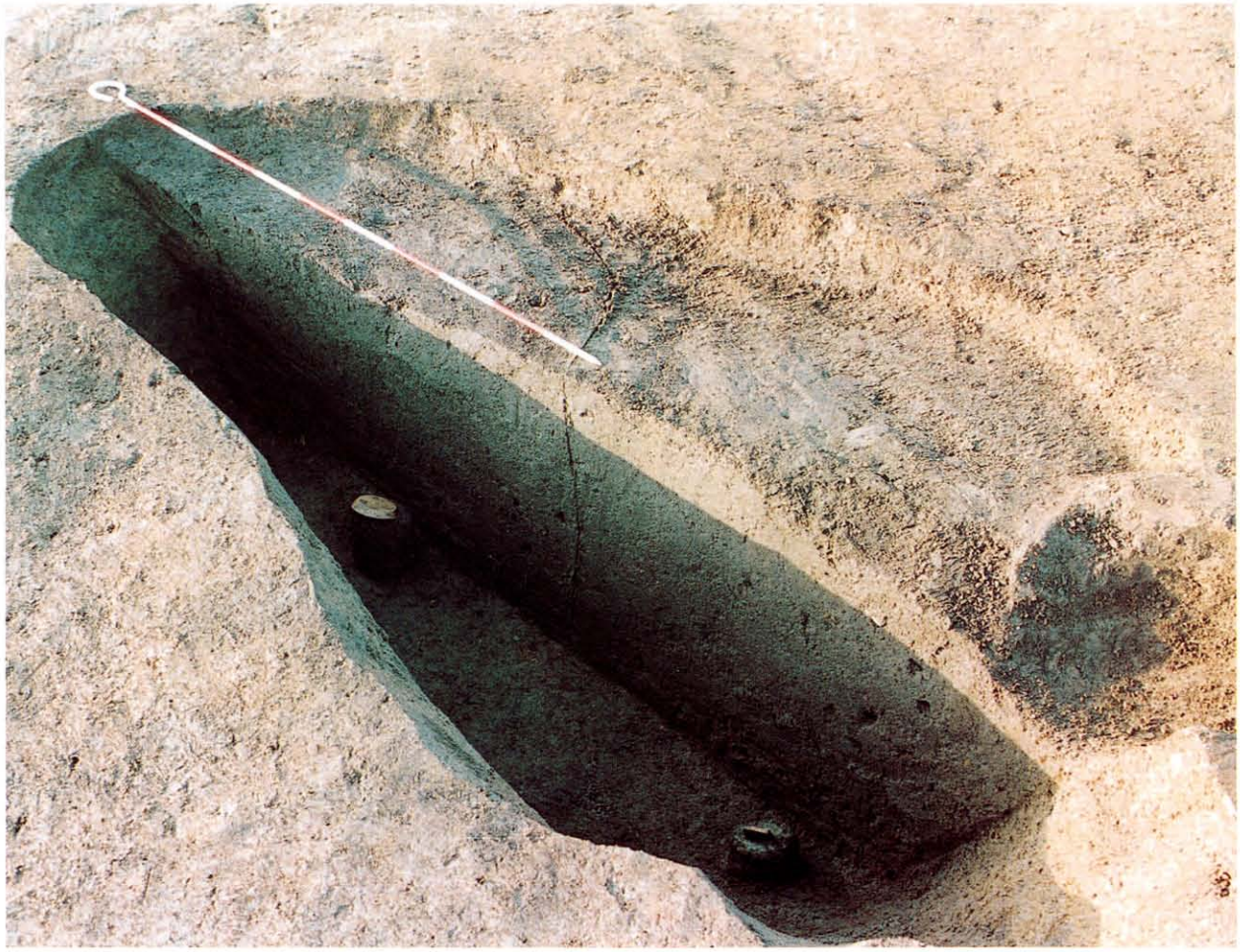
Ⅳ区
ＳＫ-02
断面層序
（南東から）



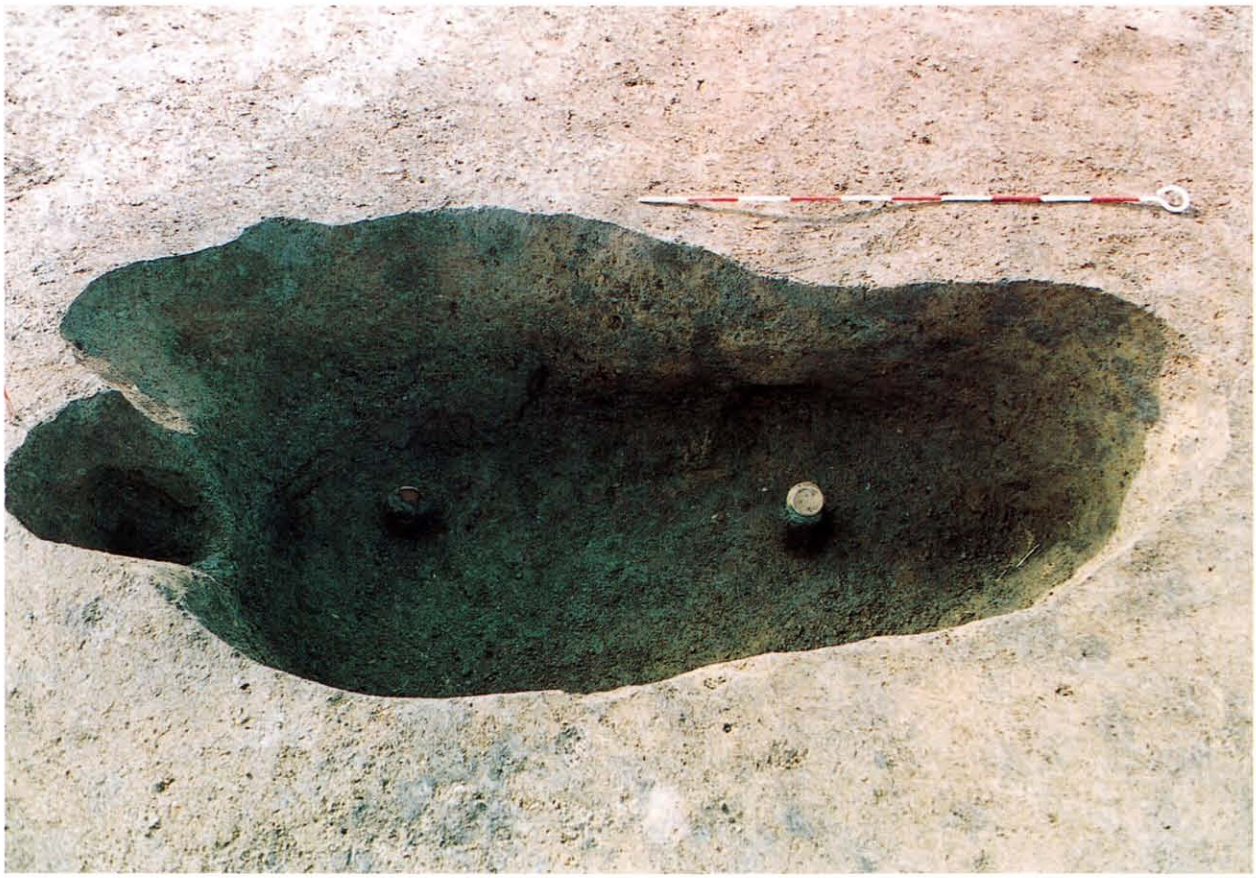
同上
完掘
遺物出土状態
（東から）



ＳＫ-06
断面層序
（西から）

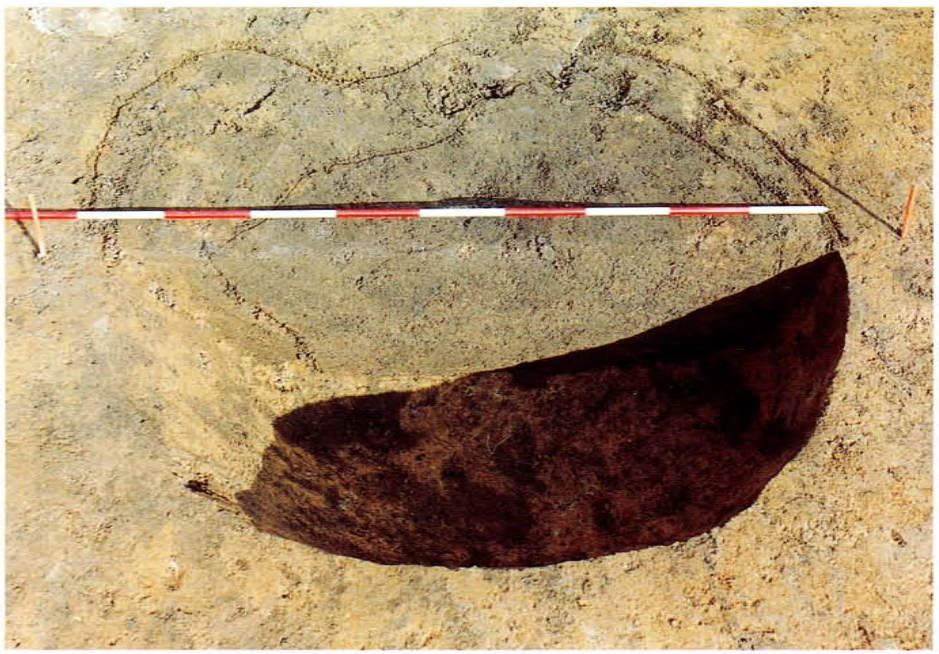


Ⅳ区　ＳＫ-09　断面層序（南東から）



同上　完掘・遺物出土状態（北から）

Ⅳ区　ＳＫ-11　断面層序（南西から）



ＳＫ-16　断面層序（南西から）

上：ＳＫ-14　断面層序（南から）　下：同　完掘全景（北から）

Ⅳ区
ＳＫ-17
断面層序
（南東
から）

ＳＫ-18　断面層序（南から）

上：ＳＫ-19　断面層序（南西から）　下：同　完掘全景（南西から）

Ⅳ区　ＳＫ-20　断面層序（南西から）

ＳＫ-22
断面層序
（南から）

ＳＫ-23　断面層序（南から）

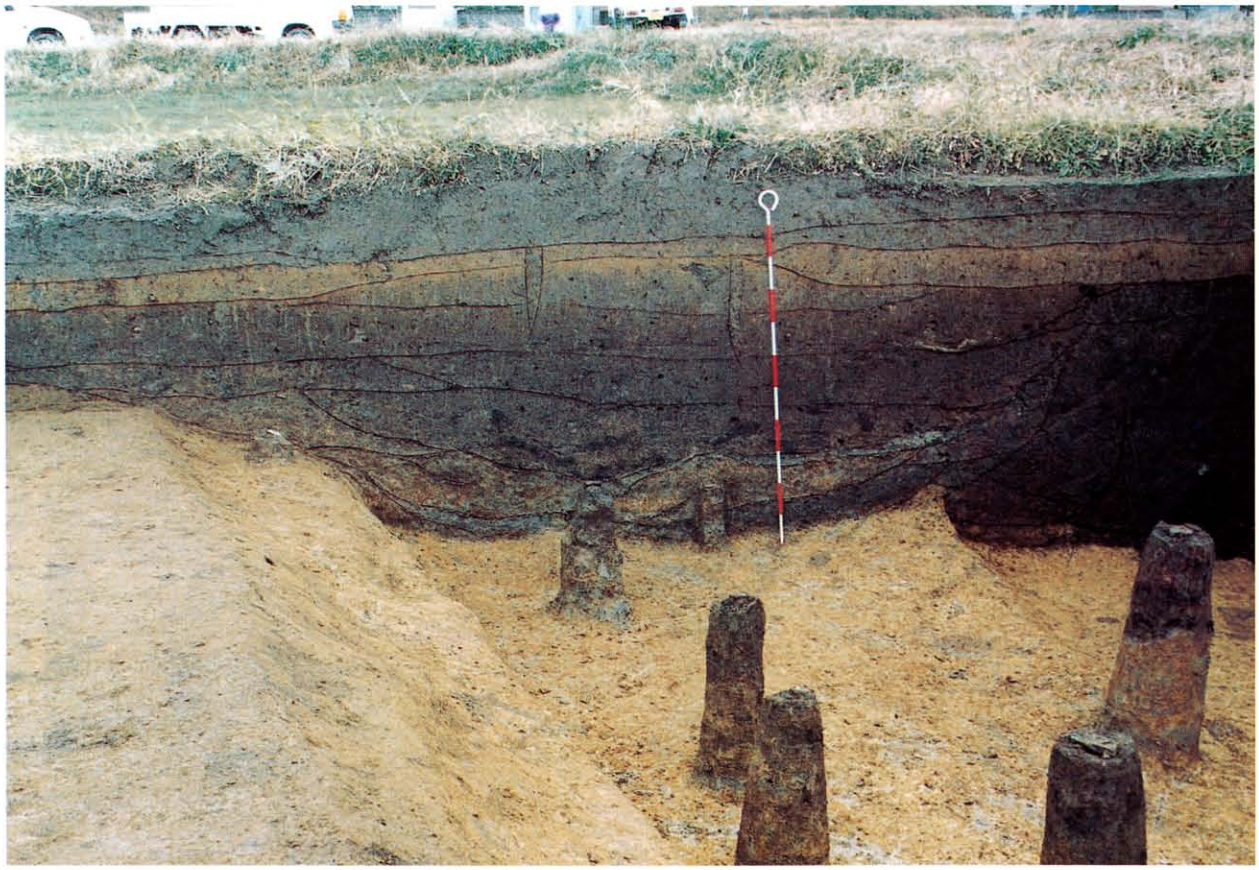
ＳＫ-13　断面層序・遺物出土状態（北西から）

ＳＤ-02・ＳＺ-01　断面層序（南から）

Ⅳ区　ＳＤ-02　断面層序・遺物出土状態（南から）

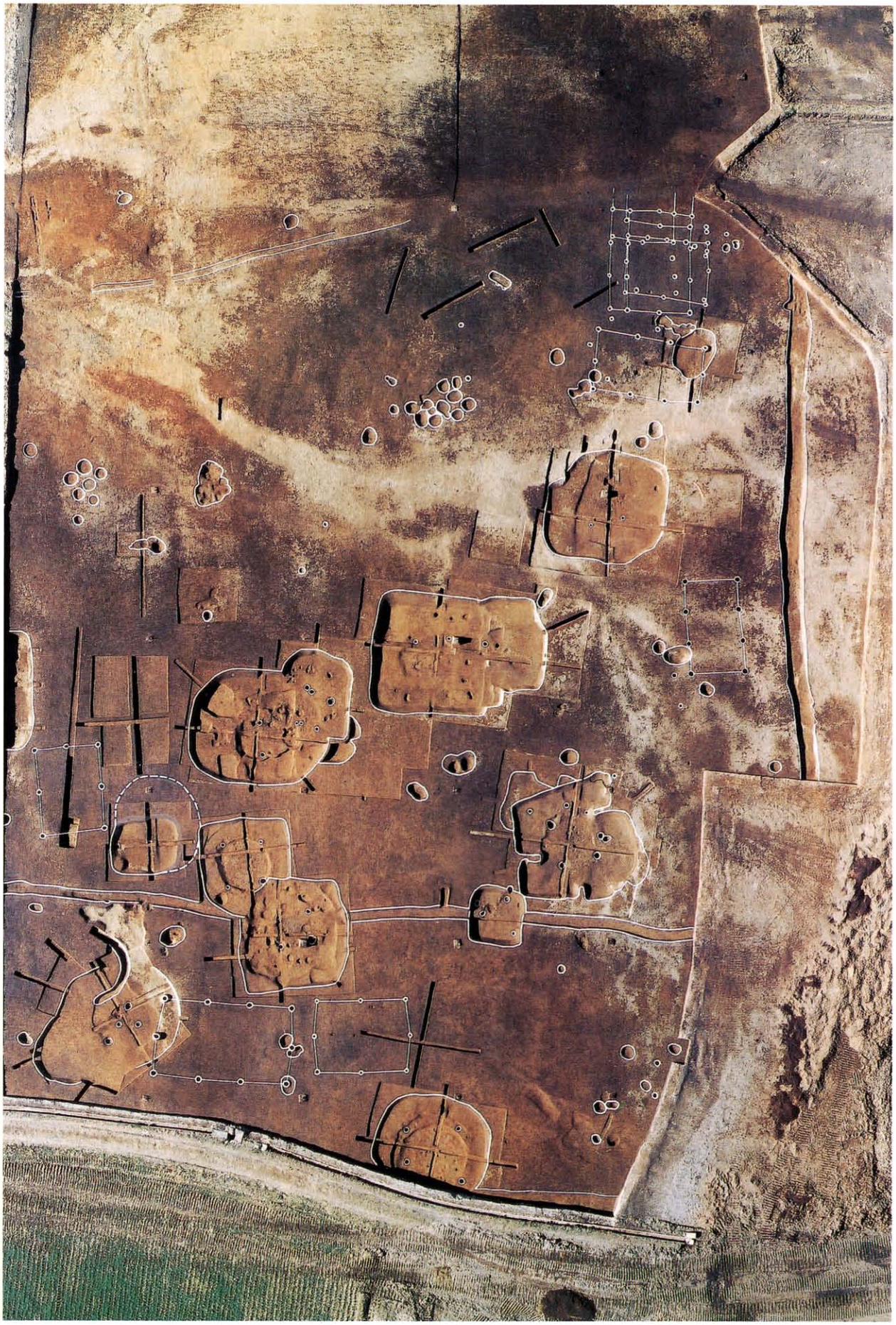
ＳＺ-02　断面層序・遺物出土状態（南東から）

Ⅳ区　ＳＤ-04　遺物出土状態・南～西壁断面層序（北東から）

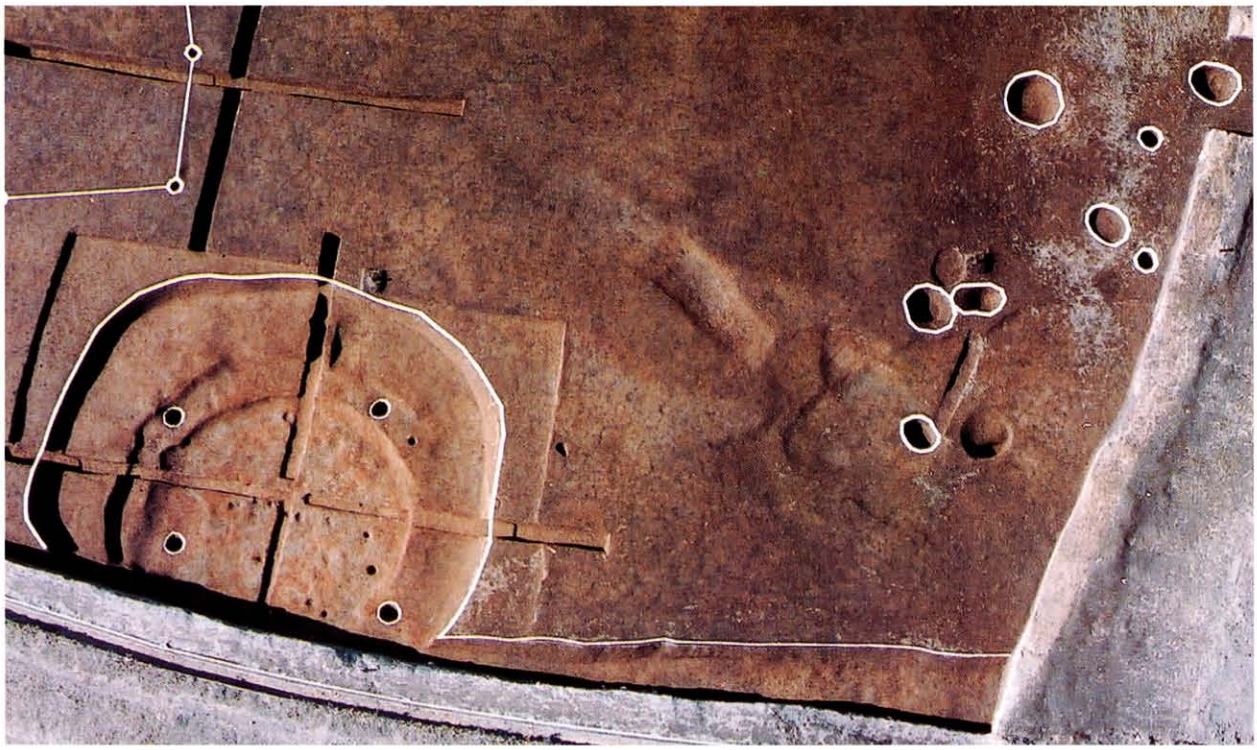


同上　南壁層序（北から）

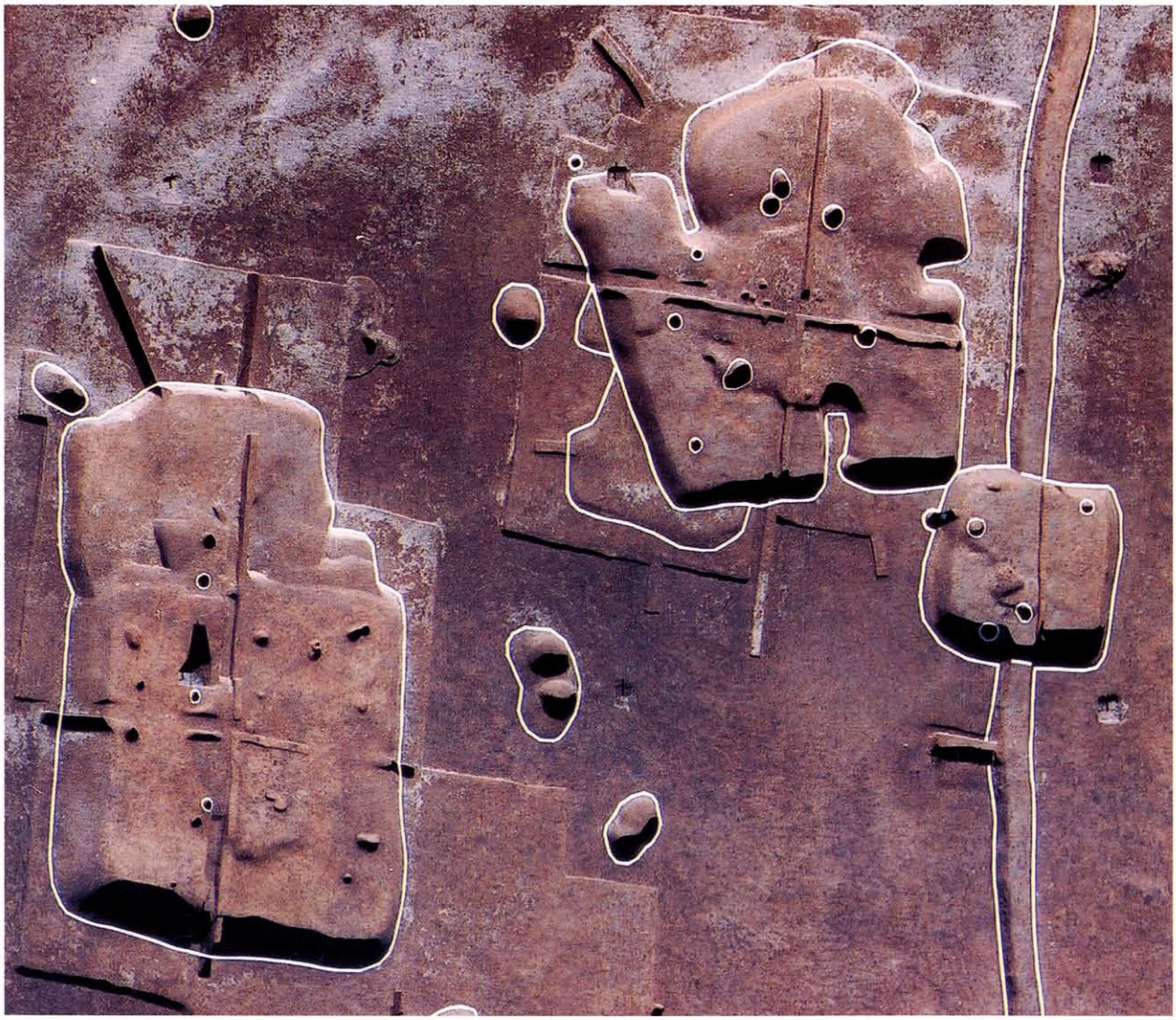
Ⅴ・Ⅵ区　完掘　俯瞰（合成写真，右が北）



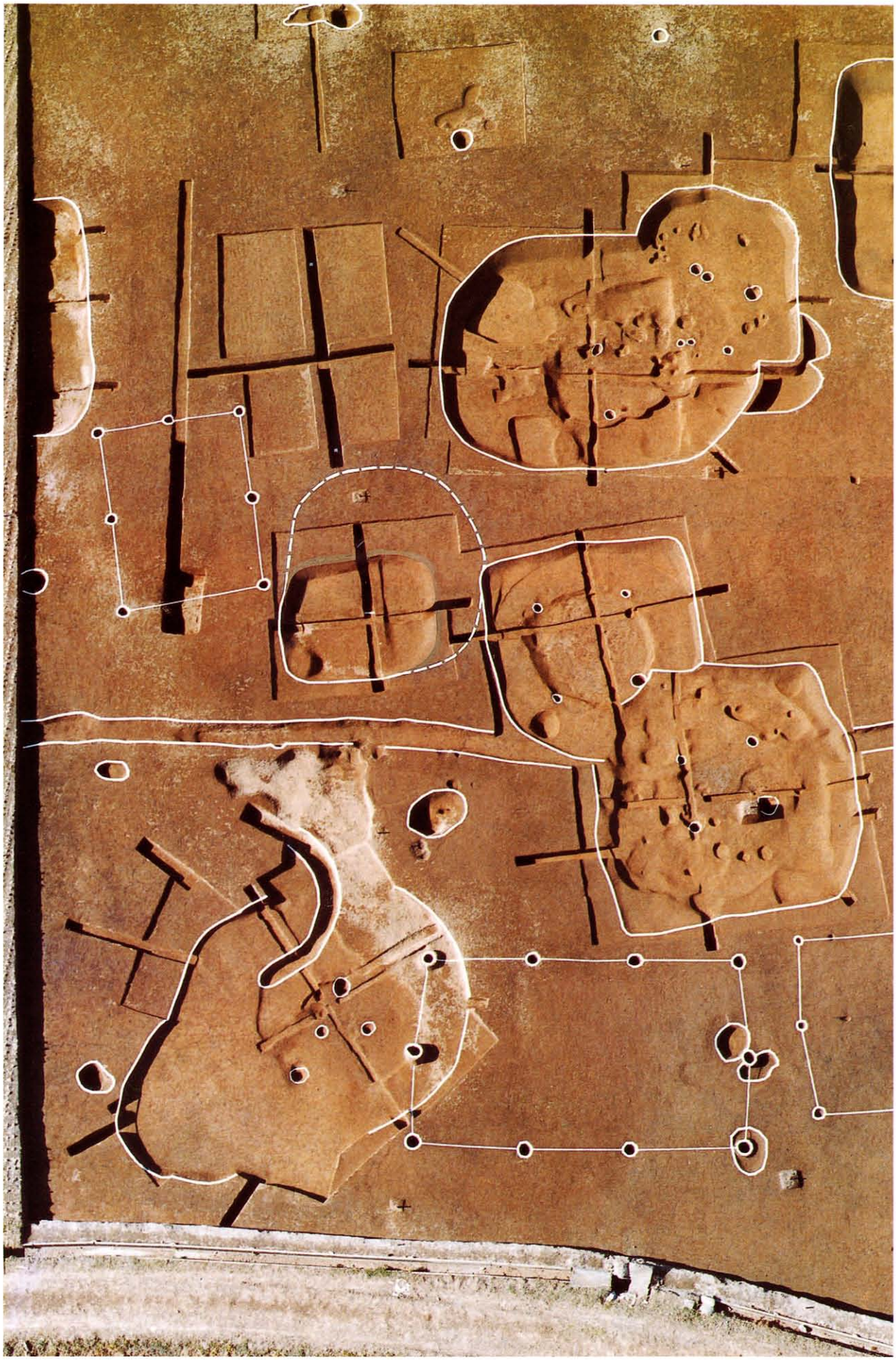
Ⅴ区　全景　俯瞰（右が北）



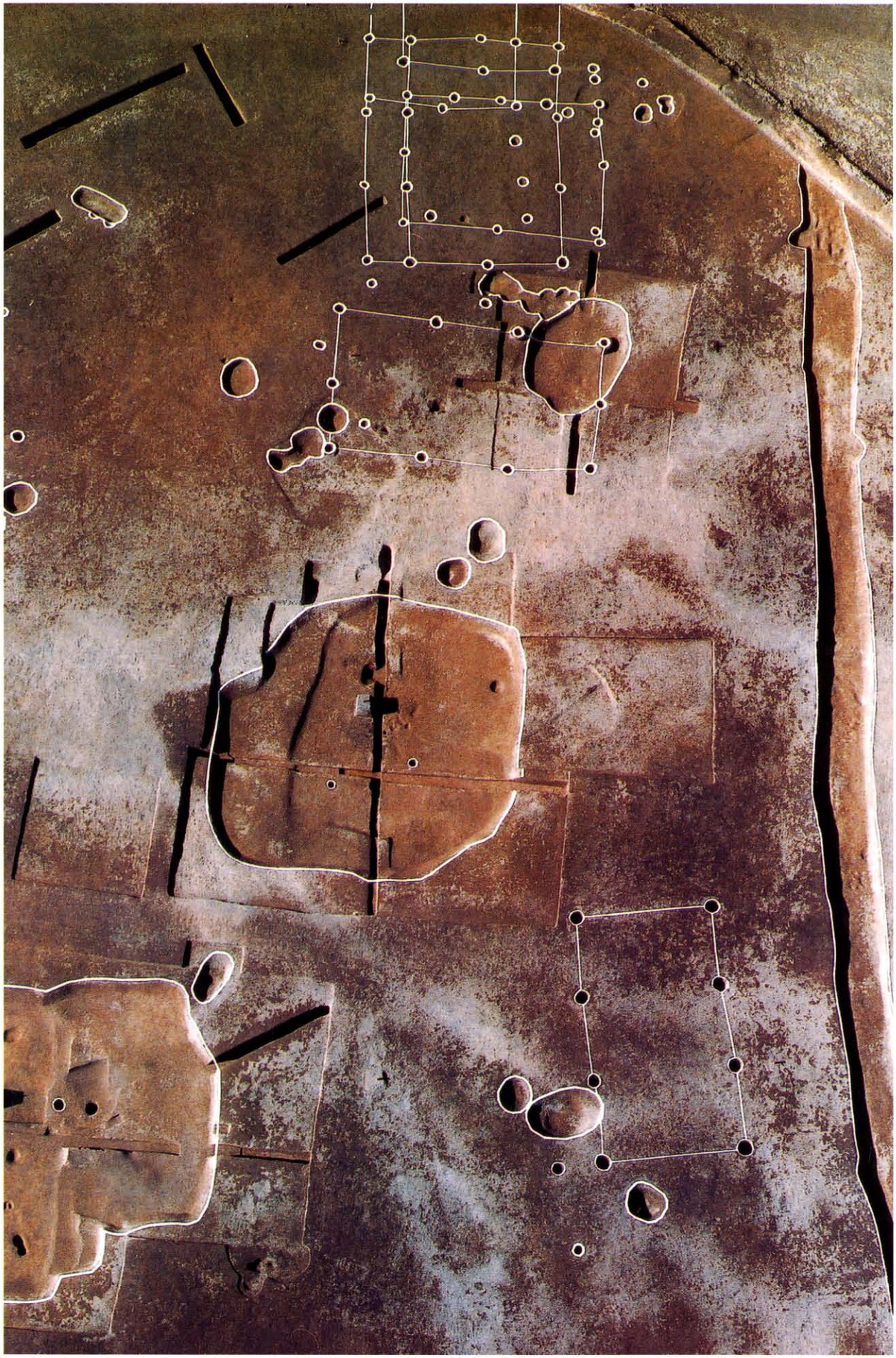
Ⅴ区　ＳＡ-01ほか　完掘全景（右が北）



ＳＡ-04・07・08・14ほか　完掘全景

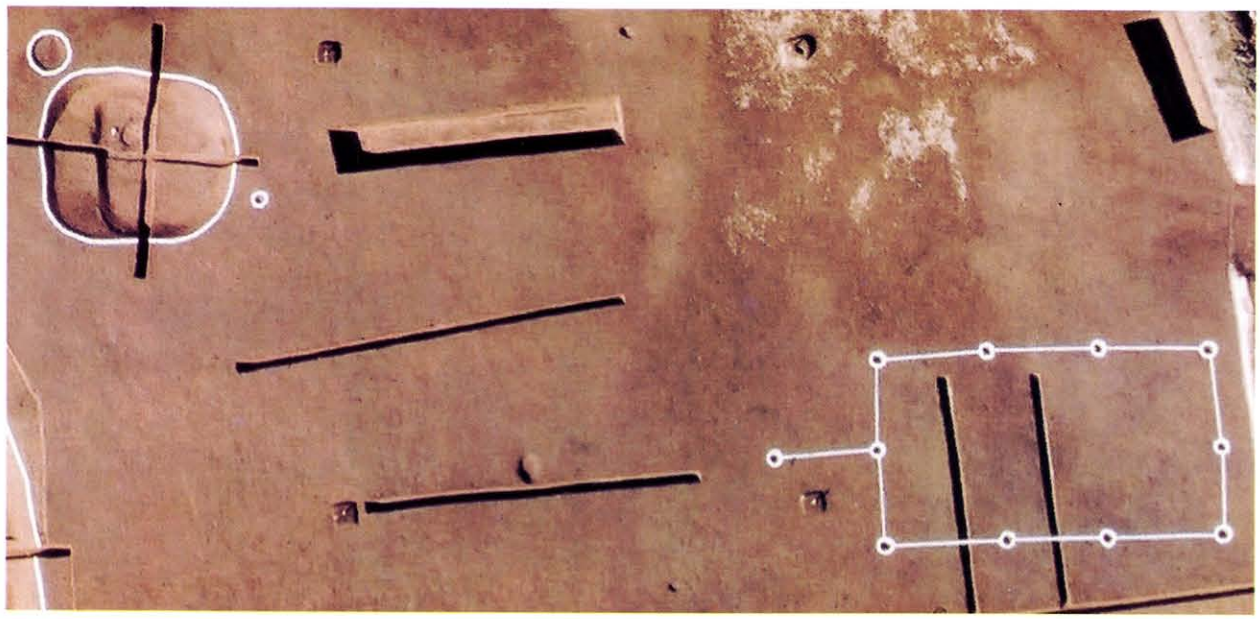


Ⅴ区　南東部　遺構分布状態（右が北）　ＳＡ-12は未完掘

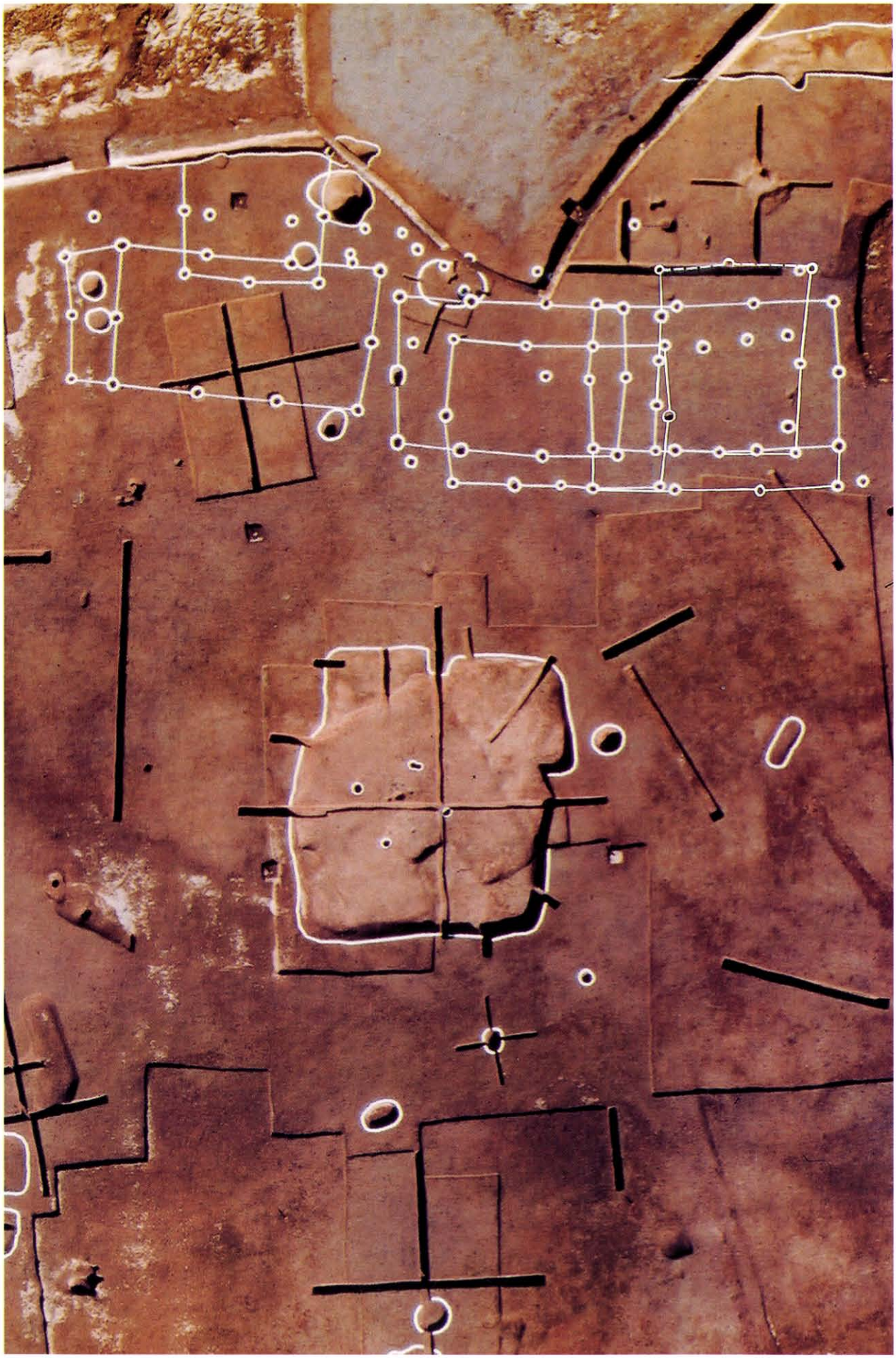


Ⅴ区　北西部　遺構分布状態（右が北）

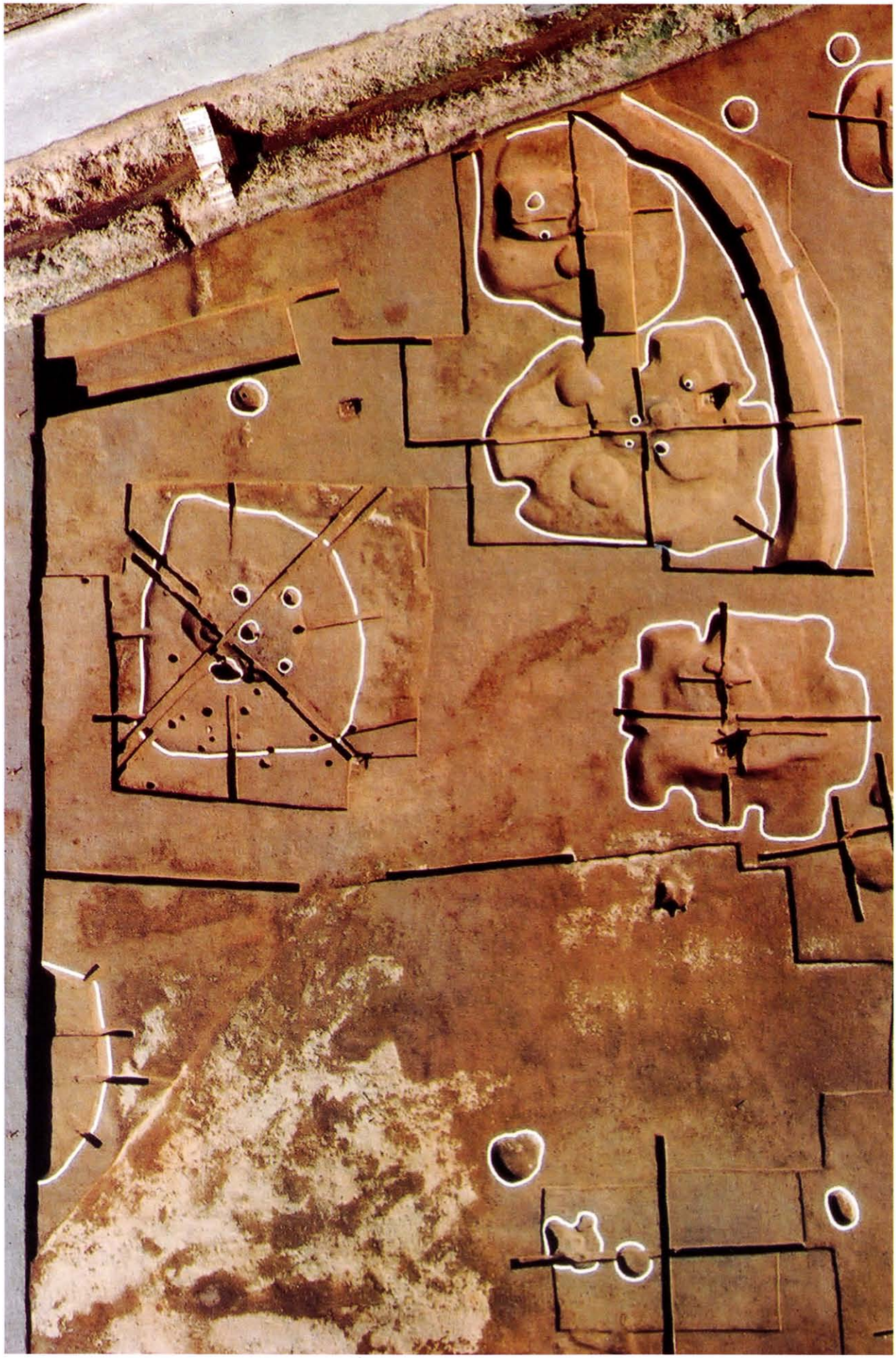
Ⅵ区　全景　俯瞰



同　ＳＡ-17・ＳＢ-12ほか　遺構分布状態（右が北）



Ⅴ区　ＳＡ-15と掘立柱建物群ほか　遺構分布状態

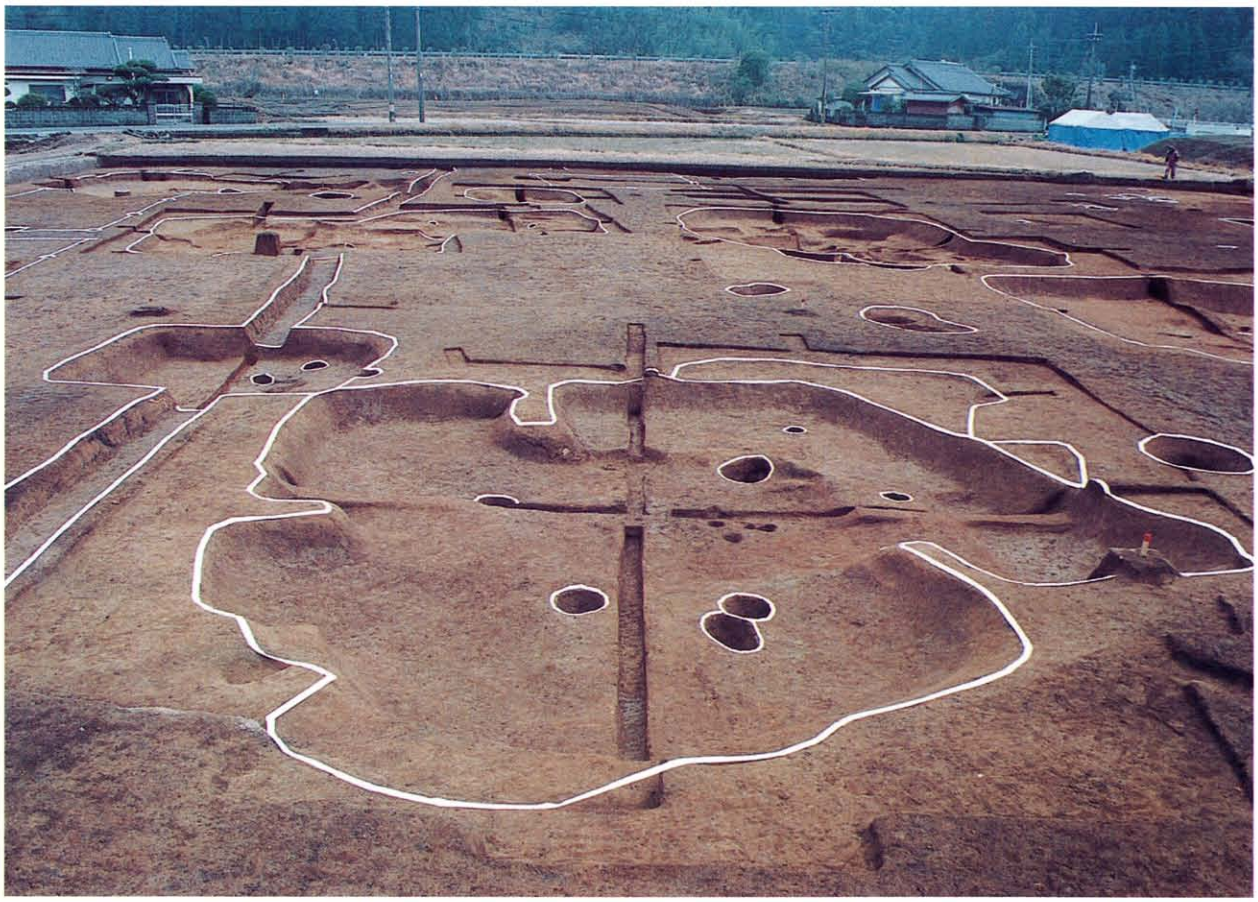


Ⅵ区南半部　遺構分布状態（右が北）

Ⅴ区　中央～東部　近景（南西から）

同　北半部　近景（南東から）

Ⅴ区　南半部　近景（東から）



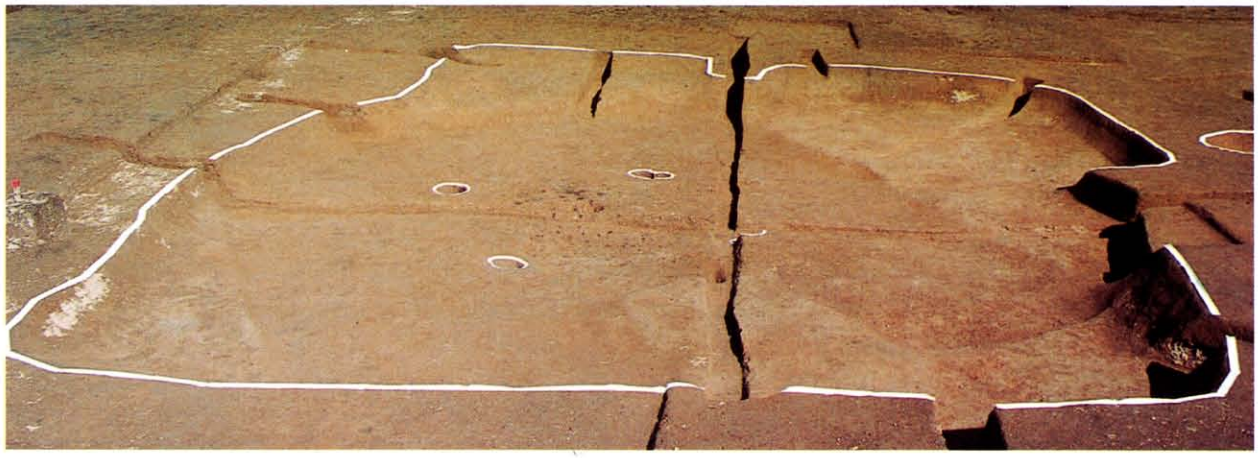
同　ＳＡ-13・04ほか　近景（北から）

Ⅴ区　中央部　近景（北から）

同　西端部　近景（北から）

Ⅵ区　西半部　近景（南東から）

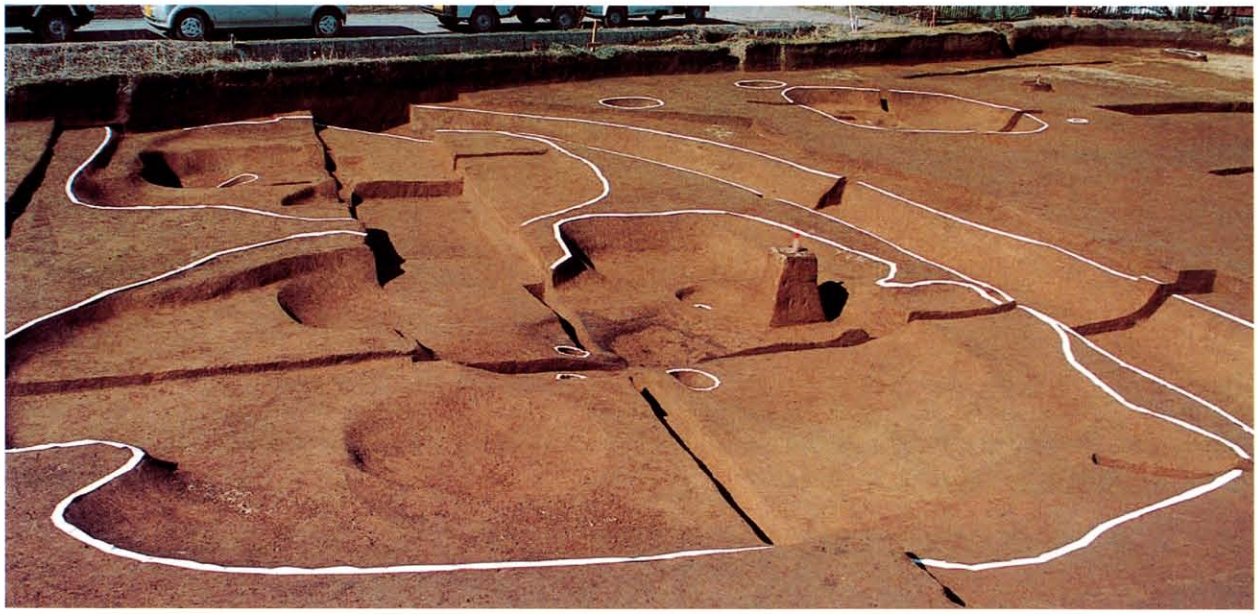
同　東半部　近景（南西から）



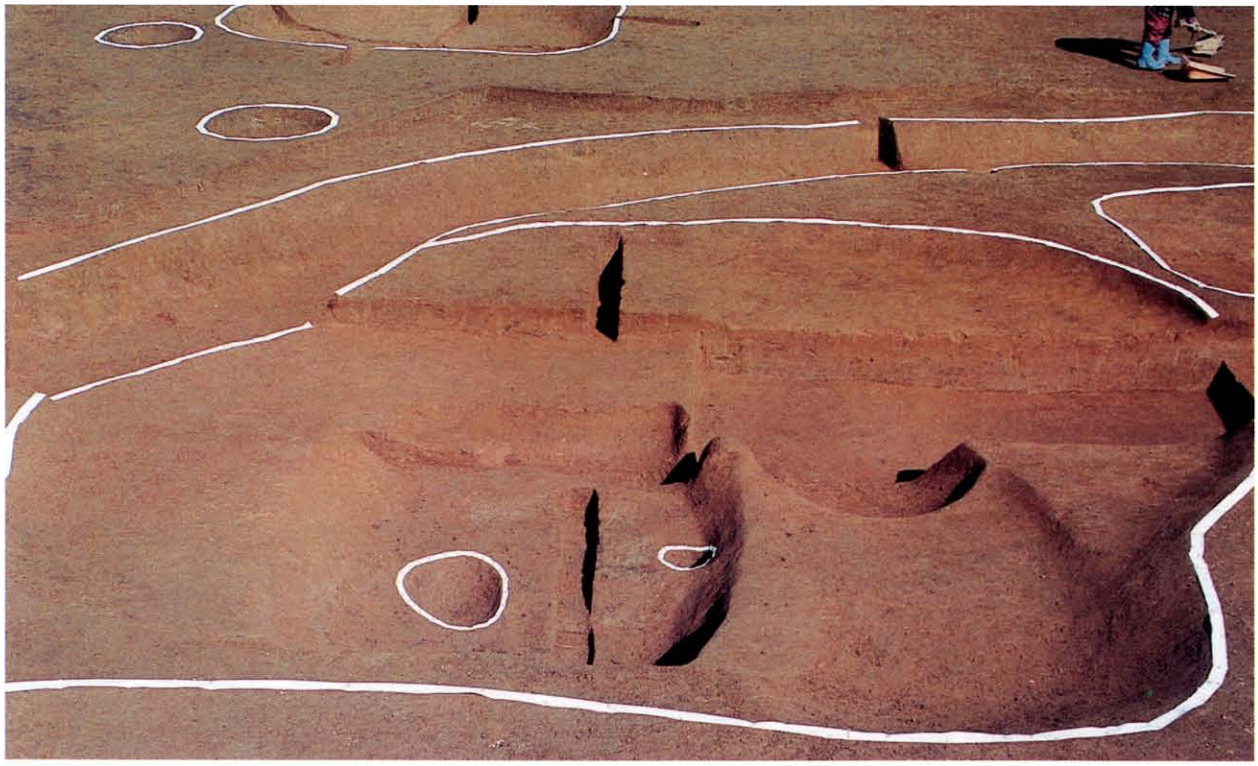
ＳＡ-15　完掘全景（南から）

ＳＡ-18　完掘全景（南から）

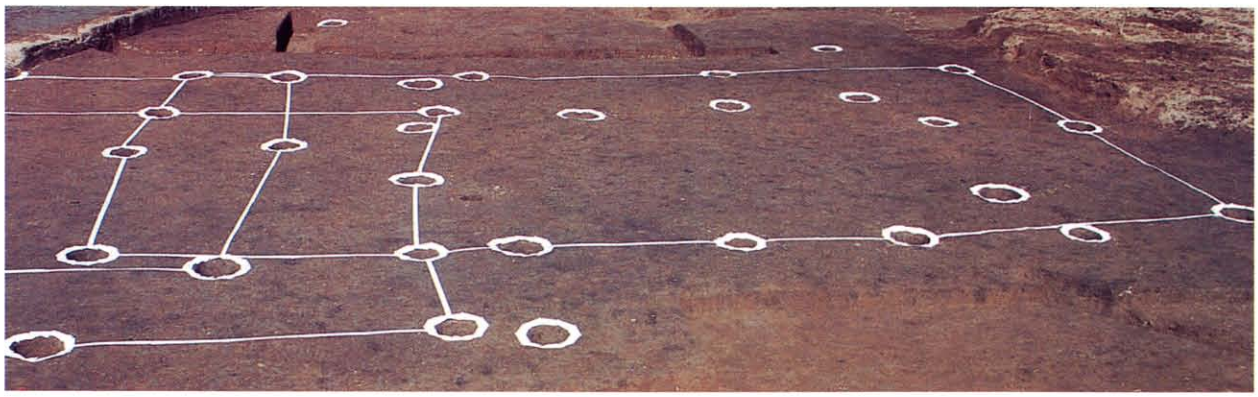
ＳＡ-19ほか　近景（南から）



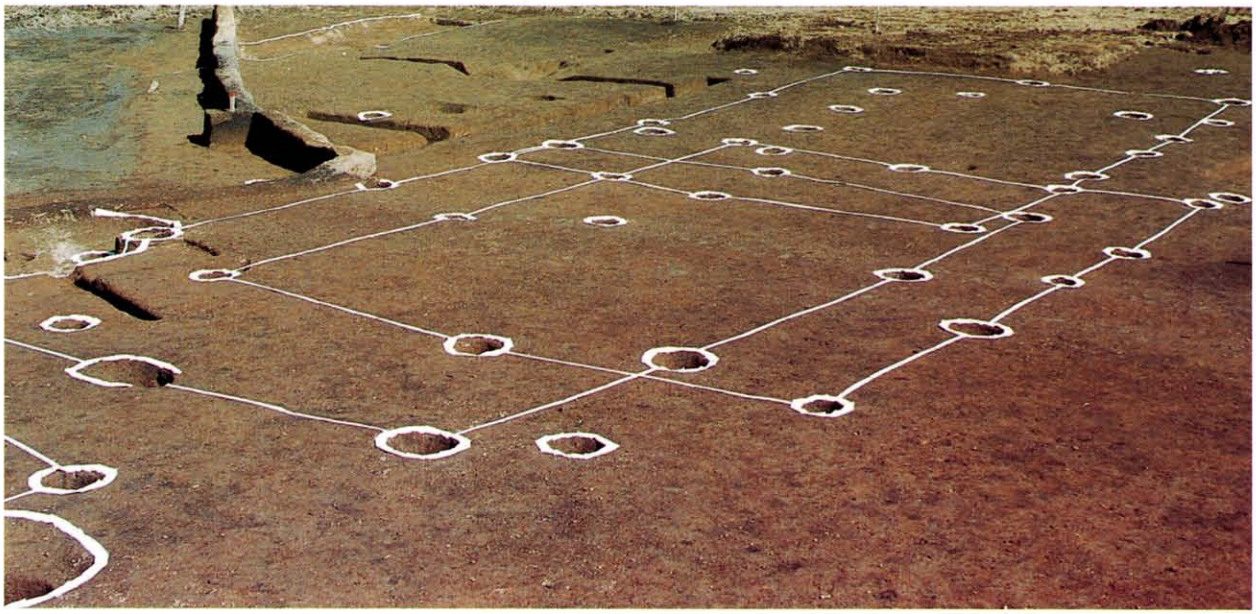
ＳＡ-20・21ほか　近景（東から）



ＳＡ-21ほか　完掘全景（南から）

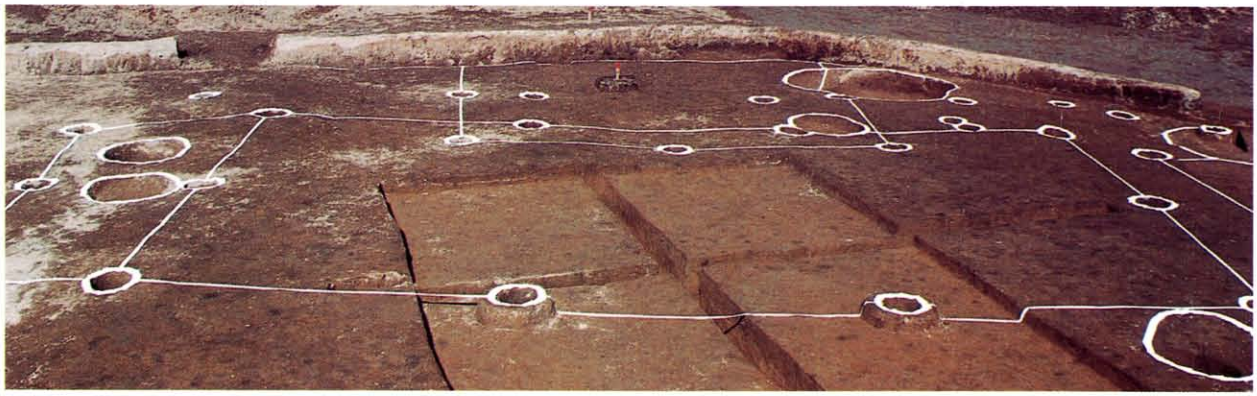


ＳＢ-09ほか　近景（南から）

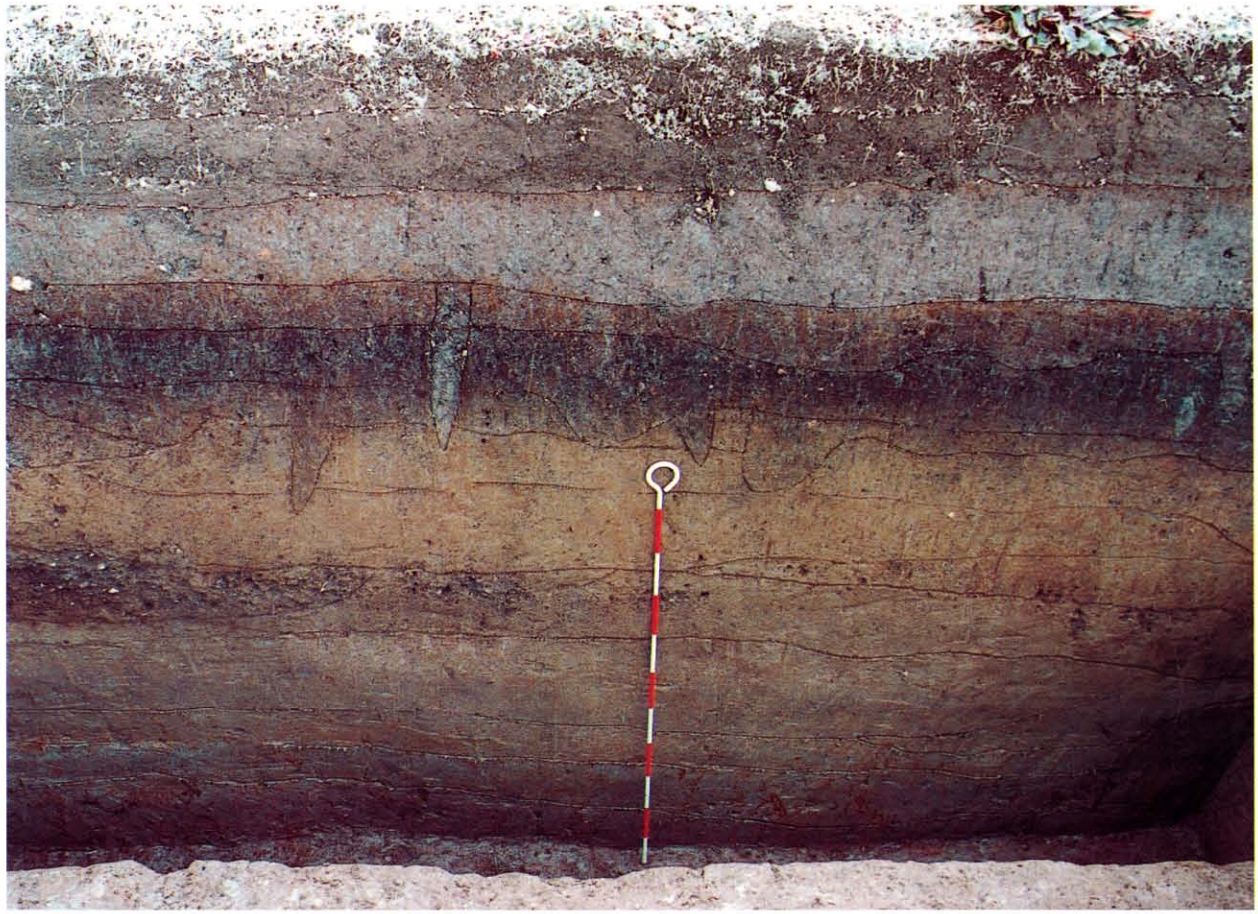


ＳＢ-09・10周辺　近景（南西から）

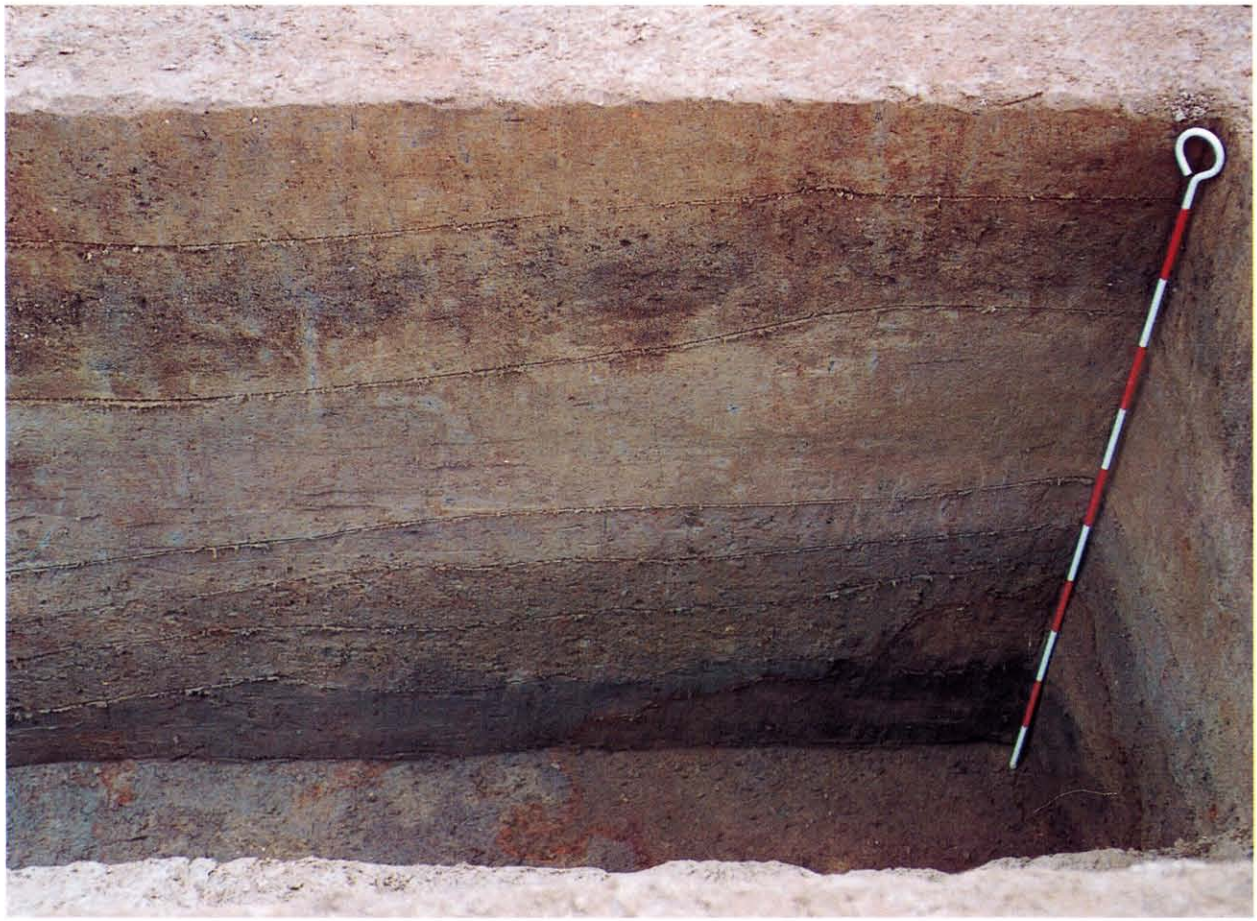
ＳＢ-09～13周辺　近景（南東から）



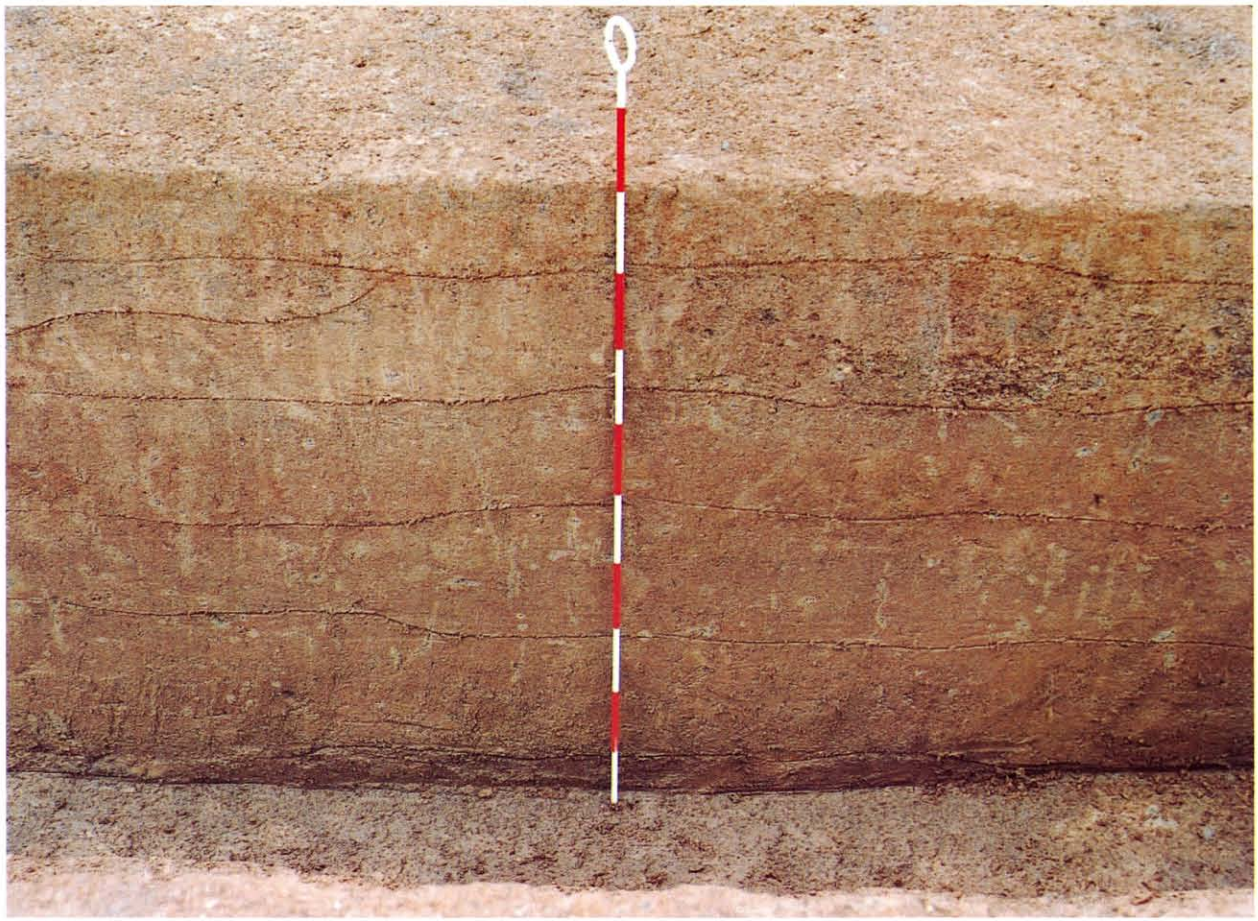
ＳＢ-13周辺　近景（南から）



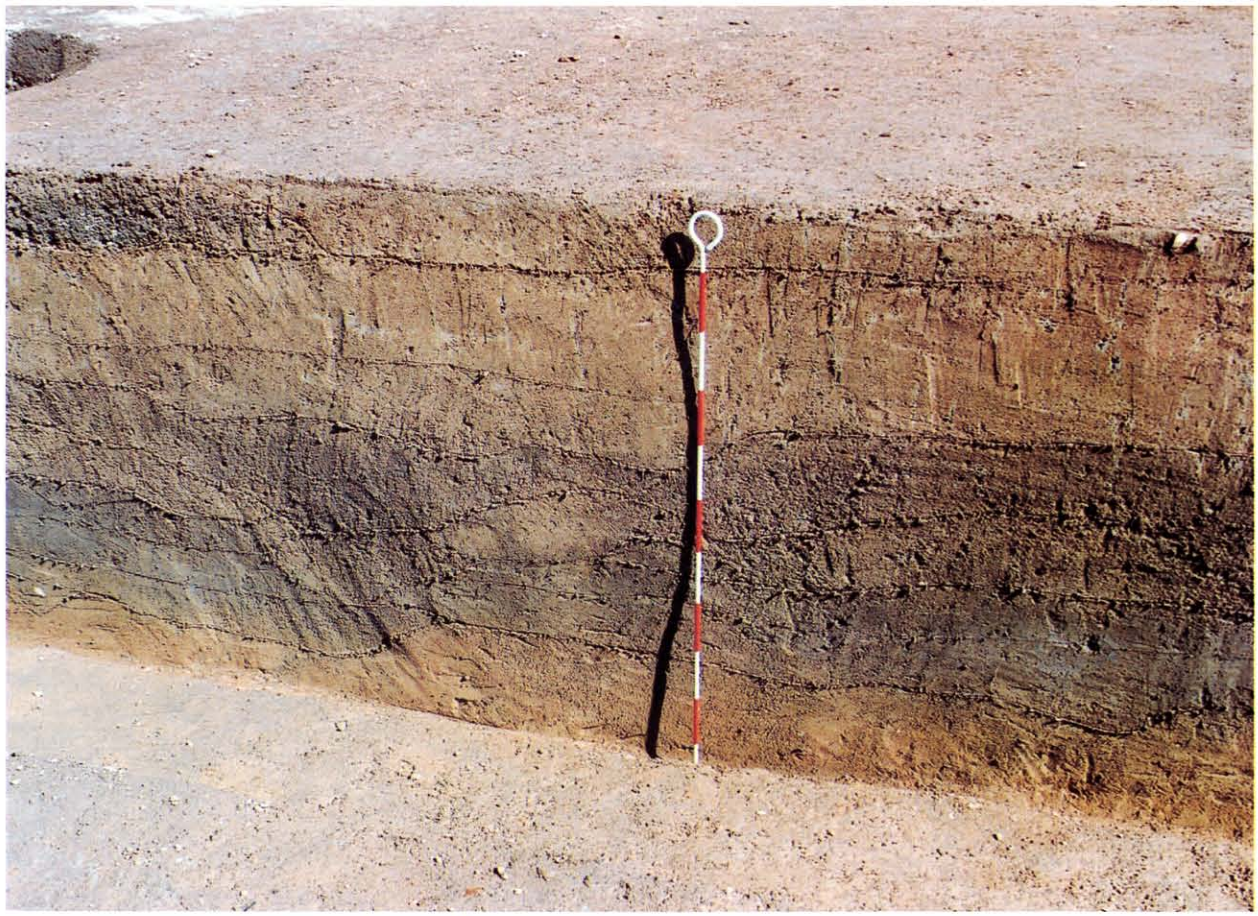
Ⅵ区　深掘抗１　北壁層序（南から）



同　深掘抗２　南側東壁層序（西から）



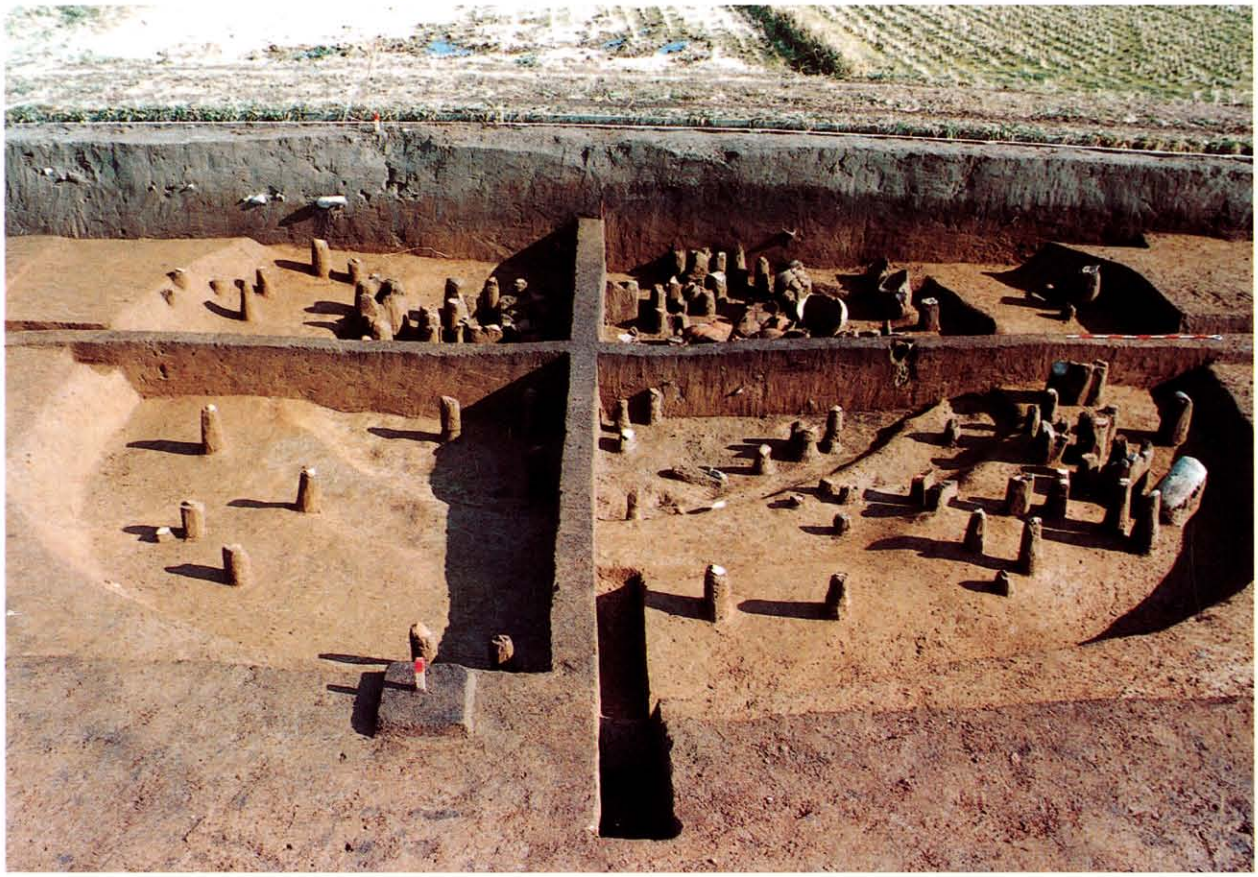
Ⅵ区　深掘抗 3　東壁層序（西から）



同　深掘抗 4　東壁層序（西から）

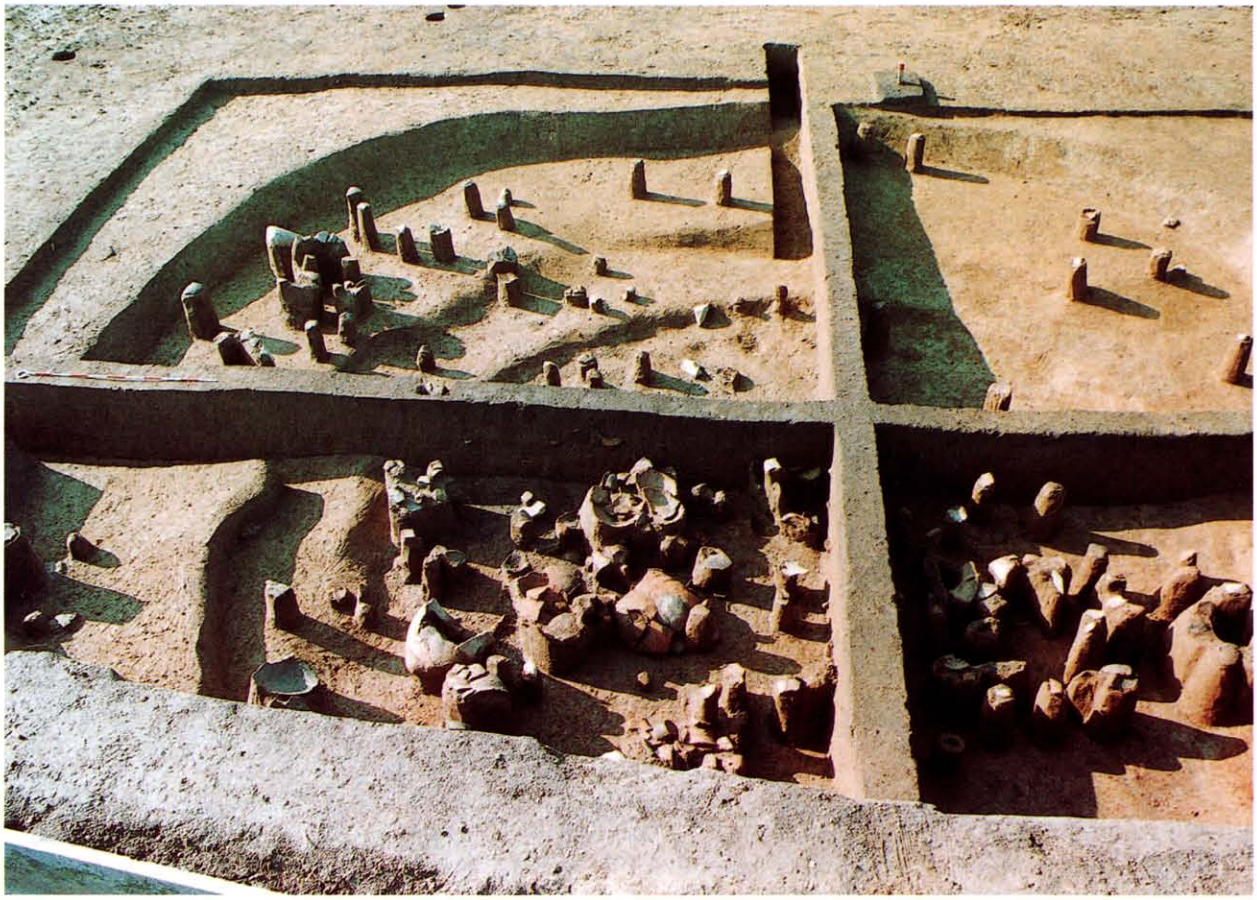
ＳＡ-01　上層遺物出土状態（西から）

同上　南半部（東から）



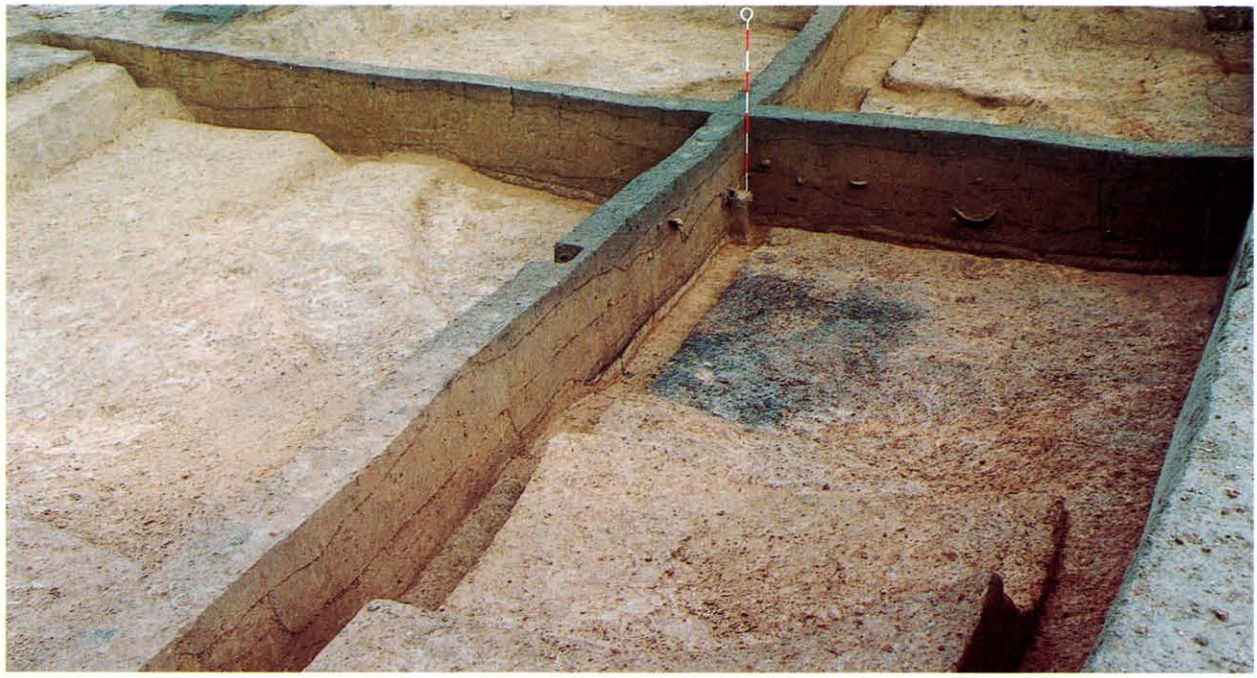
ＳＡ-01　中～下層遺物出土状態（西から）

同上　南半部（西から）

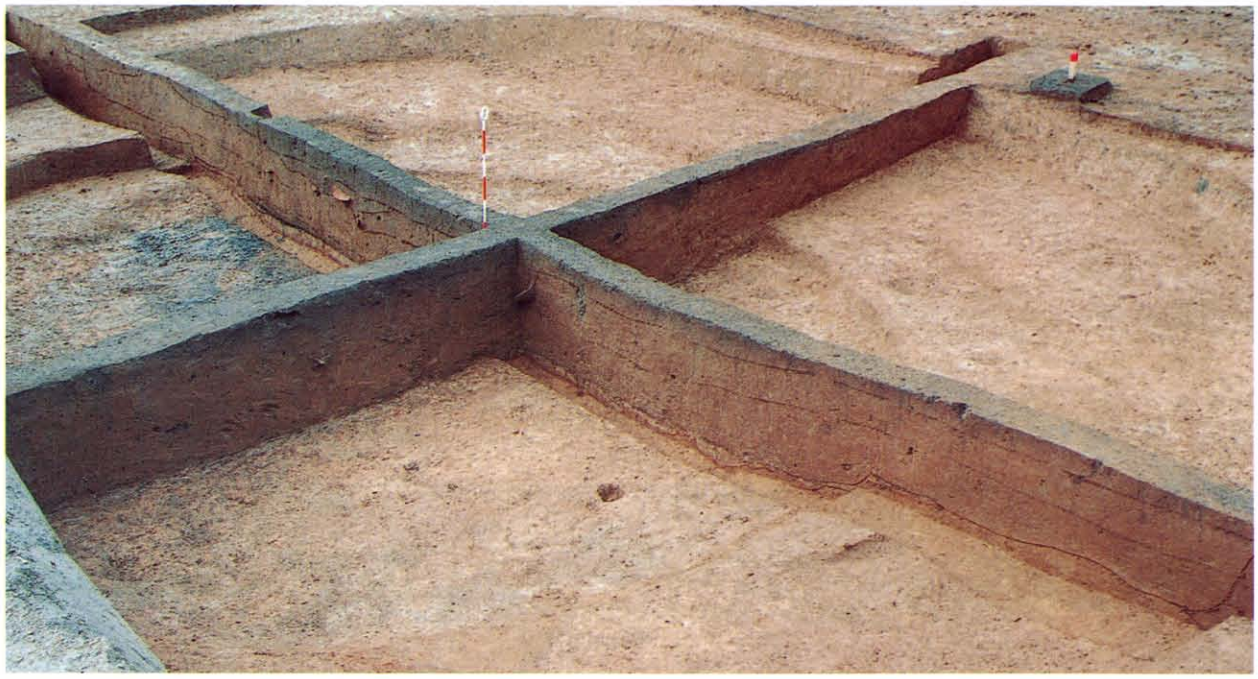


ＳＡ-01　中～下層遺物出土状態（東から）

同上　南東部（東から）



ＳＡ-01　断面層序（南東から）



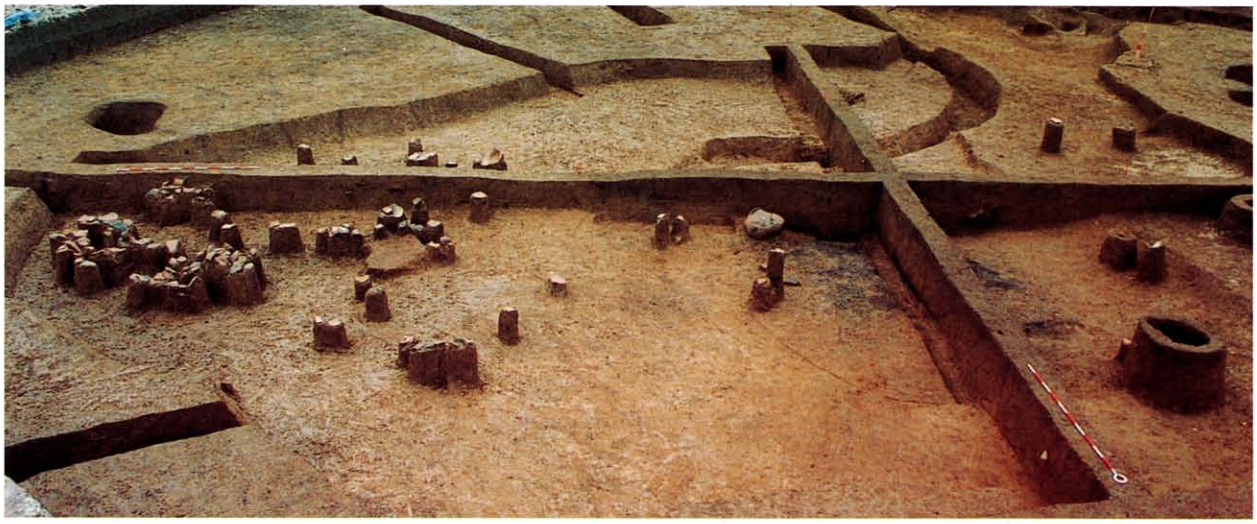
同上（北東から）

同　南北セクション南半東壁層序（東から）

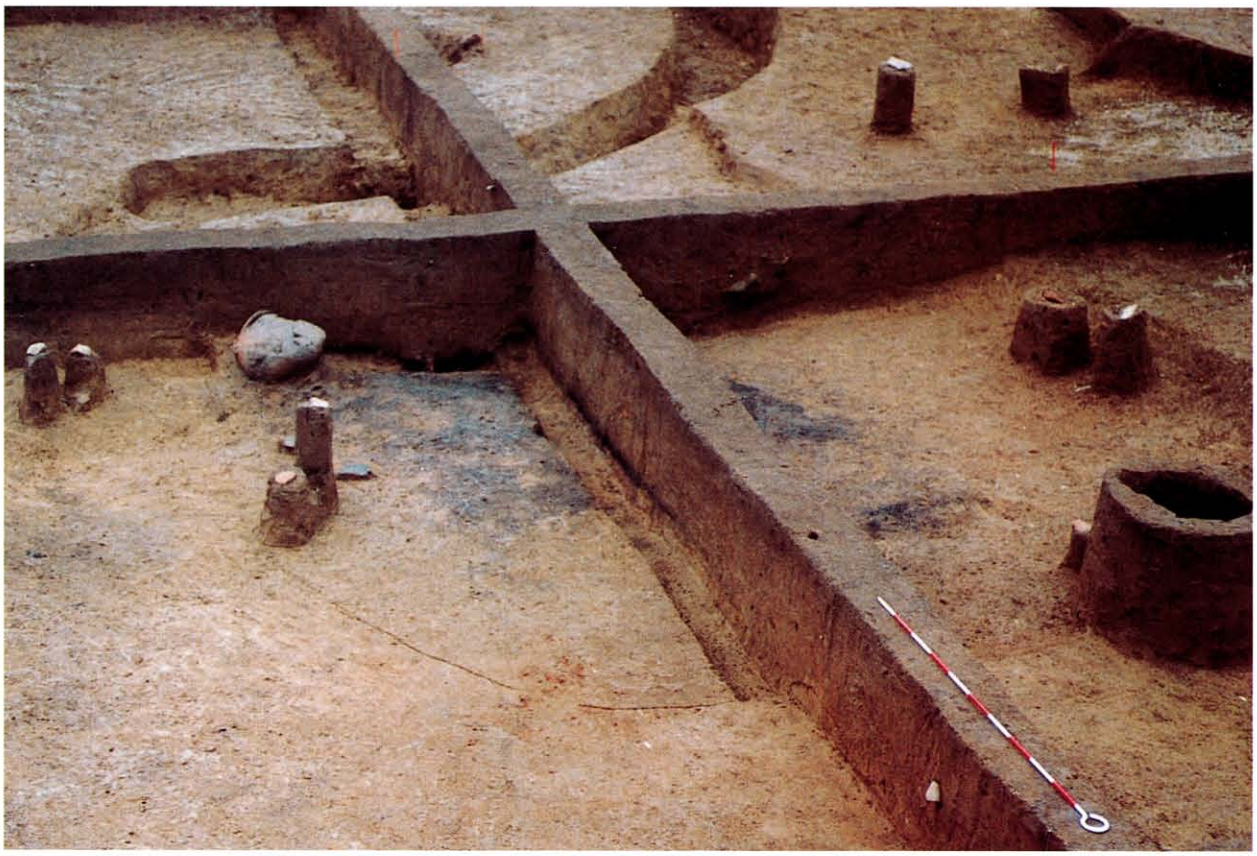
ＳＡ-01　東西セクション南壁断面層序（南から）

同上　東半部（南から）

同上　完掘全景（西から）

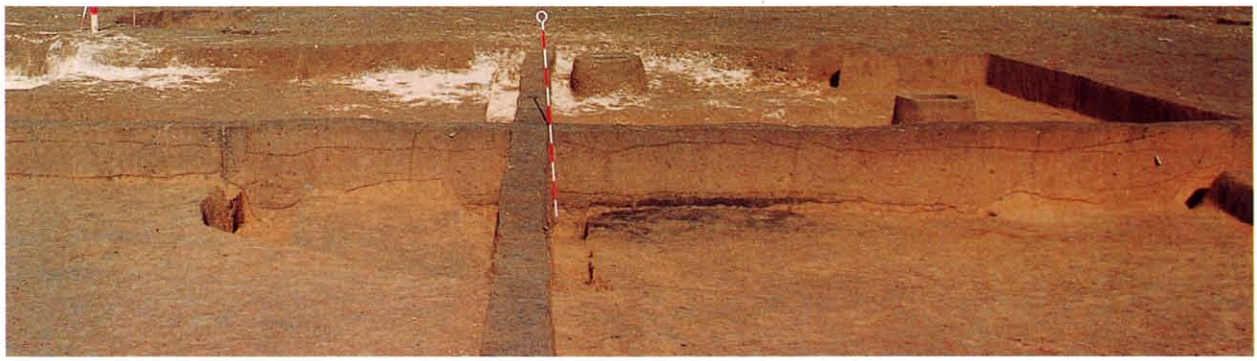


ＳＡ-02・03　遺物出土状態（北東から）



ＳＡ-02　遺物出土状態（北東から）

ＳＡ-02・03　南北セクション東壁層序（北東から）

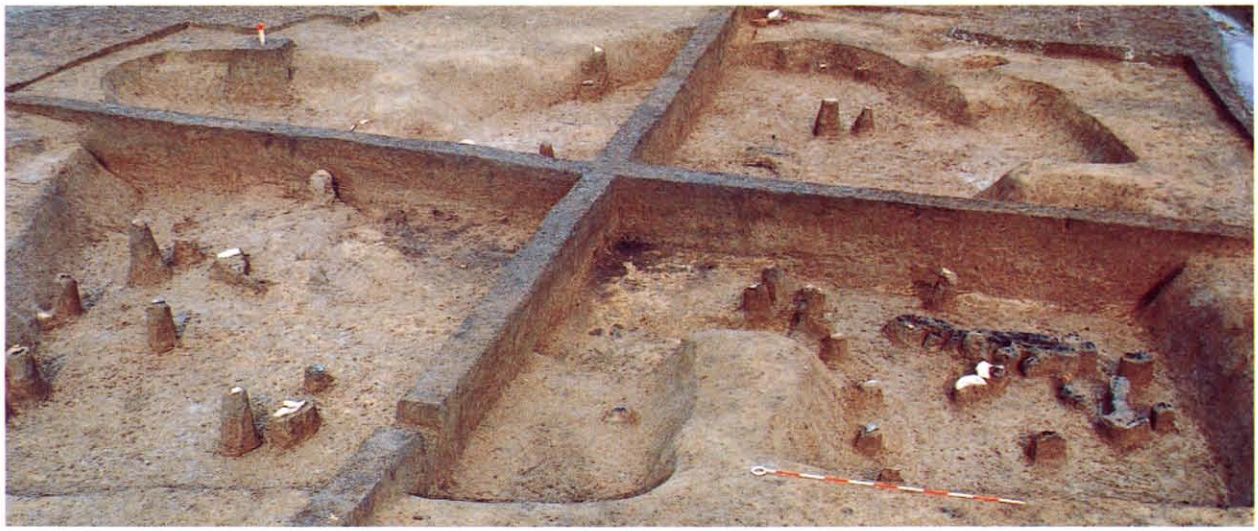


ＳＡ-01　東西セクション南壁層序（南から）

ＳＡ-02　遺物出土状態（東から）

同上（南から）

ＳＡ-04
上面
遺物出土状態
（南東から）

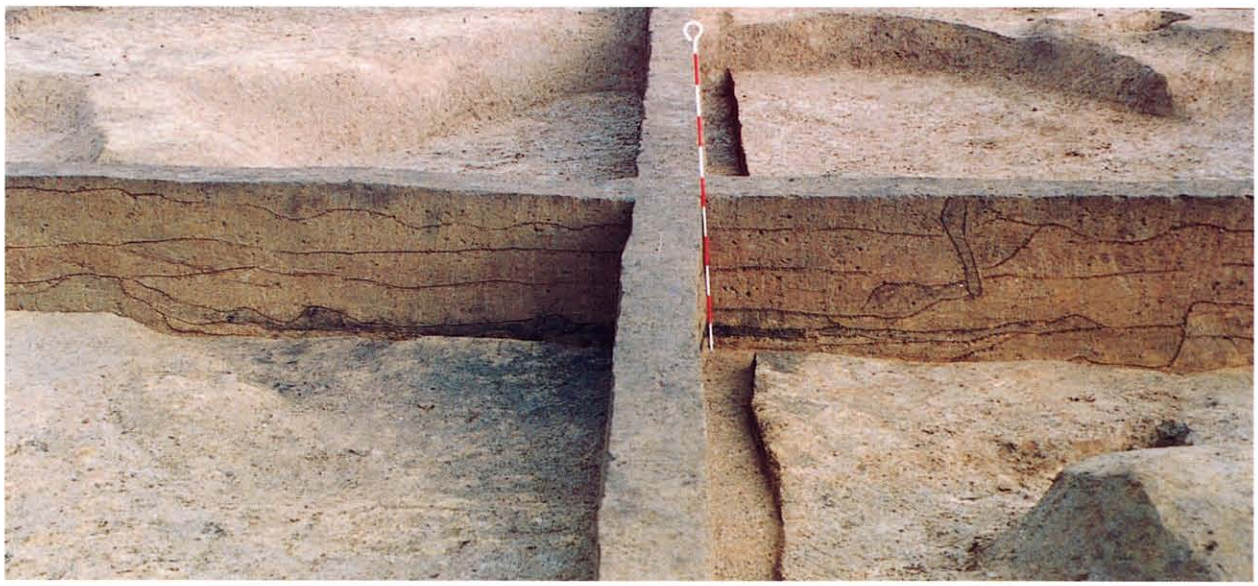


同　遺物出土状態（南から）

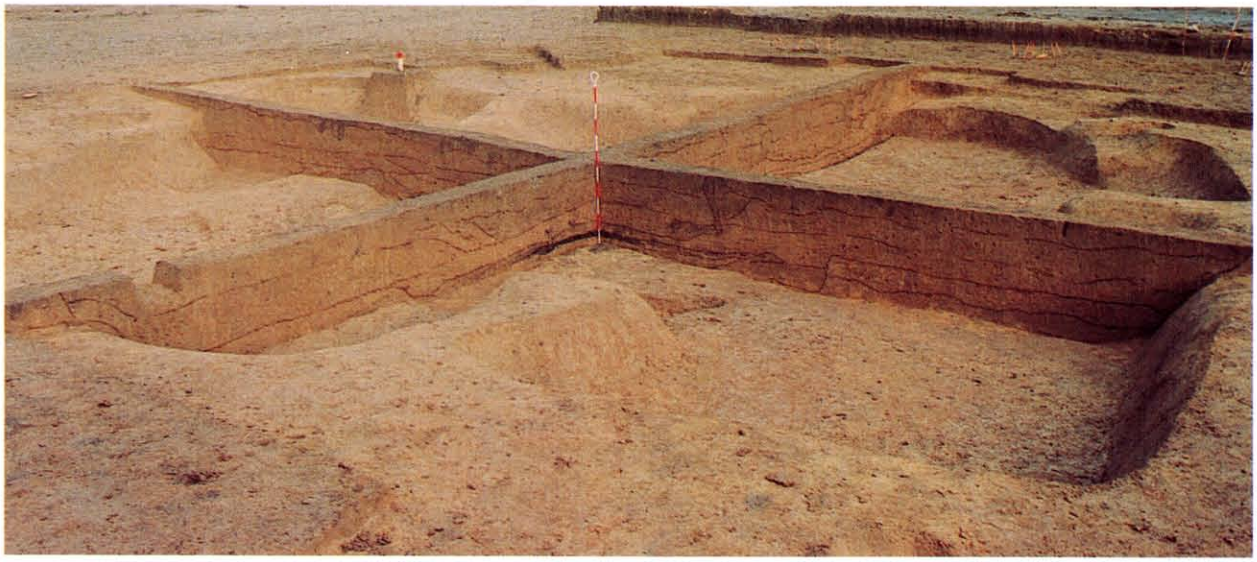
同上（東から）

ＳＡ-04　南東部　遺物・炭化材出土状態（東から）

同　断面層序（南東から）



同上　東西セクション中央部　断面層序（南から）



ＳＡ-04　断面層序（南東から）

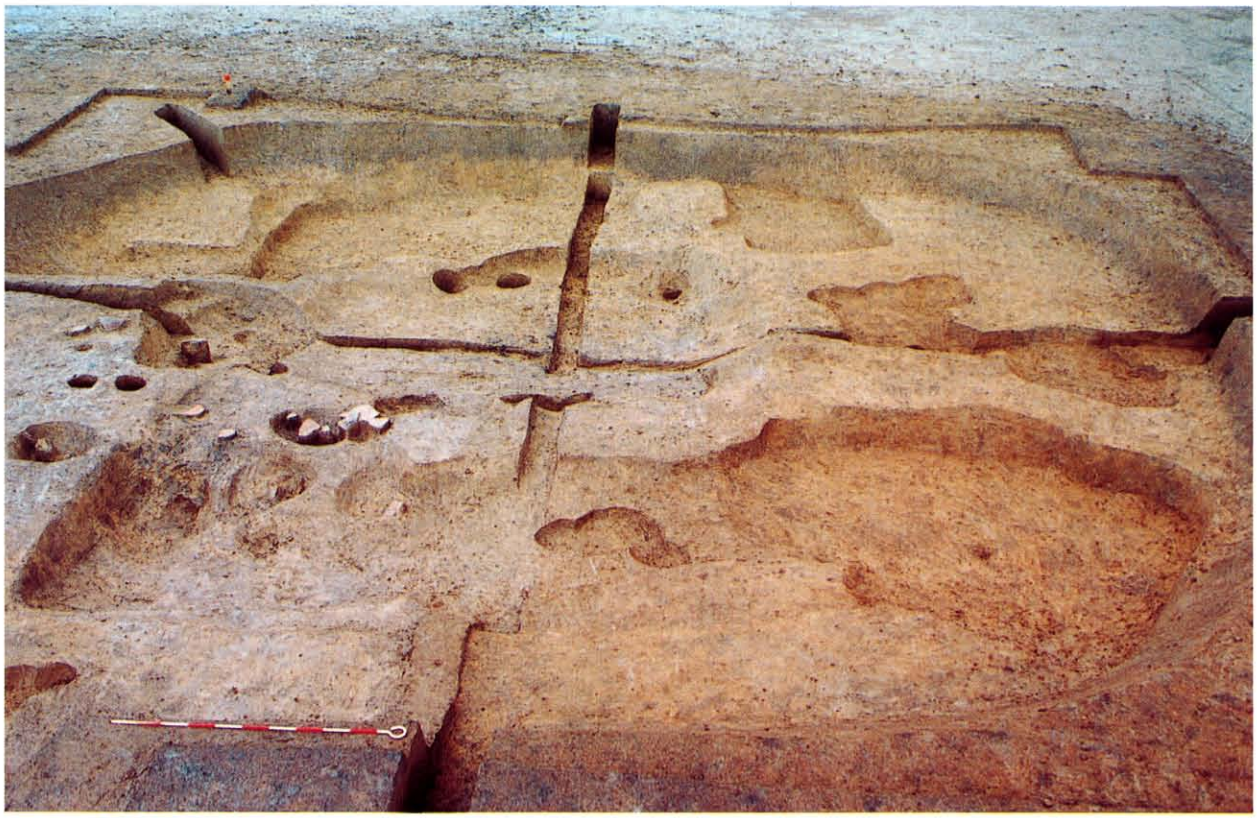
同　完掘全景（南東から）

ＳＡ-05　遺物出土状態（南から）

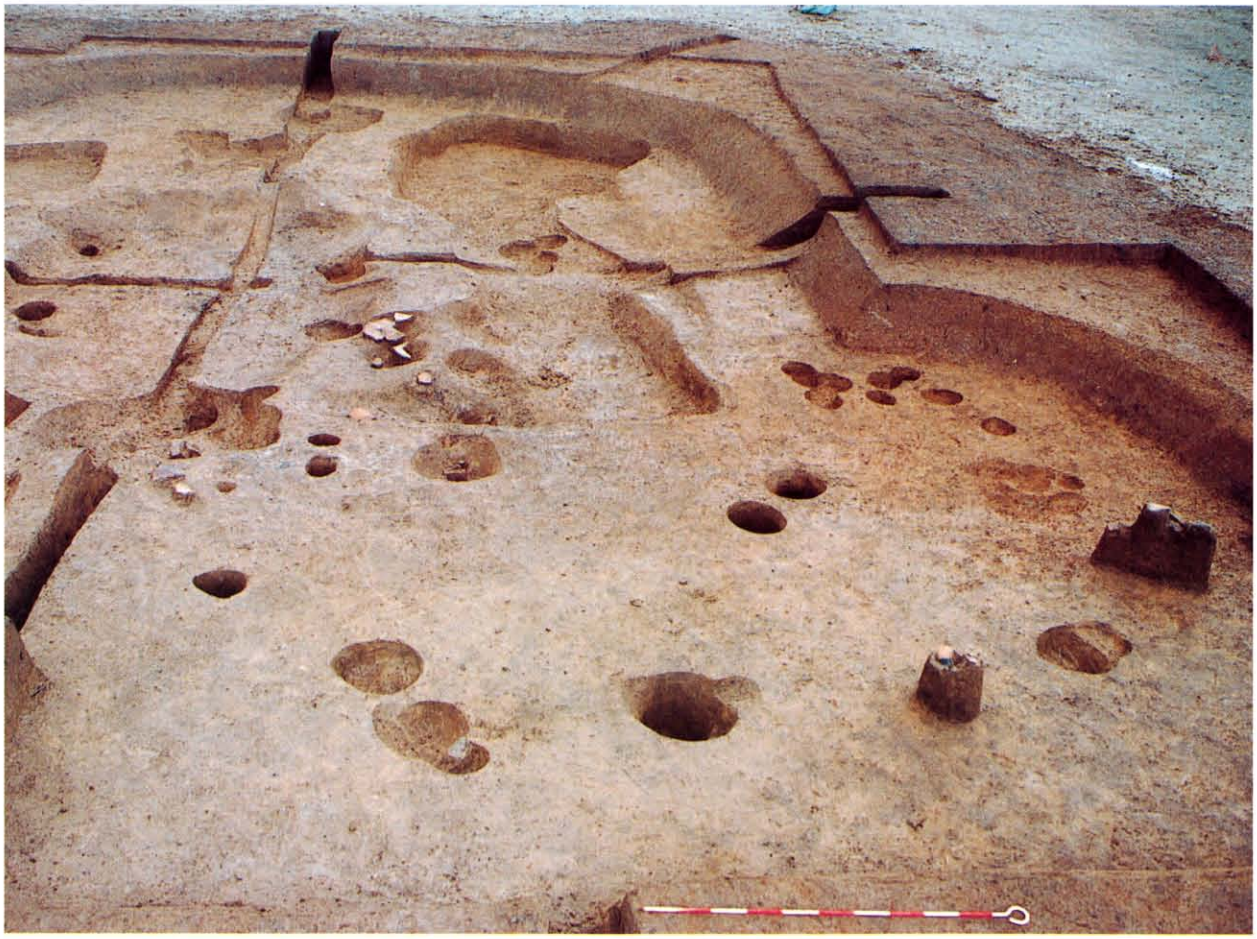
ＳＡ-05　遺物出土状態（東から）

同　断面層序（南東から）

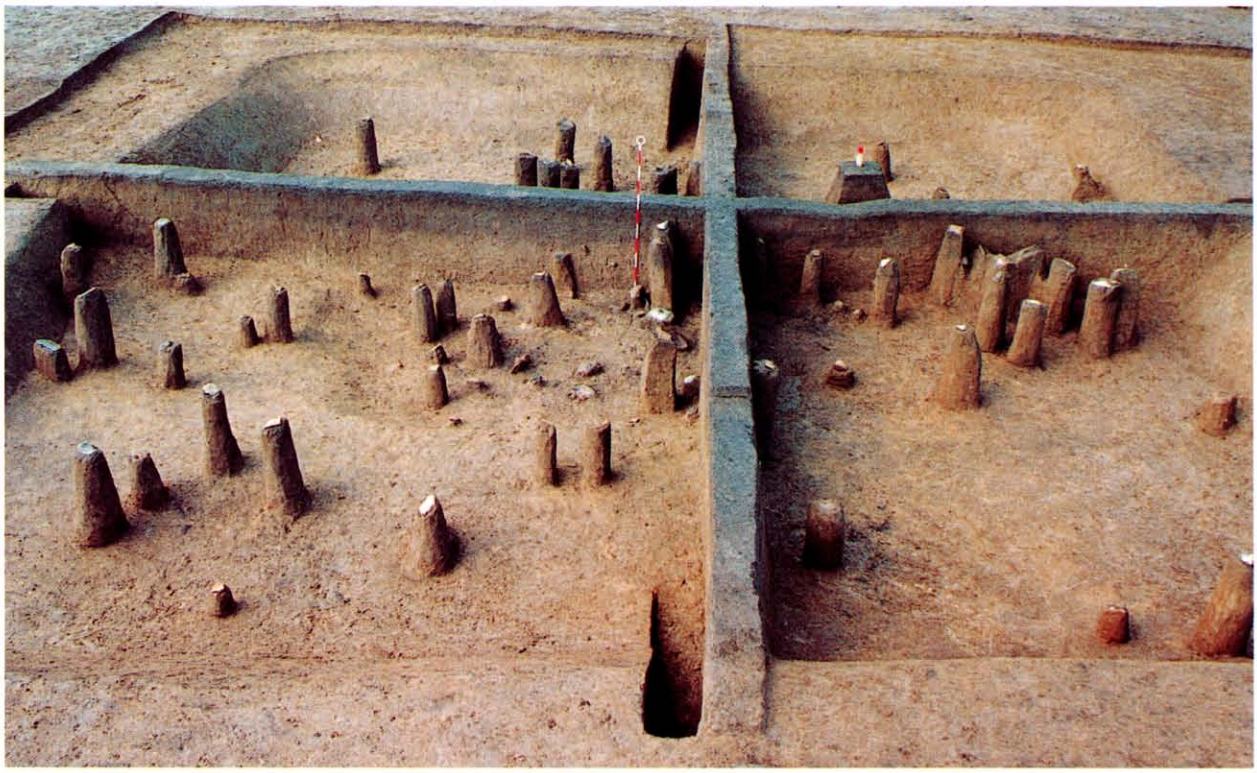
同上　中央部　断面層序（南から）



ＳＡ-05　底面　遺物出土状態（西から）



ＳＡ-05　底面・ＳＡ-06　遺物出土状態（北から）



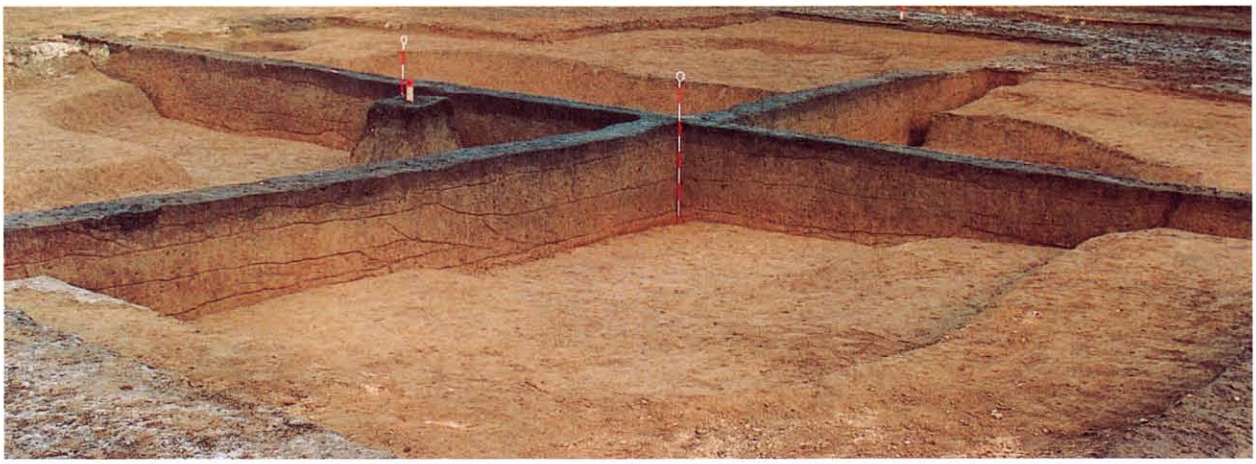
ＳＡ-07　遺物出土状態（東から）

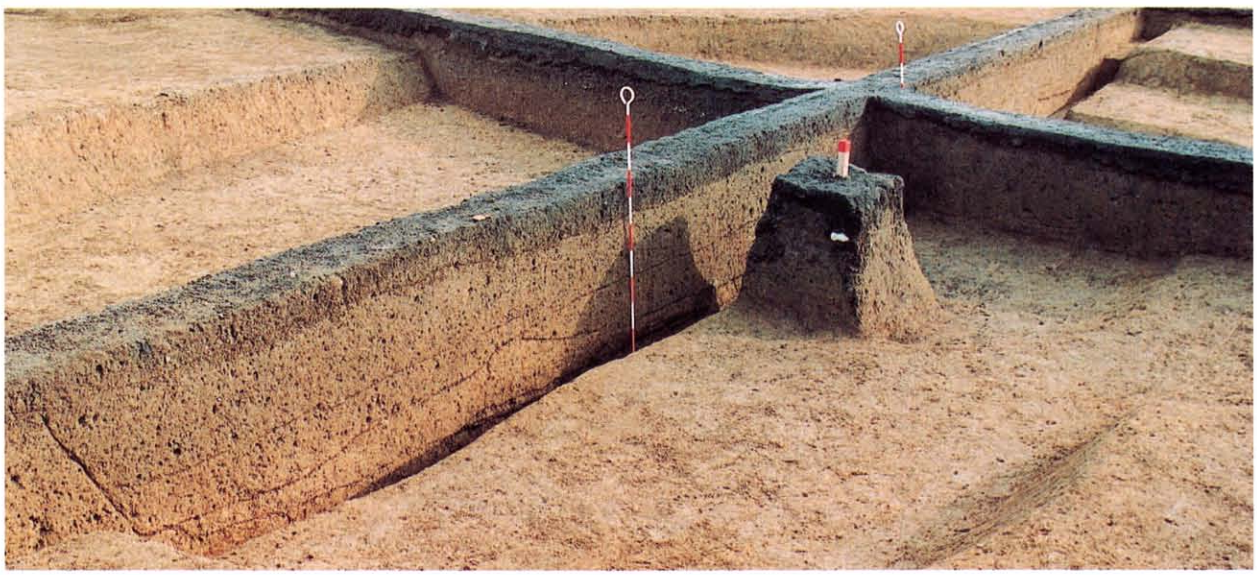
同上　中央南東部（南東から）

ＳＡ-07　断面層序（南東から）

同上

同　南北セクション南半部　東壁層序（東から）





上：ＳＡ-09　遺物出土状態（南西から）　２段目：断面層序（南東から）

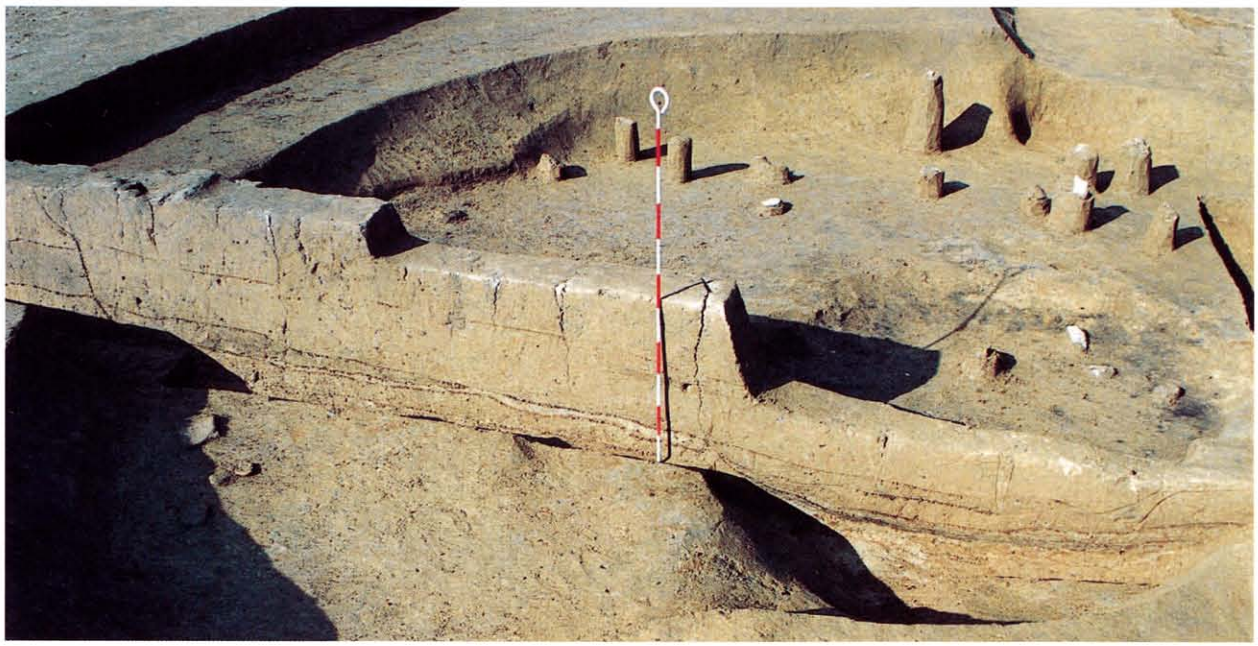
３段目：東西断面層序（南から）下：（南西から）

上：ＳＡ-10　遺物出土状態（北西から）　中：同（北東から）　下：完掘・断面層序（北東から）

上：ＳＡ-11　遺物出土状態（南東から）　中：断面層序（南東から）　下：（南から）

ＳＡ-12　遺物出土状態（南東から）

同上　断面層序（南東から）



同　航空写真後再検出・掘込後　断面層序・遺物出土状態（南から）

ＳＡ-12　再調査　遺物出土状態・断面層序（南から）

同上　完掘全景（南から）

上：ＳＡ-13　遺物出土状態（東から）　中：東西断面層序（南東から）　下：南北断面層序（東から）

上：ＳＡ-14　遺物出土状態（東から）　中：（南から）　下：断面層序（東から）

上：ＳＡ-15　遺物出土状態・断面層序（南東から）　中：（南西から）　下：中央部（西から）